

令和4年度(2022)

和歌山県地域医療支援センター

# 夏季実習 報告書



和歌山県

地域医療支援センター

CMSC  
COMMUNITY MEDICAL SUPPORT CENTER

[www.cmsc.jp/](http://www.cmsc.jp/)

令和4年度  
和歌山県地域医療支援センター

# 夏季実習 報告書





## Contents



- ご挨拶 ..... 2
- 実施項目 ..... 3
- 病院・診療所実習 ..... 4
- 保健所実習 ..... 99
- 交流会・実習報告会 ..... 124
- おわりに ..... 126







## ご挨拶

和歌山県立医科大学地域医療支援センター センター長・教授  
和歌山県地域医療支援センター センター長

### 上野 雅巳

平成23年度から実施している夏の病院実習につきましては、平成25年度から本学医学部地域医療枠学生と和歌山県出身の自治医科大学医学部学生、また、平成27年度からは近畿大学医学部和歌山県地域枠学生の実習希望者と共に合同実習という形で行っております。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度は中止、令和3年度は本学学生に限った実施となりましたが、今年度につきましては、3年ぶりに自治医科大学及び近畿大学の学生も加わった実習を再開できましたことをここにご報告でき、大変嬉しく思います。

ご協力いただきました県内各病院・診療所、保健所、大学の先生方及びスタッフの方々には、コロナ禍でご多用のところ多大なるお力添えをいただき、厚く御礼申し上げます。

今年の夏は折しも新型コロナウイルス感染症の第7波で医療体制が逼迫している中でしたが、教育活動につきましては、可能な限り対面実習による学習の機会を提供していくことが大事であると考え、健康管理・感染対策を徹底した上で実習を実施しました。この実習の目的としては、学生が卒業後勤務する予定の県内各病院・診療所や保健所での実習を通して、地域医療への理解を深めること、様々な手技を体験すること、また先輩医師との交流の場を設けることなどが挙げられます。

本学2～5年生と自治医科大学1～5年生は、県内公的病院・診療所で2日間の実習を行い、地域医療の実際の現場に触れることができました。本学1年生につきましては、保健所で1日間の実習を行いました。地域における保健所の役割や仕組みを学び、理解を深めることができましたと思います。近畿大学学生は、本院において1日間の病院見学を行い、卒業後の研修プログラムなどについても知ってもらう機会となりました。

実習終了後には本学医学部地域医療枠学生・医師を対象としたオンライン実習報告会及び交流会を実施し、他学年や先輩医師と意見交換を行う場を設けました。実習内容を共有することや先輩医師からの貴重なお話を聞くことにより、医師としての将来像がより鮮明になったかと思えます。

このような実習や交流会を通して、学生たちが互いに刺激し合い、共に高め合い、本県の地域医療を担う立派な医師へと成長してくれることを心より願っています。

私たち地域医療支援センター教職員一同、今後も学生たちが安心して卒業後の勤務に臨めるよう、サポート体制などの環境作りに取り組んで参りたいと思います。

# 実施項目

## ○ 実習の目的

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠学生、自治医科大学医学部学生及び近畿大学医学部和歌山県地域枠学生が、県内へき地医療拠点病院・診療所等や保健所等の医療現場で実習・見学を行い、医師を志す者として地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めることを目的とする。

## ○ 参加者

- |                          |     |      |
|--------------------------|-----|------|
| ● 和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2～5年生 | 38名 |      |
| ● 和歌山県立医科大学医学部地域医療枠1年生   | 10名 |      |
| ● 自治医科大学医学部1～5年生         | 12名 |      |
| ● 近畿大学医学部和歌山県地域枠学生       | 2名  | 計62名 |

## ○ 実習日程

〈へき地医療拠点病院・診療所等実習〉

令和4年7月19日(火)～8月19日(金)の2日間

〈保健所実習〉

令和4年7月21日(木)～8月18日(木)の1日間

〈和歌山県立医科大学附属病院見学〉

令和4年8月29日(月) 1日間

## ○ オンライン交流会・実習報告会

〈日 程〉 令和4年8月20日(土) 18:00～19:10

〈内 容〉 ①学生による実習報告会

②学生・医師混合の4人1グループによる交流会

〈参加者〉 計52名

# 病院・診療所実習

## 〈病院・診療所実習〉

令和4年7月19日(火)～8月19日(金)の2日間、本学地域医療枠2～5年生(38名)及び自治医科大学1～5年生(12名)が県内19か所の病院・診療所に分かれて実習を行いました。本学地域医療枠、自治医科大学及び近畿大学和歌山県地域枠出身の先輩医師のご協力の下、1対1でご指導をいただきながら、卒業後勤務する予定であるへき地医療拠点病院等での仕事内容について学び、地域医療についての理解を深めることができました。

## 〈和歌山県立医科大学附属病院見学〉

令和4年8月29日(月)に近畿大学医学部和歌山県地域枠学生2名が本学附属病院にて、希望する診療科を見学しました。実際の医療現場に触れるとともに、研修制度についての説明なども受ける機会を得ました。



## ●参加者名簿

## 和歌山県立医科大学医学部 地域医療枠

日程：令和4年7月19日(火)～8月19日(金)の2日間

実習先	学年	氏名	対応医師名
橋本市民病院	5年	百名 孝太	角野 直央先生
	5年	塩塚 諒	小瀬川真美先生
公立那賀病院	4年	西村 加奈	山本 章先生
	3年	橋爪 智大	中 暁洋先生
	2年	小林 太基	長井 善隆先生
国保野上厚生総合病院	5年	高橋 文太	加山 雄大先生
	4年	淵脇 颯太	谷口 侑大先生
	3年	榊原 夏葉	今地美帆子先生
	2年	樋上 和真	坂野 真美先生
有田市立病院	3年	植村 香怜	貝持 裕太先生
	2年	山本有美恵	川端 公貴先生
県立こころの医療センター	5年	三並 桃佳	魚谷 和史先生
	5年	田中日向子	西村 美咲先生
	4年	井上 弘康	小林 真生先生
	4年	谷上 大典	串 雅紀先生
ひだか病院	3年	福井 凜	森 佑熙先生
	2年	東本 胡桃	林 菜摘先生
	5年	田中 利佳	寺本 寛先生
紀南病院	4年	北畑 亮歩	武田真一郎先生
	2年	中西晴奈加	中西 宥介先生

実習先	学年	氏名	対応医師名
紀南こころの医療センター	4年	岩田 拓巳	木下恵利加先生
	3年	榎本 真太	桐村 直樹先生
南和歌山医療センター	5年	行岡 翼	小畑 智彦先生
	4年	和田 愛梨	立石 華穂先生 中止
国保すさみ病院	2年	奥村 麗	大橋 豪先生
	2年	吉岡 咲季	矢本 大洋先生
くしもと町立病院	4年	濱田琳太朗	武内 菜摘先生
	3年	中平 悠馬	宮井 優先生
	4年	山下 光	竹中 雅子先生
那智勝浦町立温泉病院	3年	三住 晃士	川村 晃大先生
	2年	石田 聖葉	谷河 育朗先生
新宮市立医療センター	5年	井上 涼介	向井 陽祐先生
	4年	浦崎 杏	川端 大輝先生 中止
	4年	山路 千咲	奥村 晃平先生 中止
	3年	土山 徳季	出口 蓉子先生
国保北山村診療所	2年	中西 歩登	深海 三恵先生
	2年	吉益 実咲	兼久 亮先生
国保北山村診療所	5年	板谷 耀平	竹本 典生先生

## 自治医科大学医学部

日程：令和4年8月18日(木)～8月19日(金)の2日間

実習先	学年	氏名	対応医師名
橋本市民病院	2年	住 茜音	石亀 慎也先生
	1年	小濱 颯汰	
高野山総合診療所	1年	虎地 美侑	田村 忠彦先生
	1年	古久保仁紅	
有田市立病院	3年	崎山 晟旺	中村 諒先生
ひだか病院	5年	上松 大祐	玉置 佑麻先生
和歌山病院	3年	南方 紀香	加藤 真衣先生

実習先	学年	氏名	対応医師名
白浜はまゆづ病院	2年	古久保遼河	竹井 陽先生 中止
			棚野 祐一先生
古座川町国保七川診療所	5年	武内 廉	本林 秀規先生 中止
那智勝浦町立温泉病院	2年	八木 博己	前田 祐里先生
新宮市国保熊野川診療所	4年	吉井 稜真	田島 幸治先生 中止
国保北山村診療所	4年	宮本 理	竹本 典生先生 中止

## 近畿大学医学部 和歌山県地域枠

日程：令和4年8月29日(月)

見学先	学年	氏名
和歌山県立医科大学附属病院	5年	海邊 卓明
	5年	田北 貴大



# 1 橋本市民病院



■ 位置 >> 和歌山県橋本市小峰台2丁目8-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠5年生

百名 孝太

## 1. 実習施設とその地域の概要

橋本市は、和歌山県の北東端に位置する市である。面積130.55km<sup>2</sup>、総人口59,452人である。和歌山県内で唯一大阪都市圏（都市雇用圏）に含まれる市で、いわゆる「和歌山府民」が多い。紀の川中流に位置し、かつては紀の川による材木運搬や、高野山へ向かう際の宿場町として栄えた。現在は、東西軸の京奈和自動車道・橋本道路及び国道24号と、南北軸の国道371号橋本バイパス（大阪府境以北は地域高規格道路「大阪橋本道路」）が市内中心部で交差し、また鉄道でも、大阪の難波駅と高野山方面とを結ぶ南海高野線と奈良県王寺駅と和歌山駅とを結ぶJR和歌山線が接続するという、この付近における陸上交通の要衝である。



橋本市は和歌山県の北東端の県境付近に位置し、北に大阪府河内長野市、東に奈良県五條市と境界を接する。旧高野口町にあった2つの飛地が解消されないまま合併したため、現在もかつらぎ町内と九度山町内に飛地がある。

本州の南岸のプレート境界に近いこと、橋本市付近の山々は急峻であり、北に金剛山地・紀泉山地（ダイヤモンドトレール）、南に紀伊山地に挟まれた場所に位置する。ここに東西に細い周囲と比べると平坦な場所が存在し、そこに橋本市の中心市街地が形成された。この東西に長い平地を紀の川が、東から西へと流れている。橋本は紀の川の中流に当たり、ここでの河況係数は6375と季節による流量変動が大きい場所である。また、橋本市は西日本を東西に走る大断層である中央構造線の真上に位置する。

なお、橋本市の中心市街地とは別に、北部の山中に大規模なニュータウンの南海橋本林間田園都市が造成されたり、企業誘致用地などで里山や丘陵地が削られてきたように、山間部にも開発の手が及んでいる。

## 2. 実習内容

1日目 8:10 橋本市民病院集合

8:30 カンファレンス

9:30 ラウンド

10:00 グラム染色見学

12:00 昼食休憩

13:00 手術見学

16:00 申し送り

2日目 8:10 橋本市民病院集合

8:30 カンファレンス

9:30 ラウンド

10:00 総合内科の説明（総合内科医長 堀谷亮介先生）

12:00 昼食休憩

16:30 症例発表見学



## 3. 考 察

橋本市民病院にはこれまで行ったことがなく、今回の実習で行かせていただくことを楽しみにしていました。部活動の先輩から橋本市民病院の総合内科の魅力について話を聞き、総合診療科に興味のあった私は、次に地域医療実習があれば橋本市民病院で実習を受けたいと考えていました。今回、実際に橋本市民病院で実習をさせていただきましたが、大変実りのある実習だったと感じています。中でも実習を指導して下さった角野先生には、地域での経験をお話

いただき、将来自分がなすべき医師像をより明確にすることができました。こうしたリアルな話をお伺いできたことは、私にとって大きな財産であり、自分がどの科に進んでも地域医療とのつながりを持ち続け、地域に貢献する医師にならなければならないと感じました。

橋本市民病院には総合内科があり、そこでは幅広い症例を経験できると感じました。医師同士のコミュニケーションも活発で、雰囲気もよく年齢や立場関係なく意見を言うことができるのも魅力的でした。また、他の病院ではおそらく経験することのないグラム染色も日常的に行われており、そうした貴重なスキルアップができるのも魅力的でした。地域で人手が足りないときに医師がグラム染色などの検査を行う場面があると考えられるため、そうした経験が将来の自分に役立つだろうと思いました。また、カンファレンスではチームごとに症例を検討しており、日々の症例について上級医と検討することで勉強になりそうだと思いました。ほか、泌尿器科の手術を見学させていただきました。ポリクリでは新型コロナウイルス感染症蔓延のため、泌尿器科の手術を見学することができなかつたため、非常に良い経験をさせていただきました。このように、橋本市民病院では総合内科をはじめとする様々な診療科があり、いろいろな診療科の勉強を行うことができると感じました。加えて、研修医の育成に熱心であり、救急、当直、外来など様々な経験が得られることも非常に魅力的でした。

#### 4. 謝 辞

この度は、2日間貴重な経験をさせていただきありがとうございました。実習を担当してくださった角野先生は地域医療の大先輩であると同時に部活動の大先輩でもあり、実習中に気さくに話かけてくださり、また地域医療枠についての貴重なアドバイスをいただき、本当に感謝しています。医学部5年生の私はまだまだ医師になるまで時間がありますが、今回の実習で得た経験をもとに、医師になった自分が地域医療に貢献できるよう残りの学生期間を過ごしたいと思います。

## 2 高野山総合診療所



■ 位置 >> 和歌山県伊都郡高野町高野山631

## 3 公立那賀病院



■ 位置 >> 和歌山県紀の川市打田1282

和歌山県立医科大学医学部地域医療卒5年生

塩塚 諒

### 1. 実習施設とその地域の概要

公立那賀病院は、昭和23年10月1日に那賀病院として開設され、平成11年4月1日に公立那賀病院として開院。診療科は内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、小児科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科、乳腺外科、呼吸器外科、胸部外科、脳神経外科、リハビリテーション外科、泌尿器科、麻酔科、リウマチ科、検診科、神経内科、精神科、病理診断科、腎臓内科、臨床腫瘍科、救急科、血液内科、臨床検査科がある。病床数は一般病床が300床、重症個室が5床、特別室が3床、個室が74床、HCU11床、3人室15床、4人室192床、感染症病床4床である。また公立那賀病院は保険医療機関、国民健康保健療養取扱機



関、労災保険指定医療機関、地域がん診療連携拠点病院、臨床研修病院、DPC対象病院、救急告示病院、結核予防法指定医療機関、原子爆弾被害者一般疾病指定医療機関、指定自立支援医療機関、小児慢性特定疾病治療研究事業指定病院に指定されている。また主要医療設備には、手術室が4室、バイオクリーン室が1室、産婦人科・分娩室、産婦人科・新生児室、重症患者観察室、臨床検査科・生理検査室、臨床検査科・検体検査室、リニアック、血管撮影装置、MRI、結石破碎装置、CT、非常時ヘリコプター離着陸場、中央救急室（診察室、処置室）がある。敷地面積は5,266.52m<sup>2</sup>であり、構造は耐火・耐震構造である。

紀の川市は平成17年に紀の川流域の5町が合併して誕生した市であり、和歌山県の北部に位置し、東側は伊都郡かつらぎ町、西側は和歌山市と岩出市、南側は海南市、海草郡紀美野町、北側は岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市に接している。面積が228.21km<sup>2</sup>、人口が58,816人（令和2年10月1日 国勢調査）、人口密度が257.7人/km<sup>2</sup>、世帯数が23,351世帯である。



## 2. 実習内容

- 1日目  
病院の施設説明、外来見学
- 2日目  
救急外来見学、ESD見学

## 3. 考 察

公立那賀病院は診療科が多く、医療設備も充実しており、指定項目も多数存在することから、今回の2日間の実習を通して公立那賀病院の担う役割の大きさを体感した。また公立那賀病院の内科の特徴として、糖尿病に対する専門性が高いことが挙げられる。現在糖尿病の患者数は増加の一途を辿っているため、今後も公立那賀病院の果たす機能はさらに大きくなるだろうと感じた。また実習の直接的な内容からは逸れるが、昨年の実習でお世話になった地域医療枠出身の先生と再会したことも含め、実習を通して先生方から様々なお話を聞かせていただき、地域医療枠の横の繋がりが大切であることはもちろんのこと、縦の繋がりの重要性について、より認識することができた。

## 4. 謝 辞

最後になりましたが、小瀬川真美先生をはじめとする公立那賀病院の皆様、この度は大変お忙しい中、私たちの実習を受け入れていただき、本当に有難うございました。今回の実習で学び、得た知識を今後に活かし、さらに学業に励んでいきたいと思っております。貴重な経験をさせていただき、有難うございました。

2022年7月21、22日の2日間、和歌山県紀の川市にある公立那賀病院の整形外科で実習させていただいた。医師6年目の山本章先生に2日間お世話になり、たくさんのことを学ぶことができた。

## 1. 実習施設とその地域の概要

昭和23年に開設された那賀病院は、国保那賀病院の名称を経て、平成11年に一般病床300床（感染病棟4床）の新築とともに公立那賀病院として開院した。岩出市と紀の川市併せて人口13万人からなる那賀地域の医療を支える中核病院となっている。災害拠点病院、がん診療連携拠点病院などに指定されており、病院の基本指針にもあるように「地域住民から親しまれ、信頼される病院」となることを目指している。那賀地域からはもちろん、その他の地域からも受診する患者が多いようだ。



## 2. 実習内容

### [1日目]

手術の見学をさせていただいた。2つの手術を見せてもらったが、どちらも大腿骨頭の人工骨置換術だった。執刀医、第2、第3助手、看護師はみんな、宇宙服のような格好をして、手術用ヘルメットを被っていた。その様子からも、術後感染症を防ぐための対策が徹底的に為されているのだと感じた。手術が始まる前、山本先生に、手術の内容や人工骨置換術はどのようなときにどのような目的で行われるのかを教えてもらっていたので、ある程度理解しながら見ることができた。

### [2日目]

病棟の回診と外来の様子を見学させていただいた。回診では、数日前に手術を受けた患者さんの容態を確認していた。お年寄りや1歳未満の小さな子ども、中年代の方など、さまざまな年齢の患者さんが居た。先生は、一人ひとりに丁寧に容態を聞き、患者さんが安心できるような声掛けをしていた。外来では、お年寄りの方が多くいらっしやう。整形外科領域の病気だけでなく、循環器、腎臓などに関わる疾患を抱えている方が多かった。整形外科のことだけでなく、病気を多角的に診る視点が重要だと感じた。

### 3. 考 察

手術を見学させてもらって最も感じたことは、医師がチームのリーダーになって判断を下し、指示を出しているということだ。もちろん看護師さんやその他の医療スタッフが丸となって行っているのに違いはないが、最終的な判断はすべて医師に委ねられていた。わかってはいたが、実際の手術現場を見て改めて医師の判断の重要性と責任の重さを感じた。その場の状況を見て最善の判断ができるようにしっかりと知識をつけ、経験を積んでおかなければならないのだと感じた。

また、外来や病棟での診察の様子を見学して、医師の言葉1つ1つの重みを感じた。同じ1つのことを伝えるのでも、どういったニュアンスで伝えるかで、患者さんの受け取り方や感じ方、安心感が異なってくると思う。相手にしっかり理解してもらおうとともに不安にさせないような言い方も、現場に出て先輩医師から学ばないといけないなと感じた。

### 4. 謝 辞

お忙しいところ、2日間たくさんの方の事を教えていただき、本当にありがとうございました。今回の実習で、整形外科について多くのことを学ぶことができました。最も印象に残っているのは、外来で山本先生が話の長い患者さんに真摯に向き合い、優しく話し相手になっている姿です。当たり前なことなのかもしれませんが、患者さんが多くて忙しい中、あんなにも丁寧に話を聞くことは容易ではないと思います。先生の話が患者さんは真剣に聞き、「大丈夫ですよ」という一言で、とても安心した表情になっていました。その様子を見て、医師や看護師さんの言葉1つ1つが患者さんにとって重たいものなのだと感じました。また、2つの手術にも立ちあわせていただき、医師の判断がいかに重要なのか思い知りました。チーム全員で1人の患者さんの病気を治している姿がかっこよく、自分も早くその一員になりたいと思いました。患者さんの不安を取り除けるような声掛け、その場に応じた最善の判断ができるようになりたいです。そのためにこれからもしっかりと勉強に励み、色々なことを積極的に学び、成長していきたいです。私も山本先生のようになれるよう、日々精進していきたいです。本当にありがとうございました。

---

和歌山県立医科大学医学部地域医療専攻3年生

橋爪 智大

#### 1. 実習施設とその地域の概要

公立那賀病院は国保那賀病院を前身とする公立病院で、和歌山県紀の川市に位置し、公立那賀病院経営事務組合が運営している。診療科は内科、外科から始まりリハビリテーション科など、全部で28科あり、幅広い診療を可能としている。1階には内視鏡室、2階には中央手術室

と血液浄化・透析センター、6階にはリハビリテーション科といったように、治療を行う上で欠かせない設備、科が各階に備わっている。別館には医局があり、医師たちが業務を行うほか、スキルアップのために定期的に症例検討を行っている。また、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院の指定を受けており、紀の川市の医療の中心を担う病院といえる。

駐車場も広く、バスや電車も来ており、さらに最寄りの打田駅からも近いことから交通の便がよい病院である。

紀の川市は和歌山県北部に位置する総人口約60,000人の市であり、和歌山市からも比較的近い市である。和歌山市にくらべ第一次産業が盛んな地域であり、特に果樹栽培に力を入れている。路線バスや電車、多数の国道が通っていることから他の市からのアクセスが良く、医療の観点からみても交通面での利点がある。那賀保健医療圏に属し、公立那賀病院を中心とした医療体制が引かれている。

## 2. 実習内容

今回の実習は2022年7月26～7月27日にわたって行われ、一日目は10:00～17:00ごろまで、二日目は10:00～15:00ごろまで行われた。内科医の中暁洋医師が担当してくださった。実習の内容は大きく分けて1. 外来診療の見学、2. 施設見学、3. 実習担当医師とのディスカッションとなった。



### 1. 外来診療の見学について

外来診療の見学は1日目、2日目の両方で行った。中医師はおもに糖尿病を専門とされている先生で、外来で診療にくる患者さんも糖尿病の方、または糖尿病になりかけている方が多かった。最初にきた患者さんは糖尿病を患っており、糖尿病の状態の確認と使用しているインスリンの手持ちがつかたのでその補充に訪れたとのことだった。患者さんと中医師が相談し合った結果、インスリンは自分で投与でき、投与リズムの調節も十分できていることから別の種類のインスリンを追加で処方された。また、中医師は、インスリンは糖の吸収を抑えることから正しく投与しないと糖の吸収をおさえるところか低血糖になってしまい、かえってよくないということを重ねて説明されていた。中医師は、糖尿病の患者さんを診療する際には、足への触診を心掛けていた。これは本人曰く、触診によって親近感の向上を試みるとともに、足に浮腫ができ膨れていないかを確認するためとのことであった。その後の診療も外来診療も糖尿病診療があり、途中で原因不明の下痢、嘔吐症状を呈した患者さんや謎の突発的な脱力感から仕事への出勤が困難になった患者さんが来院した。中医師は、胃腸症状が現れた際には逆流性食道炎の疑いがないかを検討するとおっしゃっていた。原因不明の脱力感を訴える患者さんは昔から飲むと気分が悪くなるにも関わらず味が好みとのことからコーヒーを愛飲していたそうで、本



人はそれが原因で現在の症状を呈したと考えているようだった。一方で診療中は言動、行動共に健康そうであり、一見異常はないと判断されたが、中医師はホルモンバランスの不均衡や精神系統の問題ではないかと推測を立て、とりあえず血液検査を行う予定を立てた。

2日目は、中医師が担当する二人の患者さんの内視鏡検査に立ち会った。1人目の患者さんはやや高齢で、逆流性食道炎発症の前歴があり、今回もその件で検査を行ったことのことだった。診断の結果その患者さんは食道裂孔ヘルニアによって胃が食道裂孔を介して胸腔側に少し突出しており、これが原因で食後の姿勢次第で胃酸が逆流しやすいので、食後はできるだけ姿勢を正しておき、胃酸の逆流を抑えるようにと、中医師はおっしゃられた。2人目の患者さんも、逆流性食道炎の疑いがあり、それを検査すべく内視鏡検査をおこなった。今回は口腔経由での内視鏡検査であり、嘔吐反射により苦しむことがおおいとのことだった。この患者さんは若年であったこともあり、嘔吐反射が少し続き、それを見ていた自分は不覚にも貧血になってしまった。のちの診療ではこの患者さんは貧血の徴候も見られるとのことから、それについても相談されていた。

## 2. 施設見学

1日目の外来終了後、まず医局に向かった。医局には公立那賀病院に勤務する医師全員分のデスクが準備されており、外来診療を終えた医師たちがカルテの訂正、事務作業を行っていた。また医局は医師たちが治療方針などの相談を行う場でもあった。医局で小休憩をしたあと、次は各診療科を見学した。1階には受付はもちろんのこと、緊急外来用の治療室、内視鏡室がある他、売店などの施設も充実していた。2階には手術室や腫瘍の化学療法室があり、階を上がるとナースステーションやリハビリテーション科があった。また公立那賀病院はコロナウイルス感染症患者用の病床が用意されている病院であり、担当するエリアは他の診療科に比べて厳重な管理体制がおかれていた。

## 3. ディスカッション

ディスカッションでは、コロナウイルスが病院にかかる負担やそれにさける人員のリソースについて話した。公立那賀病院のシステム上、医師が当直を行うほか、待機、緊急外来の当番をシフト制で行うため、医師たちのスケジュールはそこまで余裕がなかったとおっしゃられ、コロナの検査が始まったときにはPCR検査から報告に至るまで、医師のみで行っていたため現場はひっ迫していたそうであった。そのあとコロナウイルス関連の業務をシフト制にし、報告は看護師が行うなど、業務の分担を行うことで負担の分散を図ったそうだった。また、県立医大以外の医療圏の病院で得られるメリットなどについて話しあったところ、中医師曰く、内科では様々な症例を抱えた患者さんが来院することから、幅広い観点を得ることができるほか、学問の面から考えても様々な症例をみることができるとのことだった。

### 3. 考 察

中医師が成人病として患者数の多い糖尿病を診療するだけでなく、幅広い患者さんを診療していた姿から、地域医療を担う医療圏の病院の目的は、規模の大小はあれど主たる目的は住民の健康を守ることにあると考えた。地方中核病院であるからといって、医療のレベルが低くなく、より高度なレベルの治療が必要な際には県立医大への紹介状を通して患者さんの依頼を可能にしており、医療圏をわけることで医療の負担の一極化を防いでいることは明らかであった。医師たちは症例検討や先輩医師からのアドバイスによってスキルアップを心掛けていることを聞き、向上心をもって業務に取り組んでいる姿から、自分に与えられた職務を全うする重要性が再確認された。

### 4. 謝 辞

今回の実習について、受け入れてくださった公立那賀病院様、そして担当してくださった中医師にこの上なく感謝するとともに、地域実習を運営してくださった地域医療支援センターの皆様にも感謝しております。このような貴重な機会を設けて下さり、誠にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

小林 太基

## 1. 実習施設とその地域の概要

### 公立那賀病院

#### ●診療科

内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、小児科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科、乳腺外科、呼吸器外科・胸部外科、脳神経外科、リハビリテーション科、泌尿器科、麻酔科、リウマチ科、検診科、神経内科、精神科、病理診断科、腎臓内科、臨床腫瘍科、救急科、血液内科、臨床検査科

#### ●病床数：300床

重症個室5床・特別室3床・個室74床・HCU11床・3人室15床・4人室192床  
感染症病床4床

(参考：公立那賀病院ホームページ)

### 那賀医療圏

#### ●人口：112,783人（2020年）

#### ●人口比率 0～14歳：12.28%

15～39歳：23.50%

40～64歳：34.48%

65～74歳：14.60%

75歳以上：14.03%

●高齢化率（65歳以上人口比率）：28.00%

（参考：地域医療情報システム（JMAP））

## 2. 実習内容

### ●実習の時間割

#### 1日目

- 9:00～12:00 外来の見学
- 12:00～13:00 休憩
- 13:00～14:00 待機時間
- 14:00～15:00 内視鏡を用いた胆石除去の見学
- 15:00～16:00 大腸カメラを用いたポリープの除去の見学

#### 2日目

- 10:00～11:00 待機時間
- 11:00～12:00 胃カメラを用いた食道・胃の検査の見学

### ●実習の内容

#### ① 外来の見学

内科の診療を見学した。公立那賀病院は、内科の中でも循環器内科や呼吸器内科等があるように、専門分化している科が複数あるが、内科はそれ以外の症状を訴えて来院した患者全般を診察していた。そのため、実際に見学していた際も患者が訴えていた症状は様々であった。外来での業務は患者から主訴や薬の服用歴、アレルギーなどを聞き、病名の特定を行っていた。絞りきれない場合は血液検査を行っていた。また、内科の管轄外の症状については他の科に紹介状を書いていた。患者に説明を行う時、専門用語を並べても分かってもらえないので、簡単な例を用いて説明していた。

#### ② 内視鏡を用いた胆石除去の見学

口から内視鏡を挿入して、ファーター乳頭を通して胆嚢にある結石をバスケットカテーテルを用いて除去する様子を見学した。放射線を扱う部屋で行われたため、鉛エプロンを着用して見学を行った。

#### ③ 大腸カメラを用いたポリープの除去の見学

以前大腸内で出血を起こした患者の腸内を、大腸カメラで検査する様子を見学した。その際、



スネアを用いたポリペクトミーという方法でポリープの除去も行ってた。ポリープを除去した後、切除した箇所に水をかけて止血を行っていた。

#### ④ 胃カメラを用いた食道・胃の検査の見学

ウイルス性の胃炎の疑いがある患者の食道と胃を、胃カメラを用いて検査する様子を見学した。喉に麻酔をしたのち、胃カメラを挿入していた。また、必要に応じて胃液を吸い取っていた。

### 3. 考 察

診療や施術の現場を実際に見るのは初めてであったので、将来どのような仕事に就くかと言うことがとても鮮明にイメージすることができた。今回最も印象に残ったのは、内科医であっても外科的な処置ができる技術が求められていることだった。内科医はほとんど外来などの診察のみで、専門的な技術が必要なことは外科医の担当だと思っていたので驚いた。地域医療では専門的な知識を用いて病気を特定するのは当然として、自分の手で患者の処置を行うことも重要であると分かった。担当の先生は専門分化が進んでいるとおっしゃっていたが、人手が不足している地域では様々な施術ができる医師がまだまだ必要であると感じた。

### 4. 謝 辞

この度はお忙しい中、医学を学んでいく上で貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。内視鏡を使った検査は、今までの考え方が大きく変わるきっかけとなり、今後の勉強のモチベーションにつながりました。

#### 参考文献

公立那賀病院（2022）、Retrieved from <https://www.nagahp.jp/>（2022年7月28日）

日本医師会（2020）、地域医療情報システム、

Retrieved from [https://jmap.jp/cities/detail/medical\\_area/3002](https://jmap.jp/cities/detail/medical_area/3002)（2022年7月28日）



## 4 国保野上厚生総合病院



■ 位置 >> 和歌山県海草郡紀美野町小畑198

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠5年生

高橋 文太

### 1. 実習施設とその地域の概要

今回、実習でお世話になりました国保野上厚生総合病院（図1）は、診療圏を和歌山県北西部としており、紀美野町西端に位置する和歌山県の中核病院です。他の中核病院と比較すると、和医大や日赤和歌山医療センター（3次医療機関）、海南医療センターや有田市立病院等（2次医療機関）に近いという特色があります。紀美野町については、総人口8,099人、面積128.34km<sup>2</sup>で過疎地域とされています（図2）。紀美野町というとあまりイメージが湧かない所かもしれませんが、四季によって姿を変える生石高原、広々としたキャンプ場や公園、おしゃれなカフェなどがあり、人気のある観光スポットとなっています。



図1 国保野上厚生総合病院

図2 県内の過疎地域  
(「和歌山県 - 全国過疎地域連盟」より)

本病院の紹介をします。許可病床数は、一般病床100床（うち地域包括ケア病床57床）、療養病床54床、精神病床100床となっています。診療科は内科、整形外科、神経精神科、眼科の各科に常勤医師を配置しています。精神科病棟を備えており、昨年には認知症の早期発見、診断を行う認知症疾患医療センターが開設されました。地域住民の医療、福祉、健康を充実させる中核病院として機能していることがわかりました。

## 2. 実習内容

実習では、主に内視鏡操作の見学をさせていただきました。とくに上部の内視鏡操作では、のどを通過する際に嘔吐反射が起きとても苦しうでした。患者さんを不安にさせないように声掛けを行ったり、看護師の方と協力して操作していました。現場で働く和医大出身の地域枠の方、自治医大の方から貴重なお話を聞かせて頂きました。



## 3. 考 察

今回は医大にて臨床実習が始まって以来、初めての外病院見学となりました。現場では、高度医療を担う医大とはまた少し違う視点で考えていること、どのように医大と連携するのかなど学べたと思います。とりわけ地域では常勤の救急医がいない場合も多く、内科を専攻とする医師は特に初期救急対応が必要とされるので、救急のファーストタッチについて学生、研修医のうちに学ぶ機会を設ける必要があると思いました。

## 4. 謝 辞

将来地域で働いていく身として、実際に地域の現状を見て学び働く意欲が増しましたし、地域枠の先輩と直接お話しできて大変有意義な時間を過ごせました。2日間という短い期間でしたが、お世話になりました指導医の方をはじめ、国保野上厚生総合病院の皆様、このような機会を設けていただきました和歌山県立医科大学地域医療支援センターの方々には深くお礼申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠4年生

瀧脇 颯太

### 1. 実習施設とその地域の概要

国保野上厚生総合病院は和歌山県の紀美野町に位置し、海南駅から東に車で20分ほどの場所にある。へき地医療拠点病院の中では和歌山県立医科大学に最も近く、附属の看護学校も隣接している。北は、和歌山市、紀の川市、南には「ながみね」山脈が東西に走り有田郡に、東は伊都郡、高野山にそれぞれ隣接し、西は紀伊水道をはさんで徳島県と向かい合っている。気候は温暖で冬でも降雪はほとんどなく、緑豊かな地域である。病院は昭和24年にスタート、昭和53年4月に「へき地中核病院」として指定を受け、診療圏内2カ所の診療所に医師、看護師、薬剤師を派遣している。



診療科は内科、循環器内科、外科、整形外科、眼科、泌尿器科、神経精神科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、婦人科の9つあり、一般病床数は100床、療養病床54床、精神病床100床の計254床からなる。特色は精神科病棟を備えていること、別館にコロナ患者のための病室を設けていることである。また、内科は消化器専門の医師が多く、週に一度月曜日は内視鏡の日になっているそうである。

### 2. 実習内容

#### 〈1日目〉

1日目の初めは気管支鏡下肺生検を行っている先生がいるということで気管支鏡の見学をさせていただいた。その後、担当の先生が救急外来担当の日であるということで救急外来の見学をさせていただいた。新型コロナウイルスが流行している時期であったため、救急外来といえど、ほとんどがコロナ疑いの方の発熱外来になっていた。看護師の方がPCR検査のための検体採取を行い、医師はPCRの結果を受けて陽性であれば電話での診察を、陰性であれば対面での



診察を行っていた。さらに、保健所へのPCR検査結果報告のための書類記入も行っていた。実際に救急で搬送されてきた患者さんは1名だけであった。80後半の女性で、意識レベル低下で搬送、アルツハイマー型認知症で通院中であり、開眼ありで痛み刺激に対しても声をあげる・払い除ける様子が見られたため、緊急性はないと判断し血液検査・CT・MRIを行った。その結果、緊急性を疑う異常所見（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）が認められなかった（アルツハイマー型認知症による脳の萎縮はあり）ため、点滴のみを行って経過観察になった。また、認知症と高血圧に対する薬剤を最近変更したばかりであったことから、後日、同病院内の精神科で相談ということになった。今回の病院実習は新型コロナウイルス第7波の真只中ということで、コロナ疑いで救急外来に来る患者が非常に多かった。お世話になった医師の話によると第7波では感染者の治療というよりも、発熱外来を含めて感染疑いの患者の対応に追われている状況だそうである。国保野上厚生総合病院はPCRを行う機械が1つしかないらしく、診療受付時間の最後の方では検査が追い付かず他の病院に行ってもらうように説明されており、新型コロナウイルスの患者数に検査が追い付いていない現状を実感することができた。

## 〈2日目〉

2日目は内科外来見学をさせていただいた。その日は癌疑いの患者さんが2名外来に来ており印象的だった。1名は認知症がかなり進行していたこともあり、肺癌疑いであったものの、ご家族の判断で治療のための精密検査は行わず経過観察ということになった。もう1名は腹部痛で胃潰瘍が疑われ来院した。しかし、検査をすると胃潰瘍が想像以上に小さく腹部痛との相関性があまり無さそうであったためCTを行うことになり、そこで胆嚢と肝臓に腫瘍のような陰影が発見された。この患者さんは高齢ではあるものの比較的元気な男性であったため、確定診断と治療検討を行うために和歌山県立医科大学に紹介されることになった。

## 3. 考 察

今回の病院実習は臨床医学を学び始めてから初めての实習であったこともあり、座学で学ぶ知識を活かすことの難しさを感じた。高齢の患者さんであれば認知症を患っていることも多く、診察に非協力的なことや、指示や説明が正確に伝わらないことが珍しくない。そのような時にどのようにして診断に必要な要素を聞き出すのか。診断に必要な検査を行うのか。治療のために必要な協力を求めるのか。特に意思の通じにくい高齢の患者さんや若い患者さんに対してはただ知識があるだけでは十分ではないこと、それを正確に活用するための土台作りが如何に大切なことなのかを肌で感じる事ができた。

今回の実習では、第7波の真只中ということもあり、PCR検査の報告書など医師の医師らしくない部分での、仕事の大変さを垣間見る事ができた。意思疎通が困難な患者さんへの対応しかり、医師といえども医療を行っているだけでは成り立たないことが改めて理解できた。地



域での医療ということになればそれはより顕著であると考えられる。そのため、学生という時間がある今だからこそ人との付き合いや読書、インターネット関連など様々なことに触れ、様々な能力を磨いていくことの必要性を感じた。

#### 4. 謝 辞

新型コロナウイルスが流行する大変忙しい時期にもかかわらず、実習を受け入れて下さった柳岡院長先生をはじめ、担当して下さいました谷口先生、病院の先生方、看護師の皆様、ありがとうございました。また、実習の準備を行って下さった和歌山県立医科大学地域医療支援センターの皆様、和歌山県庁医務課の皆様、今年もこのような機会を作っていただきありがとうございました。今回の2日間の実習を通して臨床医学を学ぶ上での意欲をより高めることができ、将来、地域で医師として働くイメージをより固めることができました。今回の実習に関わって下さった皆様本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科3年生

榊原 夏葉

#### 1. 実習施設とその地域の概要

国保野上厚生総合病院の診療圏は、和歌山県北西部に位置しており、海南市、紀美野町の1市1町で構成された一部事務組合によって運営されている。北は、和歌山市、紀の川市、南には「ながみね」山脈が東西に走り有田郡に、東は伊都郡、高野山にそれぞれ隣接し、西は紀伊水道をはさんで徳島県と向かい合っている。又、気候は温暖で冬でも降雪はほとんどなく、緑豊かな地域である。



昭和24年現在地でスタートし、昭和53年4月「へき地中核病院」として指定を受け、診療圏内2カ所の診療所に医師、看護師、薬剤師を派遣している。平成10年の本館竣工に伴い、順次CT、MRI等の高性能の医療機器も買い換え、診療科は内科、整形外科、神経精神科、眼科の各科に常勤医師を配置している。各種介護保険事業も積極的に取り組んでおり、地域住民の医療・保健・福祉に貢献している。

病院が位置している野上町（のかみちょう）は、和歌山県北西部海草郡にあった町である。2006年1月1日に同じ海草郡の美里町と合併し紀美野町となったため消滅した。

令和2年の国勢調査によると、紀美野町の人口は8,256人（男性3,796人 女性4,460人）、世帯数は3,474世帯となっている。人口推移を見ると、年々総人口が減少し、著しい少子高齢化が進んでいる地域であることが分かる。

## 2. 実習内容

### 1日目 13:00-17:15 発熱外来と外来

1日目は発熱外来と外来患者の対応を行った。発熱外来ではPCRを受けた方に電話をかけ、検査結果を伝え、陽性であった方にはいつ頃症状が出始めたか、現在の症状はどのようなものかなどを聞いていた。また、その症状から対症療法としてどのような薬を処方するかなどを、基礎疾患やカルテの情報を考慮しながら決め、患者に説明していた。外来は13時から17時15分までであったが、患者数が多く、終始電話対応に追われている様子であった。またコロナ患者の対応の間に、気分が悪く食も進まないといった症状をもつ高齢者の方や、先日大腸の検診で異常が見つかった方の対応を挟んでいた。ここ国保野上厚生総合病院は、和歌山医大や日赤和歌山医療センター、南和歌山医療センターなどの、緊急患者も扱う三次医療施設と異なり、三次医療施設を受診後、家での療養に切り替わるまでにまだ病院での療養期間が必要な方や、急性ではない日常的な疾患、例えば糖尿病や、高齢に伴う血液数値の悪化などを主に扱う病院ということだ。そのため、高齢患者が多く、発熱外来の間に挟んだ外来では、気分が悪い、嘔吐、めまいなどの症状が出ているのにも関わらず、血液検査などではなんの異常も見られず、先生が薬の処方や原因の追求に悩んでいる場面があった。先生がおっしゃるには、高齢者患者の多いこの病院では、こうした原因不明の体調不良が多く、対応が難しいそうだ。また、先生がケアマネージャーやヘルパーの方と話し合い、これからの点滴や健康管理についての方針などを決めていた場面があり、地域医療を行っていく上での他の医療従事者との繋がり合いの大切さを感じた。

### 2日目 9:00-13:30 外来患者の診療

2日目は外来患者の診療であった。患者は、定期的に通院して血液検査や血圧を測定している人がほとんどで、腎臓や肝臓の数値の移行を見ている患者が多かった。また、精神科と内科の両方を受診している患者が多く見られ、吐き気やだるさなどの症状が精神から来ているのではないかと考えられる患者さんもいた。先生が、内科で処方する薬と精神科で処方されている薬の相互作用について考えている様子を見て、病院内の他の科との連携が大切なのだと分かった。診療の様子から、この病院では三次医療施設に比べ、生活習慣病などの慢性的な病気を抱える患者が定期的に通院されることが多いことが伺えた。また、先生が親身になって患者の話を聞いていることがとても印象に残り、受診前は不安そうな表情をされていた患者さんが、受診後にはほっとした顔をされていたり、中には先生に会うと元気がもらえる、次も早く先生に会いたいなどとおっしゃっていたりする患者さんもいた。こうしたことから、先生と患者さんの間に強い信頼関係が築かれていることが伺え、深く感銘を受けた。地域医療において、こうした患者さんに親身に寄り添う姿勢はとても大切なことだと感じた。

### 3. 考 察

2日間の実習を終えて、国保野上厚生総合病院は地域医療に根ざし、患者の日々の生活の中での疾患に寄り添った医療を提供する病院であることが分かった。また、今地先生の診療を見学させていただいて1番実感したことは、患者さんが先生の明るさに触れたり、先生と会話して不安を聞いてもらったりすることによって、心から元気になられたように見え、平穏な顔で診察室を後にされることだった。私はそこに、ただ疾患を治すだけではない、真に地域医療に求められる医師像を垣間見た気がした。病気を治すことは勿論だが、私たちは不安や悩みを抱えているために病院に行く。そうした患者の不安を取り除くことのできる医師こそ、地域医療の現場で必要とされる存在だと思った。

### 4. 謝 辞

今回の実習を担当して下さった今地先生を始め、地域医療実習を承諾して下さった国保野上厚生総合病院の皆様、また、地域医療実習を計画して下さった地域医療支援センターの皆様には、心から感謝申し上げます。患者さんと先生の深い信頼関係、先生と会話している時の患者さんの笑顔、安堵して帰っていかれる様子、そうした温かさに触れ、改めて地域医療医として勤務していくという自覚とやる気が湧きました。この2日間で得た経験を忘れず、今後も勉学に励んでいきます。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

樋上 和真

### 1. 実習施設とその地域の概要

今回私が実習に行かせていただいた国保野上厚生総合病院は、海草郡紀美野町に位置しており、診療圏を和歌山県北西部としている。昭和24年に開院した後、昭和53年4月に「へき地中核病院」として指定を受け、診療圏内の2か所の診療所に医師、看護師、薬剤師を派遣している。病院の運営は海南市、紀美野町の1市1町で構成された一部事務組合によってなされている。平成10年の本館竣工に伴い、順次CTやMRIなどの高性能の医療機器を導入し、診療科は内科、外科、整形外科、神経精神科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、婦人科、泌尿器科がある。病床は一般病床100床（うち地域包括ケア病床57床）、療養病床54床、精神科病床100床の計254床からなる。病院の敷地には本館病棟、精神科病棟、栄養管理棟、ホームぬくもり（障がい者福祉サービス事業所）の4つがある。本病院は各種介護保険事業も積極的に取り組んでおり、地域



住民の医療・保健・福祉に貢献している。

本病院は紀美野町と海南市の境に近い場所にあり、紀美野町の総人口は8,256人（令和2年10月1日現在）、面積128.34km<sup>2</sup>である。紀美野町内の公共交通機関は、JR海南駅と紀美野町の登山口を結ぶバスと、町が運営するコミュニティバスがある。

## 2. 実習内容

和歌山県立医科大学地域枠の卒業生で、医師3年目の坂野先生につかせていただき2日間実習を行った。

1日目は内科外来の見学を行った。患者さんのほとんどが60～70代の高齢者であり、高血圧、糖尿病、脂質異常症を疾患とする方が非常に多かった。また、患者さんの多くが、血液検査の数値をもとに体の状態がどうであるのか経過観察を行っていた。特に印象的だったのは、診察をする際の坂野先生の患者さんとの向き合い方である。一口に患者さんと言っても、雑談をしたがる方、同伴の家族の介助が必要な方、耳が不自由で筆談が必要な方など、様々な方がいた。どのような方に対しても坂野先生はしっかりと患者さんの目を見て話されていた。また、診察室に患者さんが入ってこられるときも「今日は暑いですね」や「具合わるいところありませんか」などと優しく声をかけておられた。

見学初日は坂野先生が外来の担当であったが、診察の合間にも入院患者さんの対応などのための院内用携帯電話が多くかかってきていて、同時に様々な仕事をされていた。そのような状況でも診察室で患者さんを前にすると、先生は患者さんの話をよく聞き、病状についてわかりやすく説明するという姿勢を貫いておられた。診察の時に患者さんの不安そうな表情が、和らいだりパツと明るくなったりしたのを見て、医療というものは、病気を治すためだけのものではなく、人を思いやることも大切なのだと実感した。

2日目は坂野先生の急患の対応と発熱外来を主に見学させていただき、空いた時間に一般病棟の対応に同伴させていただいたり、精神科病棟や医局に行かせていただいたりした。実習をさせていただいた時期は新型コロナウイルス感染症の第7波にあたり、感染者数が全国的に増加していた。その影響もあってか、急患ではコロナ患者さんが多かった。見学させていただいた期間で1番印象に残っているのは、午後に来院された脳梗塞の患者さんだった。食べ物を飲みこめないとご家族と一緒に急患で来院されたこの患者さんは、血液検査をしたりCT検査をしたりしても原因がはっきりしなかった。そこで他の先生に相談し、MRI検査を実施した。すると脳幹部分に血栓が見つかったため急遽、医大附属病院に搬送することになった。一刻を争う中でも状況下でも先生は患者さんのご家族に対しても丁寧に説明し、少しでも患者さんとその家族の不安を取り除こうとする姿勢が見て取れた。また実習の合間を縫って、地域医療枠医師のキャリア形成について様々なお話を伺うことができ、自分の将来についてのビジョンが明確になった。



### 3. 考 察

2日間の実習で初めて内科診療の現場に立たせていただき、医師がどのようにして患者さんに接し、どのようにして病状を判断しているのか知ることができ大変勉強になった。診察の間では、患者さんは自らの体の状態を様々な言葉で表現されており、教科書的な知識があるだけでは病気を特定することができないこと、検査の結果や患者さんから得られた様々な情報を総合的に判断していくことの難しさを身をもって感じた。また患者さんは性格も人それぞれであり、どのような患者さんに対しても限られた時間の中で病状を聞き出し、しっかりと説明してことを理解していただくには医師の高いコミュニケーション能力が求められると感じた。

### 4. 謝 辞

実習中、多くの仕事があるにも関わらず様々なことを私に教えてくださり、どんな質問にも丁寧に答えてくださった坂野先生、本当にありがとうございました。また、あたたかく迎えていただいた国保野上厚生総合病院の皆様、この様な機会を与えてくださった地域医療支援センターの皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。今回実際の医療現場に触れ、学ばせていただいたことを胸にとどめ、和歌山の地域医療に貢献するという夢に向かってより一層努力していきたいと思えます。

## 5 有田市立病院



■ 位 置 >> 和歌山県有田市宮崎町6

和歌山県立医科大学医学部地域医療専攻3年生

植村 香怜

### 1. 実習施設とその地域の概要

私が実習施設として伺ったのは有田市立病院で和歌山県を北部・中部・南部で分けると中部に該当する有田市にある病院です。診療科は今回訪問させていただいた内科を含む12科の診療科からなります。この病院の産婦人科で私は22年前誕生し、地元でもあるこの病院、地域には特別な思いがあります。小学校の合併化も近年進み、少子高齢化が進むこの場所では、みかんの生産、太刀魚の漁獲量含む多くの産業が営まれています。

## 2. 実習内容

実習の日は8時30分に第一内科の方で今回担当してくださった貝持先生と合流しました。合流後は診察室で外来見学をさせてもらいました。内科医の仕事がどのようなものであるか具体的に知らなかったため、身近で付き添いさせてもらうことができたのは貴重な経験です。先生は待合室にいる患者さんと呼び、1人1人どういった体調であるのかを問診票と照らし合わせながら質問をしま



す。患者さんも高齢の方がほとんどで、付き添いの方と患者本人の主張が一致しているかなど確認しながら、パソコンに記入していきます。CT画像などで判断が難しい腫瘍に関しては他の医師と協働しながら、患者さんに対する治療方針を決定していきます。また、この地域の高齢率の高さから、看取りの患者さんがいらっしゃることもありました。血圧が70へと急激に低下し、患者さんが入院し最期を迎えるという場面もありました。医師の仕事として入院準備の書類についても作成していました。患者さんを診察する時間、内容をデータ化する時間、患者さんが診察室外にいる間も問診票や各クリニックからの紹介状の確認、入院書類の準備、医大病院への紹介状の作成、検査のオーダーなど内科医のすべきことはたくさんあるということがわかりました。

## 3. 考 察

私が実際、身体の不調を訴え病院を訪ねるときによく思っていたことがあります。それは、どうしてこんなにも診察までの待ち時間がかかるのかということです。患者にとって目に見える医師の仕事は患者の診察です。ですが、今回の病院実習を終え、医師が個々の多様な患者にしっかりと向き合うためにいかなる行動を取っているのか非常に理解することができました。問診票に記載された訴えだけに目を向けるのではなく、患者の態度や姿をみて、他の異変に気付き声をかけていたのは印象的でした。また、患者の求めるもの、例えばできるかぎり、カメラを使った消化器検査をしたくないなどの要望にもアドバイスをしつつも適切な対応を考えていた姿に心惹かれました。この地域にはゆっくりとした時間が流れており、ひとりひとりの主張が無視されない、最初から最期までこの地域で生まれ育ち安心して巣立っていくことのできる環境が整っていることがわかりました。それは、立派な医療資材だけが意味を成しているのではなく、この地域で働く医師がこの有田市の人、地域性などに魅了され、より良くしようという思いがあるからではないかと思いました。将来地域に根付き働くことになるであろう私も、その地域に愛着をもち、この街を大切にしたいと思えるようになることが重要ではないかと考えました。

## 4. 謝 辞

最後にはなりますが、コロナウイルスが猛威をふるいはじめた頃2020年に大学に入学した私にとって、このように実際医療の現場に出向き、学びを得る機会をいただけたこと非常に感謝しております。今回お世話になった有田市立病院の貝持先生は、患者に一様の態度で診察するのではなく、それぞれの患者に合わせた声や診療提案等を行っていました。連日朝早くから遅くまで勤務するなか大変なことは多いと思いますが、その、はつらつさが病院内の人たちに笑顔をもたらしているのではないかと強く感じました。このような医師としての鏡の様な方のそばで本実習に臨むことができ、自身のモチベーションにも繋がりました。再度にはなりますが、基礎医学も始まったこの3年生のときに病院でリアルを見ることができたのはとてもよかったですし、これを機にもっと成長したいと思いました。このような実習を企画して下さった方々、有田市立病院で出会った医療スタッフ、患者の方々すべての人に感謝を申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

山本 有美恵

## 1. 実習施設とその地域の概要

### 病院の概要

有田市立病院は、昭和25年10月、有田市の前身である箕島町の国民健康保険直営病院として現在地に開設されました。以降昭和29年の町村合併、同31年の市制施行という開設団体の発展に伴い増大する地域医療の幅広い医療需要に応えるため、施設・設備の充実と診療機能の向上を図りつつ地域住民の健康の保持と増進に大きな役割を果たしてきました。

開設 昭和25年10月25日

開設者 有田市

病院種別 一般病院

診療科名

12科

内科、循環器科、脳神経外科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科

### 有田市の概要

有田市は和歌山県の中部に位置し、紀伊水道に面しています。市中央を流れる有田川沿いに沖積平野が形成され、市街地及び田畑が広がっています。面積は36.83km<sup>2</sup>、総人口は26,553人（推計人口、2022年7月31日現在）、人口密度は942人/km<sup>2</sup>です。人口密度は和歌山県内



の街で7位となっています。名産、特産品は蜜柑や線香で、有田みかんや蚊取り線香発祥の地でもあります。

## 2. 実習内容

### 実習の時間割

#### 1日目

- 9:00-12:00 外来診察、合間に内視鏡検査
- 12:00-13:00 昼休み
- 13:00-14:00 病棟業務
- 14:00-17:30 有熱外来、並行して救急外来  
先生が救急車に同伴したため実習終了



診察室に現れたカニの写真

#### 2日目

- 8:00-9:00 回診
- 9:00-12:00 外来診察（初診のみ）
- 12:00-13:00 昼休み
- 14:00-14:30 カンファレンス
- 14:30-17:00 病棟業務
- 17:00-17:30 病棟見回り

### 実習の内容

外来診察には朝から多くの患者さんが訪れ、怪我、病気の経過観察や検査結果の報告などが行われていました。診察室には小さなカニがいました。有田市立病院には至る所によくいるそうです。

外来診察中に、内視鏡検査も行われていました。実習中には2人の患者さんの検査を見学させていただきました。

病棟業務では先生が担当する入院患者さんへの回診や、薬剤師さん、看護師さんへのオーダー作成や、入院中の薬の調整などが行われていました。

有熱外来は熱がある人の外来診察で、新型コロナウイルス感染症の流行により、本来ならば午前で終わる所、午後にまで延長していました。

救急外来では緊急の患者さんの診察をしていました。

## 3. 考 察

初めに印象に残ったのは、先生が患者さんに対して大きく、聞き取りやすい声ではきはきと話していることでした。医師3年目で若い先生と聞いていたので、これ程しっかりしていると

は思いませんでした。周囲の医師の方々や看護師さん、薬剤師さんと良好な関係を築いていることが、たった2日でも伝わるくらい親しみやすい方でした。

地方の病院では、大学病院と異なり内科医は内科全般を診察しなければならないこと、どの科も和歌山県内で均等になるように分けられているが、珍しい科の先生は大学にしかないことなど、和歌山県内の医療の実態を見ることができました。同僚がいないと業務をまわせないことも多いため、働く人がいることの大切さを、地方の病院ではとても感じるそうです。

また先生は、コロナにより有熱外来の業務が増え、適切な人に救急医療を提供できていないという医療崩壊の状態を悔やんでおられました。

患者さんを1度自宅に返す場合は、どのような状態になったら再び病院に来れば良いのかを明確に伝えていて、医師としての心がけを学びました。末期がんの患者さんには、新型コロナウイルス感染症の流行のため入院してしまうと家族に会えなくなってしまうので、なるべく在宅を勧めていました。地方の病院で働くためには、病気だけではなく患者さんの生活や家族のことも考えて動かなければならないと思いました。

朝夕に回診をし、患者さんと顔を合わすことで患者さんが感じていることや、朝に聞いたことを踏まえてオーダーを作成し、夕方に確認するといった患者さんとコミュニケーションを取ることの大切さも学びました。退院は患者さんが回復して帰ってくれるので1番嬉しいそうです。

地域枠については、若いうちから自分主体で働けること、実際に働くことで学べることが多いことがメリットだと教えていただきました。

学生のうちから社会勉強をするために、様々な種類のバイトをしてコミュニケーション能力を高めていたと仰っていて、参考にしたいと思いました。

#### 4. 謝 辞

今回の実習は医師になること、そして地域で働くことを目指す私にとって、本当に将来の為になることばかりでした。川端先生だけでなく、曲里病院長や、外来診察を見学させていただいた桑島先生、その他の医師の方々や、看護師さんも実習に快く協力してくださりとても感謝しています。今回学んだことを忘れずに、先生方のような医師になれるよう努力したいと思います。

## 6 県立こころの医療センター



■ 位置 >> 和歌山県有田郡有田川町庄31

和歌山県立医科大学医学部地域医療卒5年生

三並 桃佳

### 1. 実習施設とその地域の概要

〈診療科目〉精神科、内科

〈許可病床数〉精神科300床

〈医師〉精神科医：常勤9名（うち精神保健指定医5名）、非常勤1名

内科医：常勤1名（うち精神保健指定医1名）、非常勤1名

〈専門外来〉アルコール依存症外来、ギャンブル依存症外来、児童思春期外来、認知行動療法、禁煙外来

〈沿革〉昭和25年の精神衛生法（旧法）の制定により県において精神病院の設置が義務づけられたことに伴い、昭和27年5月県内5番目の精神病院「五稜病院」として、有田郡吉備町（現有田川町）に開設された。昭和40年から昭和47年にかけて計画的な施設整備を行うとともに、全国的にも早期の段階から入院患者に対する開放的処遇を推進し、患者主体の質の高い開かれた医療を提供する病院として、また本県の精神科医療の中核的病院として精神医療の確保と質的向上をはかっている。その間、精神医療・精神保健を取り巻く状況は大きく変わり、社会的には高齢化による長寿社会を迎え、情報化社会の到来と機械文明の一層の複雑化・高度化により生活環境や生活様式が急激に変化した。これに伴い、老人性精神障害の増加や様々なストレ

スの発生、疾病構造の複雑化などの課題が生じている。また、精神保健法が改正され、精神科医療・精神科保健に求められる役割は、入院治療中心の治療から社会復帰へ、社会復帰から社会経済活動への参加へと変化してきた。こうした課題や社会的ニーズに対応するため、平成11年度から平成14年度にかけて全面的に建て替えを行い、施設を一新し病院名称を「和歌山県立こころの医療センター」と改めた。

## 2. 実習内容

### 〈1日目〉

- 9:00～10:00 病棟回診の見学
- 10:00～11:00 退院前カンファレンスの見学
- 12:00～13:00 施設見学
- 13:00～14:00 外来見学（アルコール依存症）
- 14:00～15:30 外来見学（児童）

### 〈2日目〉

- 9:00～12:00 外来見学

## 3. 考 察

病棟回診では各階にある病棟を見学させていただいた。病棟の出入りには鍵のかかった重い扉を開ける必要があり、厳重に管理されているのだと思った。また、患者さんの疾患によって病棟が分けられており、例えばアルコール依存症患者は携帯を使用できるなど、疾患によって対応が異なっていることを知った。

退院前カンファレンスを見学させていただいた際には、医師、看護師、市役所の職員の方々など多職種が連携して患者さんの希望を聞き、退院後の生活を支援している様子がわかった。疾患に対する医学的な観点だけでなく、自宅の状況やヘルパーの必要性など様々な観点から患者さんの退院後の生活が可能であるのかということを考えており、非常に勉強になった。

施設見学では保護室、アルコールプログラムを行う部屋、中庭などを見学させていただいた。保護室は主に自傷他害の恐れがある患者さんを隔離し、周囲の刺激を避けながら安全に配慮し、休息をとることができる個室であることを知った。部屋にはベッドや机などはなく、布団とトイレがあるだけで、鍵は中から開けることができなかった。保護室ではかなり行動が制限されているように感じたが、患者さん自身や周囲に危険を及ぼさないためには必要なのだと思った。

外来見学ではアルコール依存症やうつ、統合失調症、自閉症の方など様々な患者さんの診察を見学させていた



アルコールプログラムを行う部屋



だいた。特に印象に残っているのは、児童の外来見学である。まず患者さん、母親にそれぞれ個別に話を聞いて、患者さん自身の考え方や母親からみた子供の様子を丁寧に聞いていた。患者さんと話していた際には、質問に対して患者さんが話し始めるのをゆっくり待っていたり、どのような気持ちからその行為をしたくなったのかを聞いていたのが印象的であった。母親と話していた際には、子供の様子の変化をはじめ、患者以外の家族に負担がないかということも聞いていたり、どのように子供に声をかけるべきかという母親からの質問に答えていたのが印象的であった。このように、精神科ではいろんな患者さんやご家族の話を丁寧に聞くことが大切だと学んだ。また、精神保健指定医による診察も見学させていただき、教科書では分からなかった実際の医療保護入院の様子や流れが分かり、大変勉強になった。

#### 4. 謝 辞

最後になりましたが、大変お忙しい中、今回の実習を受け入れてくださった魚谷先生をはじめ和歌山県立こころの医療センターの皆様、企画してくださった和歌山県立医科大学地域医療支援センターの方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。今回の実習で学んだことを活かして、今後地域医療で必要とされる医師になれるように努力しようと思います。2日間、大変有意義な実習をありがとうございました。

## 7 ひだか病院



■ 位置 >> 和歌山県御坊市藪116-2

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠5年生

田中 日向子

### 1. 実習施設とその地域の概要

和歌山県御坊保健医療圏は、面積が579.02km<sup>2</sup>、人口60,324人(2020年)、高齢化率34.10%(65歳以上・2020年)である。人口千対出生率は6.6(全国平均6.6・2021年)で、死亡率は14.4である。人口10万対の主要死亡疾患率は悪性新生物が352.1、心疾患が197.5、肺炎が130.6、脳血管疾患116.3と、心疾患以外は和歌山全県の値を上回っている。圏域内の病院は北出病院、整形外科北裏病院、ひだか病院、和歌山病院があり、ひだか病院は、災害拠点病院・へき地医療拠点病院に指定されている。

ひだか病院は1949年に御坊町外11ヶ村国保組合が母体となり国保日高病院として設立され

た。1979年に複数科の増設に伴い国保日高総合病院と改名し、令和元年にひだか病院と改名された。ひだか病院の特色は、和歌山県内の地域中核病院の中で、5疾病5事業を行える唯一の病院であるということだ。地域の高齢化のため急性期・慢性期病床の設置が求められており、HCU 8床、一般病床 173床、地域包括ケア病床 52床、回復期リハビリテーション病床 30床がある。さらに、第二種感染症指定医療機関であることから、新型コロナウイルス感染者の受け入れも行なっている。

## 2. 実習内容

### ●実習の時間割

8月9日(火)

午前 申し送り

産婦人科病棟見学

産婦人科機器説明

外来見学

子宮卵管造影検査見学

午後 正常分娩について講義

カンファレンス、勉強会

外来見学

8月10日(水)

午前 外来見学

午後 手術見学

2日間の振り返り

### ●実習の内容

1日目は、産婦人科病棟を見学させて頂いた後、地域医療枠4年目の西村先生に産婦人科で使用する器具の説明や、妊婦健診のエコーの見方等を説明して頂いた。その後、山本先生の外来見学をさせて頂いた。妊娠12週から34週まで幅広い週数の妊婦さんが診察に来ており、それぞれの時期で行う検査や、患者さんの状態に合わせた薬の処方などを教えて頂いた。その他、産後2週間と1ヶ月後に行う健診の見学をしたり、子宮摘出後のフォローアップを見学したりした。その後、子宮卵管造影検査の見学をさせて頂いた。検査室では、西村先生に検査で使う器具の説明や結果の見方等を教えて頂いた。カンファレンス前に、西村先生に正常分娩について教わった。カンファレンス後には、曾和先生が前回のカンファレンスで議題に上がった症例に関連する論文をまとめ、産婦人科の先生方が今後の治療について話し合っていた。

2日目は、午前中は西村先生の外来を見学させて頂いた。外来では、妊娠検査薬が陽性になっ

た妊婦さんや、卵巣腫瘍疑いの患者さん、子宮体癌術後の患者さんなど様々な人がいた。午後は、胞状奇胎に対する胞状奇胎除去術と卵管周囲癒着の疑いに対して腹腔鏡で腹腔内を観察しているところを見学した。腹腔鏡手術は、公立那賀病院から西先生がいらっしゃって手術を行っていた。手術後は、西村先生が2日間の症例のまとめを行なってくださった。

### 3. 考 察

大学病院の産婦人科で実習した時に、ハイリスクの妊婦さんや重症度・緊急度の高い患者さんが多い印象だったが、ひだか病院ではリスクの少ない妊婦さんや、婦人科ではがん検診などが多く大学病院との役割が異なるのだと思った。外来では、妊婦さんや妊娠を希望する患者さんが症状だけでなく、家庭や職場の悩みを先生に相談している場面があり、女性にとって大きなイベントである出産を医療者として支えるためには検査や処方だけでなく、時間をかけて話を聞くことも大切なのだと感じた。しかし、県内の産婦人科医師数は73名(2019)と目標80名(2023)と比べて少なく、1人の妊婦さんに十分な時間が取れないのが現状であると思った。

また、ひだか病院の産婦人科は妊娠・分娩管理だけではなく、婦人科疾患の診療も行っており、周辺地域の女性の一生を支える重要な役割があると感じた。

### 4. 謝 辞

最後になりましたが、コロナウイルスの流行で大変お忙しい中、私たちを受け入れて下さった、西村先生、産婦人科の先生方をはじめとするひだか病院の皆様や、見学させて頂いた地域の皆様、研修を企画して下さいました地域医療支援センターの皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。普段は大学病院で実習を行っているのですが、この2日間は地域の病院を見学する貴重な経験となりました。今回の実習で見学させていただいた現場を意識して、今後もより一層精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠4年生

井上 弘康

## 1. 実習施設とその地域の概要

ひだか病院は和歌山県の御坊市に位置している。御坊市は和歌山市から車で45分ほどの距離に位置している。紀中地域に属しており、紀中地域には有田市と御坊市の2つの市があるが、有田市が紀中地域の最北端に位置するのに対し、御坊市は紀中地域のちょうど中心程に位置している。

ひだか病院の診療科は、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、小児科、産婦人科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻



酔科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科、救急科がある。一部の科では常勤の医師はいない。病床は、一般病床が263床、精神病床100床、感染症病床が4床となっている。



## 2. 実習内容

- 1日目午前 外来見学
- 1日目午後 病棟・ムンテラ
- 2日目午前 病棟・外来見学

1日目午前は外来見学であった。誤りもあると思うが、概要は以下の通りだった。

1人目は、通院されている男性で、甲状腺の肥大が見られ、血液検査でも汎血球減少が見られる患者さんであった。

甲状腺については生検を行い、汎血球減少は患者さんが高血圧で通院しているかかりつけの病院でフォローしていくこととなった。当初はひだか病院の血液内科に紹介する予定だったが、かかりつけ医で血液検査を継続的に行っているということで、そこに連絡する形となった。

2人目は、初診の女性で、2週間ほど続く断続的な微熱とそれに伴う頻脈と頭がぼーっとするということを主訴に来院された。下痢があるとのことだったが、それ以外に症状はなかった。

診察を行ったところ、特に異常はなく、加齢に伴う体温調節機能の低下や熱中症が考えられるが、現時点で症状が無いことから、安静に過ごしてくださいということとなった。

3人目は、初診の男性で、昨日より続く嘔吐と腹痛を主訴に来院された。また既往として、1型糖尿病があり、ひだか病院で治療を受けていた。

一通りの問診や聴診を行い、血液検査、腹部CT、点滴を行うこととなった。腹部CTから胃腸炎が考えられた。血液検査の結果、クレアチニンが高く、また血圧が200mgHgを越えているなどのことから、入院での治療ということとなったが、本人の同意が得られず、一度帰宅することとなった。その後、患者さんは帰宅してから頭痛を主訴に入院の希望を申し出、入院することとなった。2日目に様子を伺うこととなったが、血圧は低下しており、画像検査でも異常は見られなかった。食事指導を行うこととなった。

1日目午後は病棟とムンテラがあった。

ムンテラは、ご高齢で寝たきりの患者さんで、肺炎で入院されていたが腹部に腫瘍が見つかり、これを手術で切除したりすることはなく、最後を見守る方針でどうだろうか、ということをお話されていた。

また、DNARの説明もあった。自分は初めて聞いた言葉であったが、心停止時に心肺蘇生を行わなかったり、呼吸がうまくできなくなった時に人工呼吸をしないこと、とのことであった。

高齢の患者さんが心肺停止になった際、心肺停止になったところから蘇生できたとしても脳機能の障害が起きて植物状態になったまま、ただ生きる時間を延ばすだけになってしまうこともある。また、蘇生の成否に関わらず心肺蘇生を行うということは、心臓マッサージによる肋骨の骨折など、体を痛めた状態にするということになる。蘇生が叶わなかった場合、最後の家族との穏やかな時間が失われてしまうといったことにもなる。蘇生をしても首尾良い回復が望めない場合には、あらかじめ蘇生をしないことに同意をしておくこととこのような不幸が防げるので、DNARを取っているとのことであった。

2日目午前は病棟と内科の救急の外来を見学させていただいた。

内科の救急外来では、2時間ほど前に蜂に刺された女性が来院された。蜂に刺されたのは左足の甲とのことであった。刺された部位に痛みはあるそうだが、外見ではあまり腫れておらず、発疹なども無かった。心電図をとった。

蜂に刺された場合には、最も注意すべきはアナフィラキシーであるが、アナフィラキシーは刺されてから3時間以内にほとんどが起り、血圧や脈拍の変化も無く、発疹なども無かったので、痛み止めを処方することとなった。

病棟では、受け持ちの患者さんの様子を確認した。患者さんに何か変わりはないかなどの様子を確認していた。

### 3. 考 察

外来から、患者さんと接する時には、次のことが印象に残った。優しく丁寧で、ハキハキとした言葉遣いで接すること。こちらから一方的に説明するだけでなく、しっかりと相手に何か気になることがあるかなどを聞くこと。また、平易な言葉でわかりやすく伝えること。また、救急の外来で蜂に刺された患者さんには、病院に来ることは正しいと思います、という風に伝え、患者さんが少なからず感じるような救急外来に来院して申し訳ないと思う気持ちをフォローしていた。

ムンテラから、次のことが印象に残った。相手の言っていることに、すごく決めるのが難しいことだと思います、というふうに共感したり寄り添ったりする姿勢を見せること。例え行っても助かる見込みの薄い手術をしないことについて、医療者側のスタンスを「私の考えでは何もせずにお看取りしたいと思っている」と表現することで患者さんに選択肢を持たせること。また、患者さんの腹部の腫瘍についてこれは何なんでしょうねというご家族の問いかけに対し、仮にGISTと予想できてもご家族が求めているのは回答ではなく共感なので、本当に何なんでしょうねと答えていたことも印象に残った。

以上のことから、これらに共通しており一番重要なことは、相手の気持ちを考え、何を言われたら安心するか、という風に常に考えることだと感じた。

## 4. 謝 辞

コロナ禍で大変忙しい中今回の夏季病院実習を計画してくださった地域医療支援センターの方々、学生のために実習を引き受けてくださったひだか病院の皆様、そして2日間に渡り多くのことを教えてくださった小林真生先生、森先生には心より感謝申し上げます。今後自分が医師となる中で、非常に良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科3年生

谷上 大典

### 1. 実習施設とその地域の概要

私が病院実習を行ったひだか病院は御坊保健医療圏の地域中核病院であり、他の中核病院とは異なり精神科病棟があり、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患の5疾病、救急医療や災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療（小児救急医療を含む。）といった5事業を行うことができる病院である。

また、ひだか病院は第二種感染症指定医療機関で、新型コロナウイルス感染拡大に伴い病棟の2階を感染症病棟として用いており、その他病床数の内訳はHCU8床、一般病床173床、地域包括ケア病棟52床、回復期リハビリテーション病棟30床である。

御坊保健医療圏は御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町から構成されており、面積が579.02km<sup>2</sup>、人口が2020年時点で60,324人である。医療施設の中でも病院はひだか病院、国立和歌山病院、北出病院、北裏病院の4施設があり、診療所は55施設ある。（参考にしたサイトは[https://jmap.jp/cities/detail/medical\\_area/3005](https://jmap.jp/cities/detail/medical_area/3005)です。<sup>\*1</sup>）

### 2. 実習内容

1日目の時間割は10時30分から40分までは内科の外来患者さんの診察の見学①、10時45分から55分までは救急外来の患者さんの診察の見学、10時55分から11時15分までは患者さんの奥さんへの聞き取りの見学、11時15分から11時50分までは心エコーなどの検査の見学をした②。昼休憩を挟んで、14時30分から16時までは二人目の救急外来の患者さんの診察を見学し③、16時から16時30分までは病棟訪問と感染症病棟のクリーンルーム見学を行い、16時50分に1日目の実習が終了した。①の患者さんは80代で血中カリウム濃度が高く緊急透析が必要であったため、医大で入院していたがひだか病院に戻ってきた方で、前立腺がんが見つかり生検を行うと転移は見られなかったことから医大に入院して治療を受ける予定になっており、ひだか病院での最後の受診だったようだ。②の患者さんは朝収縮期血圧が



70、病院で計測したときには120になっており、体全体の倦怠感を訴えていた。ペースメーカーを入れており、脳神経外科で頭のほうには異常が見られず、心電図のⅢ誘導に異常があったそうだ。串先生は電解質系の異常あるいは熱中症の可能性があると判断して血液検査を行い、ペースメーカーに異常がないか調べるためにレントゲンや心エコーを行っていた。ペースメーカーには異常が見られず、血液検査の結果心筋梗塞であることが判明し、治療に回された。患者さんとその奥さんへの聞き取りが行われていたが、食い違うところが多々あり、患者さんやその家族さんの話から疾患の見当をつけるのが難しいと感じた。③の患者さんはひだか病院の脳神経外科からの紹介で救急外来にきた90過ぎの方で脳梗塞の既往があり、来院時体温が37.5度あり、発熱外来のPCRの結果が陰性で、昨日昼頃から動けなくなったことが分かっていた。また、脳神経外科の先生が行った血液検査やCT、MRIから正常では0.3ぐらいのCRPが22と異常に高く、白血球が増加し心不全の値、ASTやALTが高いことが判明した。これらのことから左の肺が無気肺で胸水が溜まっていることや肺炎を起こしていることや肝臓にも障害が起こっていることが考えられるそうだ。この患者さんは脳梗塞既往なのでADL（日常生活動作）を家族の人に聞くことが重要であると串先生がおっしゃっていた。患者さんの奥さんとのやりとりから血液サラサラになる薬を飲んでおり、脳梗塞の時すぐに病院に来られたことで後遺症がなかったため介護申請がなく、お酒は脳梗塞以降飲んでいないが、たばこは継続して1日10本吸っていることが分かった。その後、左肺の胸水を抜くために座ってもらいエコーで胸水の貯まっているところを確認し印をつけて後ろから肋骨の隙間に穿刺し、胸水をシリンジで引き抜いているのを見学した。抜いた胸水の一部は検査に出していた。奥さんの同意のもと血液中のアルブミンが少ないのでむくみや胸水を少なくするために血液製剤を入れ、患者さんがご高齢のため入院して回復しなかった場合は延命治療を望むのかどうかを聞き、コロナ感染が拡大しているので入院中は面会できないことや今陰性でも入院してから発症した場合そのフロアの患者さん、スタッフが全員濃厚接触者になり退院が一週間くらい遅れることを伝えていた。

2日目では串先生が病棟医や救急の担当ではなかったため、救急や病棟医の担当の森先生について実習を行った。実習開始前に行われた発熱外来でコロナの検査を行い、10時から10時30分ではコロナの検査結果を受け、結果を本人と保健所に連絡し陽性で重症である場合はPPEを装着し（N95マスク、フェイスシールド、ガウン、帽子など）診察を行い、軽症である場合は本人さんに電話で連絡して症状の確認や解熱薬の処方の有無を聞き、保健所からの指示が来るまで自宅待機してもらうように伝えていた。陽性になると自宅から出られないため解熱薬が欲しい方には出していた。この日発熱外来に来られた4人の方は全員陽性で、重症ではなかったため自宅待機し保健所の指示に従ってもらっていた。10時30分から11時10分までは森先生に地域枠の医師について質問をし、11時10分から14時まで昼休憩をとった。14時から14時半まで感染症病棟の見学をして実習が終了した。



### 3. 考 察

地域の病院ではご年配の方が多いため聞き取りやすいように声をいつもより少し高くしたり、やさしい口調で話したりすることが大切であると思いました。また、インフォームドコンセントを実践し患者さんの質問に丁寧に対応することで、不安や些細な変化を打ち明けてもらえるようになり病気の早期発見につながるのではないかと思います。この実習で印象深かった串先生のお言葉は「ひだか病院は転院してくる側の病院なので患者さんの生活歴を把握することがとても重要である」です。緊急の治療が必要で医大に搬送され治療を受け、病気がよくなった患者さんが地域の病院に移ったときや自宅に戻られたときに生活歴が分からないと患者さんをどうサポートすればよいか分からないからです。

誰が新型コロナウイルスに感染してもおかしくない状況で、ひだか病院でも職員のコロナ感染が増えており、ある階の病床が使えず病床が全て埋まってしまい、医療崩壊を起こすかもしれない状況でも細心の注意をはらいながら医師やその他医療関係者が団結して地域の医療を支えようとしていることが実習中感じられました。

### 4. 謝 辞

新型コロナウイルス感染拡大防止のための和歌山県立医科大学活動制限指針」によるフェーズが「特」に上がった状況で病院実習を予定通り実施していただきありがとうございました。初の地域枠の病院実習で先輩医師の働いている姿を間近で見させていただいて私も先輩医師のような医師になれるよう日々精進していく必要があると感じました。また先輩医師に地域枠について質問をでき貴重なアドバイスをいただくことができました。このような貴重な実習を企画していただきありがとうございます。

参考：\*1 日本医師会 地域医療情報システム 和歌山県御坊医療圏 2022年8月3日

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠3年生

福井 凜

#### 1. 実習施設とその地域の概要

今回僕が7月25、26日に実習を行ったひだか病院は御坊2次医療圏にある地域中核病院であり、和歌山県内の地域中核病院の中では唯一5疾患（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）5事業（周産期医療、救急医療、小児医療、災害時における医療、僻地医療）を行える病院です。ひだか病院のある地域の御坊2次医療圏は和歌山県で4番目に人口の減少率が高い医療圏です。地域の中核となる病院があり、急性期医療の提供能力は全国平均レベルあり、周囲の医療圏からの流入が多い医療圏です。急性期以後は、療養病床は不足気味とのことです。

## 2. 実習内容

### 1日目（7月25日）

9時半前くらいにひだか病院に到着し、9時半から12時まで僕のことを2日間見てくださった森先生の外来の見学を行いました。12時から12時40分くらいまで昼休憩を取り、そこから2時くらいまで再び外来の見学を行い、その後で休憩を取りました。次に15時半くらいから救急外来で溜まった胸水をとる処置の見学を行いました。それが終わってから16時くらいからひだか病院のコロナ感染病棟の見学を行い、実習1日目を終了しました。



### 2日目（7月26日）

昨日と同じくらいの時間にひだか病院に到着し、森先生は2日目は病棟医で発熱外来の担当だったので、その対応の様子を見学し、待ち時間には電子カルテを見させてもらったりしました。また森先生に地域医療や自分の進路選択についての話をしてもらったりしました。その後で長めの昼休憩を取り、14時くらいから森先生と一緒に地域医療枠出身の串先生と感染病棟の見学をし、防護服の着用などをさせてもらい、2日目の実習を終了しました。

### 実習の詳しい内容について

1日目の外来の見学では様々な患者さんが来られていました。最初の方に来た50歳代の男性の方は糖尿病の通院の人で来たときに時間が予定どおりに呼ばれなかったもので、少し不満そうな様子でしたが、森先生が適切に対応し、そのあとは先生の話をしっかり聞き、これからの予定について相談されていました。その方は森先生に担当になって初めての診察だったらしく、森先生は終わってからこういうことはたまにあることだというふうに話しておられました。

次に来た人は20歳代の男性の方でアデノイドが肥大しており睡眠時無呼吸症候群がひどくなったので手術が必要だが、肥満がひどいのでまずそれを入院してコントロールしてから手術をする必要があり、その予定について話していました。糖尿病はそこまでひどくはなく、医大の方でしっかりリハビリなどをする予定でしたが、本人の希望でこちらのひだか病院で入院することになっていました。

他にも多くの方が来ていました。糖尿病の80歳代の女性で血圧が高く、血圧を下げる薬を服用したのですが、その後で逆に血圧が下がりすぎていないか心配になっている方もいました。同伴の息子さんに気のもちようだと言われていて、実際血圧は正常みたいでした。

その後に来た、半年くらい前から足のむくみが見られるものの痛みがなく、心配になった奥さんに連れられてきた男性の方は原因がわかりづらいみたいでした。足のむくみの原因は腎臓が悪い、心不全、甲状腺異常など様々で確定しづらいと言っておられました。とりあえず利尿

剤を処方し、その経過をまず見るみたいで、それですぐ治る人もいればそうでない人もいますみたいで。

喉の痛みと体調不良、立ちくらみがあって病院に来た40歳代の女性の方はまずPCR検査を受け陰性の結果が出た後の診察でした。その方は過去にバセドウ病を患っていたみたいです。バセドウ病は処方する薬のメルカゾールの副作用で白血球（好中球）が減る無顆粒球症を発症することがあるみたいです。この方は一度治ったのですが、最近再び調子が悪くなり検査すると薬を止めたことによりバセドウ病を示す数値が高くなっていて再発の可能性があったので、再び薬を服用し、その副作用で今回体調不良が見られたのではないかという話になっていました。

胸水をとる救急外来は緑茶のような色をした胸水を注射で抜き取り、外に出してを繰り返していました。患者さんは左の肺だけ胸水が溜まっていて、原因はがんや膿瘍など様々あるみたいです。数値の中でアルブミンが少なく、入れる時に奥さんに同意書を書いてもらっていました。アルブミンも輸血と一緒に同意書があるみたいです。

1日目と2日目で見学したひだか病院のコロナ病棟は監視などする必要がある患者さんのための4床プラス52床あって、この時点では85%くらいの使用率みたいでした。レッドゾーンとグリーンゾーンの間は空気が吸引されていて、混ざらないような工夫がされていました。

2日目の発熱外来の担当の待ち時間にしてもらった森先生の話は自分の進路選択の話や地域医療の話がメインでした。森先生は最初の方から内科に行く決めていたみたいです。地域医療枠で外科を選択するとしても内科医として勤務して週一の研修でオペをしたりする感じになることも教えてもらいました。学生のうちに決める必要はないが、研修に行く時までにはある程度いく科を決めておくといいとも言っていました。研修が始まってから気持ちが変わるのは全然いいと言っていました。森先生も今では糖尿病専門ですが、最初はそのつもりはあまりなく、研修でそうすることを決めたみたいです。

### 3. 考 察

外来の診察では聞き覚えのある用語も多く、今までに習った知識を復習する機会もありました。森先生の外来を見ていて、患者さんの質問などに瞬時に対応できる知識を持っていることももちろん重要ですが、患者さんにわかりやすく伝えるだとか、患者さんのことを気にかけてこれからの治療を考えるだとかそのような技術がより大切だと感じたし、日々の診察を積み重ねることで身につけていくことなのかなと思いました。ひだか病院は中核病院なので多くの患者さんが来ていて、家の近くの和歌山ろうさい病院などとほとんど同じのイメージでした。しかし例えば腎臓内科がないなどのことがいくらかあるみたいなので、それをカバーすることが他の内科の医師には必要だし、自分たちでできる治療と任せることを医大などしっかりとコミュニケーションをとることも重要だと感じました。

## 4. 謝 辞

この実習の2日間見てもらった森先生、そして串先生、その他の先生方、看護師さん、事務の方々ありがとうございました。今回学んだことで自分が医師になった時のイメージが少しできましたし、これからの勉強のモチベーションにもなれたと思います。地域医療枠として和歌山に貢献したいという思いも今回でいっそう強くなれたと思います。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

東本 胡桃

### 1. 実習施設とその地域の概要

ひだか病院は和歌山県中部に位置し、紀中・日高地域の中核都市となっている御坊市に位置する。昭和24年に国保日高総合病院として設立されて以来、地域の総合病院としての役割を担っている。ひだか病院は、和歌山県内の地域中核病院の中で、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、5事業（周産期医療、救急医療、小児医療、災害時における医療、へき地医療）ができる唯一の病院である。また、急性期病床だけでなく、地域包括ケア病棟（52床）、回復期リハビリテーション病棟（30床）が設置されており、急性期から回復期まで切れ目なく医療を提供している。

### 2. 実習内容

#### ●スケジュール

（1日目）

9:30	実習開始
9:50～11:30	回診（精神科病棟）
11:30～11:50	施設案内
11:50～13:30	昼休憩
13:30～14:00	回診（一般病棟）
14:00	実習終了

（2日目）

10:00	実習開始
10:10～11:15	回診（精神科病棟）
11:20～13:50	昼休憩
14:00～14:40	デイケア
15:15～15:30	患者さんの家族と面会





### ●実習内容

今回の実習では、精神科の林菜摘先生のもとで見学させていただいた。1日目はまず、精神科病棟に入院されている患者さんや、一般病棟に入院されている患者さんでも長期入院などが原因で、せん妄の症状がある患者さんの回診の見学をさせていただいた。

2日目は、まず1日目と同様に精神科病棟に入院されている患者さんの回診を行った後、外来でデイケアに来られている患者さんと一緒に個人活動を行った。個人活動では、8月に行われる祭りのための提灯を作った。その後、患者さんのご家族との面会に同伴させていただいた。面会では、ご家族の方に患者さんの現在の状態を伝えるとともに、看護師やデイケアサービスのスタッフの方々と一緒に今後の治療方針などを相談していた。

### 3. 考 察

精神科病棟で入院される患者さんの多くは、統合失調症や認知症を患っている方々である。患者さんによっては認知症による徘徊や妄想などの症状により、暴力行為を行う場合があるため精神科病棟自体が閉鎖病棟になっており、別の階への移動やナースステーションの出入りには職員が持つ鍵が必要で、一般病棟とは完全に隔離されている。また、患者さんの妄想による行為などで患者さん自身のけがを防止するために、個室の中に持ち込めるものが制限されていることなど、一般病棟とは異なることが多くあることがわかった。

また、他の身体科の患者さんとは異なり、患者さんの精神状態を知るために、患者さんとのコミュニケーションが唯一の手段となる。そのため、患者さんの話の内容や様子に常に注意を払うことが、より一層患者さんの診断を正確に行うために必要であるとわかった。そのためにも、日頃からの患者さんとのコミュニケーションの取り方が非常に重要になると改めて思った。また、患者さんのご家族との面談の場に同伴させていただいたときには、看護師や地域のデイケアサービスのスタッフなどと協力しながら、患者さん自身とご家族にとって最適なケアを提供できるようにするためにも、コミュニケーションの取り方が重要だとわかった。

さらに、精神科病棟に入院される患者さんは、病気が完治することが難しく、入退院をくり返したり、長期の入院になることが多い。そのため、基本的には対症療法を行い、症状を緩和することが目的となっていることも他の身体科の患者さんへの治療と異なるとわかった。そのため、患者さんの退院の見極めを行うことが難しいということを知った。

最後に、外来でデイケアを受けている患者さんにとって、日々のデイケアは精神状態を安定化させるために必要であることがわかった。精神科の患者さんは症状が安定し、退院できたとしても再び悪化し、入院をくり返す方も多い。そのため、定期的なデイケアを受けることは、患者さんの安定した状態を維持するという点で非常に重要となっていることがわかった。

#### 4. 謝 辞

最後になりましたが、この度お忙しい中実習を受け入れてくださった、林先生をはじめ、ひだか病院の皆様には厚くお礼申し上げます。今回の実習で学んだことを今後に生かせるよう、より一層勉学に励みたいと思います。本当にありがとうございました。

## 8 和歌山病院



■ 位置 >> 和歌山県日高郡美浜町和田1138

## 9 紀南病院



■ 位置 >> 和歌山県田辺市新庄町46番地の70

和歌山県立医科大学医学部地域医療卒5年生

田中 利佳

### 1. 実習施設とその地域の概要

田辺市は、和歌山県中南部に位置する市で、人口・経済の点で和歌山県第二の都市であり、和歌山県南部の経済・産業の中心地でもある。和歌山県内では和歌山市に次いで第2位の人口である。平成22年国勢調査より前回調査からの人口増減をみると、4.11%減の79,107人であり、増減率は県内30市町村中9位。高齢化率（65歳以上・2020年）は33.50%。

紀南病院は田辺市新庄町にある公立紀南病院組合（田辺市、白浜町、上富田町、みなべ町の1市3町で構成する一部事務組合）が設置する病院で、平成17年5月1日に和歌山県田辺市新庄町に新築移転し、紀南の中核病院として医療を提供している。



現在地域基幹病院として23診療科356床（感染病床4床）の体制で診療を行っており、病棟は急性期病床を担う7病棟に加え、在宅復帰を目指す患者を支援する回復期のための地域包括ケア病棟を1病棟設置している。地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関に指定され、7：1看護体制も整備している。また、医療従事者の教育研修にも力を入れており、基幹型臨床研修指定病院（医科）、単独型臨床研修指定病院（歯科）などに指定されており、がん診療、周産期医療、小児医療、救急医療、心疾患治療など充実した医療スタッフと病院機能で地域住民から高い評価を得ている。特に心疾患治療に関しては、心臓センターも開設されており、循環器内科と心臓血管外科が共同して365日24時間体制の循環器診療が行われている。



## 2. 実習内容

はじめに外来を見学させていただいた。画像で異常が見られ来られた患者さんの診察について、現段階では伝えられることが少なくても、その理由なども含めできるだけ患者に寄り添うように話されていたのが印象的だった。また、体調不良等から疾患が見つかり一時入院され、以降外来で治療されていた100歳近いご高齢女性のかたは、今回の検査で状態が軽快している事を知ると、それだけでもかなりお顔が明るくなっていた。現段階の辛い症状がなぜ出ているのか、薬の影響という可能性もあるなどを丁寧に伝え、意見を聞いて服用状況を変えるなどといった話し合いの様子も大変勉強になった。加えて付き添いの方にも良く理解してもらえるように繰り返しの説明を行っていた。患者さんが何度も感謝されている姿を見て、やはり患者に対する医師の向き合い方はとても重要だと感じた。

病院内の見学、相談もさせて頂き、また精査の方向性を決めることが難しい場合、上司の方に相談して、空き時間にすぐ時間をとって相談が可能であったりした所が、自分としても将来安心できる、そうさせて頂きたいと感じた。

骨髄穿刺の様子を見学させて頂けたのも興味深かった。

## 3. 考 察

今現在の業務、研修の様子や頻度、また受持ち患者の割合などを教えて頂き、将来の仕事を想像する良い機会を頂いた。一つの科の疾患だけでなく、内科も見ることが出来るという地域医療のメリットを活かすのも、視野に入れて考えてみるといいかもしれないとのアドバイスも頂いたことで、これからまた回っていく実習の重要性もさらに実感した。

地域医療は総合的な医療が身に付きやすく、例えば患者の直の訴えや、症状、様子の若干の

変化などに気づき、適切な行動を取るといった力が磨かれると感じた。高齢の方も多く、正確な情報が問診のみで得られるとは限らないということも考慮しなければならないと思った。特に地域医療においては、医者と患者の距離が近いので、自覚症状がないような比較的初期の患者にも体の状態を理解できるよう工夫したり、これから危惧されることなどを丁寧に説明、知って頂き、受ける検査や内服薬、改善すべき生活習慣に納得してもらうことを大切にしなければいけないと感じた。

#### 4. 謝 辞

急なお願いにも快く対応していただき、病院の見学や患者さんとの現場だけでなく、地域医療に関わる医師としての貴重な御意見をお聞きする事ができ、大変有意義な時間となりました。紀南病院の先生方、寺本寛先生、貴重なお時間を割いていただき有難うございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠4年生

北畑 亮歩

#### 1. 実習施設とその地域の概要

紀南病院は田辺市新庄町にある紀南の中核病院である。紀南病院では、地域基幹病院として23診療科356床（感染病床4床）の体制で診療を行っている。病棟も急性期病床を担う7病棟に加え、在宅復帰を目指す患者を支援する回復期のための地域包括ケア病棟を1病棟設置している。地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関に指定され、7：1看護体制も整備している。また、医療従事者の教育研修にも力を入れており、基幹型臨床研修指定病院（医科）、単独型臨床研修指定病院（歯科）などに指定されており、多くの学会の認定施設にもなっている。このように充実した医療スタッフと病院機能を持っており、がん診療、周産期医療、小児医療、救急医療、心疾患治療などに対しては地域住民より高い評価を頂いている病院である。特に心疾患治療に関しては、心臓センターも開設しており、循環器内科と心臓血管外科が共同して365日24時間体制で循環器診療に力を注いでいる。「地域住民のための病院」というスタンスは変えることなく、地域のために医療を提供している。



#### 2. 実習内容

7月28日、29日の2日間、産婦人科の武田真一郎先生のもとで実習をさせていただいた。1

1日目は午前中、婦人科の外来を見学した。婦人科の外来では、高齢の患者さんが多く、子宮頸癌や子宮脱、卵巣腫瘍など疾患は様々であった。午後からは産科の外来を見学した。産科の外来では、妊婦さんと胎児の診療をし、健康管理をサポートしていた。

2日目は午前中に子宮摘出手術を見学し、午後は卵巣腫瘍の切除、骨盤内リンパ節の郭清を見学した。

### 3. 考 察

今回地域医療枠の先生と1対1で実習をさせていただいたので、非常に勉強になるいい機会だった。1日目は外来を見学したが、一人一人の患者さんに目を合わせ、治療の説明や状況を丁寧に伝えていたのが印象的だった。話し方や言葉の選び方など実際に目の当たりにする事でも勉強になった。婦人科の外来では、子宮頸癌や卵巣癌の高齢者の患者さんが多かった。患者さんも先生をととても信頼し、理想的な関係を築いていた。産科の外来では、妊婦さんがそれぞれ抱えている悩みが違い、一人一人に対して適切に対応していた。印象的だったのは、頻りに県外に旅行に行っていた妊婦さんに対して、新型コロナウイルスに感染するリスクを説明し、感染すると負担がかかってしまうので自粛するよう言っていたことだ。一方的に厳しく言うのではなく、妊婦さんのことを考え、言葉を選びながら説明していたように感じた。

また、紀南病院における産婦人科は非常に大きな役割を果たしていると感じた。地域に根差した産婦人科として地域住民は安心して思春期から老年期までを過ごせる環境が整っていた。

### 4. 謝 辞

このたびはお忙しい中、2日間貴重な機会をいただきありがとうございました。研修を受け入れていただきました武田先生をはじめ、産婦人科の先生方、紀南病院のスタッフの皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。実際に現場をみることで、学んだことも多く、将来の自分に活かしたいと思います。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

中西 晴奈加

#### 1. 実習施設とその地域の概要

紀南病院は、終戦直後に地域住民のための病院として開設され、平成17年に和歌山県田辺市新庄町に移転した。地域中核病院として、救急医療、災害医療及び周産期医療などの機能を持ち、現在は、23診療科356床の体制で診療を行っている。また、地域がん診療連携拠点病院、和歌山県地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関、新医師臨床研修指定病院であり、

付属看護専門学校を有している。病棟は、急性期病床を担う7病棟に加え、在宅復帰を目指す患者を支援する回復期のための地域包括ケア病棟が1病棟ある。健康診断から心疾患治療、がん診療、周産期医療、小児医療、救急医療など紀南の幅広いニーズに対応できるよう充実した医療スタッフと病院機能を持っている。

田辺二次医療圏は、紀南病院がある田辺市だけでなく、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町から構成され、面積は1579.98km<sup>2</sup>を占めており、和歌山県の医療圏の中で最も広い。人口は、128,161人であり、高齢化率は31.90%で全国平均の26.60%を大きく上回っており、県平均が30.90%であるので、県平均よりも高齢化率が高くなっている。



## 2. 実習内容

はじめに施設の案内をしていただいた。紀南病院は平成17年に新築移転しているため施設が全体的にきれいであった。次に、救急外来の見学をした。見学した時は患者さんが2人治療を受けていた。また、救急外来の施設の隣には、コロナウイルス患者専用のエリアがあり、そこに入るまでの間に防護服を着たりするなどの準備するスペースがあり、自由に立ち入れないようになっていた。そこで感染症対策について教えていただいた。次に外来見学をした。外来施設は心臓血管外科・脳神経外科・麻酔科のAブロックと外科・整形外科・小児外科・呼吸器外科のBブロック、内科・循環器科・消化器科・呼吸器科のCブロックの3つに分かれており、今回の実習ではCブロックで見学をした。Cブロックでは、10くらいの部屋に分かれており、医師や看護師の方々が忙しそうにされていた。また、待合には多くの患者さんが待っていた。次に内視鏡検査の見学をした。内視鏡検査のポイントや、留意することなどの説明をしていただいた。最後に内科の病棟の案内をしていただいた。西病棟と東病棟に分かれており、東病棟は現在コロナ患者専用になっていた。

## 3. 考 察

今回の実習で医師が患者さんの検査や診察、診断をするまでの実践的な過程を実際の医療現場で知ることができた。医師や看護師が入院している患者さんの状態などのいろいろな情報を交換し、話し合う時間があり、医師や看護師、その他の医療従事者が連携して医療を支えており、連携することの大切さを改めて感じた。また、内視鏡検査の見学をさせていただいて、医師は看護師やその他の医療スタッフがチームとなって行っているが、医師がリーダーとなって判断や指示を出しており、医師の重要性和責任の重さを感じた。



#### 4. 謝 辞

この度はお忙しい中、実習の機会を与えてくださりありがとうございました。普段の勉強では学ぶことのできない実際の病院での貴重な経験をさせていただき、たくさんのことを学ぶことができました。この実習で学んだことをこれから生かしていきたいと思います。2日間、ありがとうございました。

## 10 紀南こころの医療センター



■ 位置 >> 和歌山県田辺市たきない町25番1号

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠4年生

岩田 拓巳

### 1. 実習施設とその地域の概要

紀南こころの医療センターの医療特性としては、和歌山県南部地域で唯一の公立精神科病院であり、和歌山県精神科救急医療システム整備事業による精神科救急医療施設および、精神科応急入院指定病院、医療観察法指定通院医療機関として機能していることがある。また、人口約13万人の田辺保健医療圏域において、外来および入院での精神科医療や病院内での作業療法やデイケアといった設備があったり、病院への通院が困難、身寄りがないなどの患者さんに対し、病院職員が家などに訪れる訪問看護を行っている。さらに治療後に、必要に応じた福祉サービスの円滑な利用を提供できるよう、地域医療福祉連携室を設けて各サービスとの連携も行っている。

## 2. 実習内容

実習は7月27日、28日にかけておこなった。まず1日目は、はじめにアイスブレイキングを行った。その際、自分自身が気になっていた新型コロナウイルスによる影響について聞かせていただいた。次にデイケアと作業療法の様子を見学した。ここではソーシャルスキル・トレーニング（SST）の様子や患者さんの作業療法の様子を見ることができた。SSTでは、患者さん一人一人が事前にリクエストした見たい映像（音楽や映画の予告など）を順番に流し、それを訪れた患者さん全員で見ていた。作業療法では患者さんそれぞれがしたいこと（パズルや絵描き、読書、編み物など）を行っており、適時、作業療法士の方が協力するなどしていた。患者さん同士でコミュニケーションを取っていたりもした。そして一日目最後には病棟の見学をした。



実際のSSTの様子

2日目は8時30分から10時30分の間、糸川院長に付き添い、外来の見学をさせていただいた。この2時間間に約20人の患者さんの診察を見ることができた。外来見学の次は、紀南こころの医療センターに近接する共同生活支援助施設「ゆうあいホーム」と作業所「陽だまり」の見学をさせていただいた。ゆうあいホームでは実際に入居者の方が生活する部屋や食事場所を見学させていただき、また、入居者の方がどのように過ごしているかについて様々な話を聞かせていただいた。陽だまりでは、利用者の方々の様子を見学や陽だまりが目的とすることなど様々な話を聞かせていただいた。2日目の最後には振り返りを行った。

## 3. 考 察

4年生になり精神科の授業を受け、教科書などで精神疾患などについて学び、疾患名や症状などを覚えた。しかし、いまいち、不安障害や連合弛緩などが言葉として理解ができて、実際にはどのような状態で患者さんに見られるのかなどを理解するのが難しかった。そこで、夏季病院実習で紀南こころの医療センターを実際に訪れることで精神科に対する理解を深めようと考えた。

以前に、テレビで新型コロナウイルスの後遺症として、何事にも無気力になってしまい、学校に通うことができなくなり高校をやめた子がいると見聞きした。このような症例として、新型コロナウイルスで訪れる患者さんが増えているのかが気になり、質問させていただいたところ、そのようなことはないとのことだった。しかし、10万円の給付金の前後で、金銭面の余裕ができ、うつ状態が軽減する人やまた、躁状態になる人がいたという。新型コロナウイルスにより人との交流が減ったことで、うつなどの精神疾患を患うリスクが高くなると考えていたため印象深かった。また、病棟見学では、患者さんが実際に入院する施設なども見学させていただき、一般病棟と大きく異なり、病室に鍵をかけていることや病棟間でも鍵をかけていること

を実際に目の当たりにし、非常に衝撃を受けた。外来見学では、罪業妄想、貧困妄想、関係妄想、迫害妄想、連合弛緩など、自身で勉強したことを実際に見ることができ、それぞれがどのような症状であるかを深く理解することができた。医療保護入院の適応についても、実際に見学させていただくことができたので、どのような場合に適応するのかなどがわかり、勉強になった。患者さん一人一人が抱える問題が異なる中、糸川院長は疾患に関わるだけでなく、患者さんの生活の様子などについても真摯に向き合って患者さんのことを知ろうとし、患者さんに寄り添っていた。患者さんに対する姿勢や、他の医師の方々とのコミュニケーションなど、たくさんのおことにおいて学ぶことができた。ゆうあいホームでは様々なことを知ることができた。入居する方は病院で入院している時と同様に、職員の方が患者さんの身の周りのほとんどのことを行っていると考えていたが、洗濯や掃除、風呂洗いなどを職員がするのではなく、入居者の方々が当番制にして行っていることが驚きだった。そして陽だまりは、働きたくても働けない人の入門、そして社会復帰するための役割を担っていた。利用者さん同士でコミュニケーションを取りながら作業をすることができる非常に暖かい空間で、利用者さん全員が明るく、楽しそうにいきいきとしていた。利用者さんが本当に過ごしやすい環境が作られていた。特に感銘を受けたのは、利用者さんが次のステップへと羽ばたけるようにすることだけでなく、次のステップへ進んだがうまくいかなかった利用者さんのいつでも戻ってこられる場所としていることだった。ステップアップする際には、新しい職場やそこでの人間関係などへの不安が大きく、精神的不安が大きいと考える。しかし、ゆうあいホームのように、もし失敗してしまってもいつでも帰ってこられる場所が存在することで新たなことに前向きに挑戦することができ、利用者さんの心の支えになっていると考える。

今回の実習を通じて、医師だけでなく、心理療法士や作業療法士、ゆうあいホームの職員の方、陽だまりの職員の方など様々な職種の方々が協力して患者さんの社会復帰の手助けをしていることをより実感することができた。様々な職種の方と連携をとる大切さについて学ぶことができ、良い経験をすることができた。将来自分が医師になり地域医療に貢献する際のお手本を見ることができ、チーム医療に対する意識の向上につながった。今後も勉学および実習に励み、少しでも自分が思い描く医師像に近づくことができるように、今回の貴重な経験を活かし、励んでいこうと思う。

#### 4. 謝 辞

最後に、この度はコロナ禍で大変難しい中、夏季病院実習を計画して下さった地域医療支援センターの先生方、私たち学生のために実習を引き受けて下さった紀南こころの医療センターの皆様、ゆうあいホームの皆様、陽だまりの皆様、そしてお忙しい中、2日間付き添って教えて下さった糸川院長をはじめとする先生方に心より感謝申し上げます。学生の折り返しにあたる時期に、このような機会を設けていただいたことで、再度、医師とは患者さんにとってどの



ような存在であるかを考えることができました。また、精神科についてより深く理解をすることができました。この度の経験を活かし、今後の勉学もより精進していこうと思います。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療専攻3年生

榎本 真太

## 1. 実習施設とその地域の概要

今回実習させていただいた病院は和歌山県田辺市にある紀南こころの医療センターである。和歌山市から田辺市までは電車で1時間10分ほどのところにあり、紀南こころの医療センターはそこからさらにバスで約13分のところに位置している。田辺市は広大な面積を有しており、熊野古道や熊野川、白良浜などの多くの自然に囲まれた町である。また田辺市は和歌山県南部の経済・産業の中心地でもあり、和歌山市から田辺市に向かうにあたり、中南部の他の地域よりも栄えているように感じた。紀南こころの医療センターは和歌山県の南部で唯一の公立精神科病院であり、人口約13万5千人の田辺保健医療圏域の入院、外来診療、地域精神保健、福祉相談などの多くの役割を担っている。また公立病院として民間病院では難しい救急患者や青年期患者、措置患者の医療も行っている。またこの地域、主に紀南こころの医療センターの周辺の地域には障害者の入所施設や通所施設があり、それらの施設への支援も行っている。また病院内には作業療法やデイケアといった設備あり、病院への通院が困難な患者さんには病院の職員が家に訪れる訪問看護も行っている。

## 2. 実習内容

1日目の13時前頃に病院に到着し、事務局への挨拶を終え、事務の人の指示に従い、医局に向かった。医局で医師の方々に挨拶をしてアイスブレイキングを経たのち、実習に移った。まずはデイケアの見学を行った。デイケアとは精神疾患を持つ方を対象としたリハビリテーションを行う場所であり、今回は音楽鑑賞と手作業の場を見学できた。音楽鑑賞では患者さん一人一人の要望に応じて係員の方が音楽を流すという形で進められていた。手作業では編み物が行われており、時々係員の方が手伝うという形で行われていた。デイケアの見学を終えたあとは作業療法の見学に行った。作業療法では読書や編み物やパズルのようなものを、休憩を挟みながら行っていた。また卓球台や調理場などもあり、他の日には料理や運動も行っていることが分かった。そして次に病棟の見学に移った。病棟は3棟に分かれており、それぞれの入り口に鍵がかけられて



デイケアの卓球台

いて隔離病棟となっていた。病棟の中では患者さんたちがラジオ体操や卓球を行っていた。また患者さんによっては部屋に鍵がかかっているところもあった。病棟にはそれぞれに面会の部屋や食堂が設けられており、お風呂場は病棟と病棟の間につくられていた。この日の実習はこれで終わった。

2日目の実習は8時30分から始まり、外来の見学を2時間行った。その後に病院から徒歩5分ほどの場所にある共同生活援助施設「ゆうあいホーム」と作業所「陽だまり」の見学を行った。そして2日間の実習が終了した。

### 3. 考 察

私は今回の実習が大学病院外での初めての实習であった。そして、精神科での実習も初めてであった。デイケアや作業療法の見学を通じてこころの病気は薬や手術以外での治療が大変重要であると実感した。作業療法は定義では身体又は精神に障害のあるもの、又はそれが予想されるものに対して、その主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復・維持及び開発を促す作業活動を用いて行う治療、訓練、指導、援助のこととあるが、統合失調症やうつ病、認知症などそれぞれの疾患によって作業療法における目的や注意点が異なっており、複雑なものであると感じられた。また外来の見学では自閉スペクトラム症やADHD、統合失調症、双極性障害の患者さんを実際に目にした。授業ではそれぞれの病気に対する症状、例えば統合失調症では陽性症状として幻覚や妄想、自我障害、思路の異常があり、陰性症状としては感情鈍麻、自発性消失、自閉などがあると聞いたため、もっと深刻な状態の患者さんが多いと予想していたが、実際はストレスが大きくなるとそのような症状が出てくるといった患者さんも多く存在することが分かった。また医師の患者さんへの接し方を見て、他の科より一層優しい口調で患者さんに寄り添っており、いい意味で患者さんとの隔たりが少ないように感じられた。患者さんの話を聞くことにより、ストレスの軽減をしたり、またデイケアや作業療法をすすめて日常生活や社会復帰の手助けとなるような役割もあるのではないかと考えられた。また患者さんの中には働きたいけど働けない人のサポートを行う若者サポートセンターの人が付き添って診察に来られた患者さんもいて、こころの病気を持っている患者さんには社会復帰をするうえでも医師の力が不可欠なものなのだと感じた。

### 4. 謝 辞

この度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられ、お忙しい中、病院実習に参加させていただき、ありがとうございました。2日間という大変短い時間でしたが、密度の濃い実習にすることができました。病棟や外来見学、デイケアや作業療法など多くのことを知ることができました。これからの大学の講義で精神疾患を学ぶ際、今回の実習で学んだことを思い出しながら勉学に励みたいと思います。今回の実習で普段の日常生活、大学の講義では体験でき

ないことをさせていただき、精神科という科がどのような科であるかを教えてくださいました紀南  
こころの医療センターの糸川院長をはじめとした先生方、患者様に深くお礼申し上げます。

# 11 南和歌山医療センター



■ 位置 >> 和歌山県田辺市たきない町27-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療卒5年生

行岡 翼

## 1. 実習施設とその地域の概要

南和歌山医療センターは和歌山県の紀中に位置し、田辺医療圏で唯一の地域医療支援病院である。田辺医療圏は、南和歌山医療センターがある田辺市だけでなく、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町から構成され、面積は1,579.98km<sup>2</sup>を占めている。これは和歌山県の医療圏の中で最も広い。2020年の国勢調査による人口は、120,871人であり、高齢化率は34.20%と全国平均の28.00%を上回っており、高齢者の多い地域である。田辺医療圏には、都会のように機能特化した病院がいくつもあるわけではないため、患者さんの状態・状況に応じた多彩な医療サービスを提供できるケアミックス病院が必要となる。南和歌山医療センターはその使



命を果たすため、①3次救急を担う救命救急センターや災害拠点病院としての救急医療、②がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などの専門医療、③終末期医療のための緩和ケア病棟、④在宅医療を支援するための包括ケア病棟病棟や在宅医療センターを有し、⑤地域の医療機関・消防・行政・地域住民の方々との連携を行うための地域連携室など、多岐にわたる患者さんの状態や状況に対応している。



## 2. 実習内容

### 実習日程

- 8月8日(月)
  - 午前 消化器内科 カンファレンス見学  
上部消化管内視鏡検査見学
  - 午後 病棟管理  
消化器内科 下部消化管内視鏡検査見学
- 8月9日(火)
  - 午前 内科 外来見学

### 実習の内容

今回の実習は、地域医療卒3年目の内科の小畑先生の手元で、臨床現場を見学させていただいた。1日目は消化器内科のカンファレンスで入院患者さんの情報交換を行ってから、1日内視鏡検査の見学をさせていただいた。健康診断のため上部消化管内視鏡検査や、便潜血陽性で精査となった方の下部消化管内視鏡検査など様々な目的、用途で用いられる内視鏡の手技を見せていただいた。また、内視鏡検査の空いた時間には先生が受け持つ患者さんの情報を整理したり、看護師さんとの連携をしながら入院している患者さんのフォローを見学させていただいた。

2日目は、健診で来られた患者さんや、初診の外来患者さんの診察を見学させていただいた。1日目とは異なり、患者さんやその家族にわかりやすく説明する所や、患者さんの症状を細かく問診しながら、触診も行い、隠れた異常がないかを探しながら診察する大切さを学習した。

## 3. 考 察

南和歌山医療センターは南にある唯一の三次救急病院でありながら、健診や熱中症なども見る地域の病院としての役割も果たしており、都会の同規模の病院と比べると、仕事量も多く忙しい病院であると伺った。重症患者も軽症患者も対応しながら、自分の専門ではない分野の患

者さんの対応など、すべきことがたくさんあると感じた2日間だった。しかしこのような大変な環境の中で過ごしているにも関わらず、指導医や若い先生方はそれをポジティブに捉えていることに感銘を受けた。大学病院で見るような稀な疾患にはあまり会うことは少ないものの、三次救急病院に来る重症患者さんの対応や治療を学ぶことができ、軽症患者さんや健診などで上部・下部消化管内視鏡の手技を多く行えるというように、これら的大変さをメリットとして捉えている点が医師として必要なことだと改めて感じた。また、医師の人数も少ないことから、指導医の先生方ともより密にコミュニケーションを取れるため、細かい部分まで相談できるといった部分も良い所だと感じた。

もう一つ、今回の実習で印象に残ったことはコミュニケーションの重要性である。外来患者さんでも、異常を指摘されてくる方や健診で来られる方など様々であり、かつ年齢層も幅広い。また、一人一人同じ症状で合っても、表現の仕方が違ったり、それぞれの患者さんが持つ不安も異なる。それらを短時間で把握しながら、それぞれに合った方法で患者さんやその家族にわかりやすく説明する高いコミュニケーション能力が必要だと感じた。また入院患者さんは、コロナのために面会が厳しく制限されており、患者さんはもちろんのこと、心配されているご家族のフォローまでできるような医師になりたいと感じた。また患者さんとのコミュニケーションだけでなく、同じ診療科の医師や指導医との情報交換や、看護師さんの方とも情報を共有する重要性を感じた。

#### 4. 謝 辞

この度はお忙しい中、また新型コロナウイルス感染症で大変な中、実習の機会を与えてくださった南和歌山医療センターの皆様、小畑先生、企画してくださった地域医療支援センターの方々、本当にありがとうございました。この2日間の南和歌山医療センターでの実習は、地域で働く医師として何が必要か、何がしたいかを改めて考える良い機会になりました。今回の実習で感じたことを忘れず、今後もより一層、様々なことに精進していきたいと思えます。

ご指導をいただいた先生方、本当にありがとうございました。

## 12 白浜はまゆう病院



■ 位置 >> 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地

# 13 国保すさみ病院



■ 位置 >> 和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見2380

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

奥村 麗

## 1. 実習施設とその地域の概要

国保すさみ病院は和歌山県南部の西牟婁郡すさみ町にあり、内科、外科、リハビリテーション科が設置されておりドクターカーも配備されている。診療圏はすさみ町が中心だが、町内にはいくつかの集落が形成されていたり高齢者が多く自力で病院に来られない方もいたりするため、3つの診療所があり、訪問看護も実施している。一般病床は48床、療養病床は24床あるがそのほとんどが使用されておらず、入院患者も少ない状況である。また、今の病院は南海トラフ巨大地震で津波に浸水する恐れがあることから高台移転することになり、現在建設中で2023年秋に完成する予定である。病床数は人口減少に伴い25床となる。



すさみ町は紀伊半島のほぼ南端に位置しており白浜町、古座川町、串本町に隣接している。また、町域の90パーセント以上が山林で占められており平地が少ないため林業が盛んで、また、太平洋に面しているのでカツオや伊勢エビなど漁業も盛んである。人口が3,696人で年々減少傾向にあり少子高齢化が進んでいるが、子どもは高校生まで助成金が受けられるなど制度を整えている。



## 2. 実習内容

今回の実習は2日間の予定だったが、新型コロナウイルスの影響で1日となった。

午前：内科の外来見学、病院案内、診療所（大鎌、佐本）見学

午後：訪問看護見学

## 3. 考 察

外来見学では、50代以上の患者が多かった。また、認知症や原因不明の発疹、がん切除術後の経過観察など診察の幅が広く、かかりつけ医としての役割が非常に大きいと考えられる。若手の医師は分からないことがあると院長や副院長に質問して自身も学びを深めているという話が印象的だった。

大鎌診療所、佐本診療所は集落のある地域に設置されていた。病院から診療所まで車で30分ほどかかり、高齢者の多い地域なので週1回、隔週1回の診療が地域住民を救うのに重要な機会になっていると考えられる。また、移動中に会った住民と副院長が世間話をしていたのだが、和やかな雰囲気住民ひとりひとりとの距離が非常に近く、そのように病院外でも寄り添うことも大切だと実感した。

訪問看護では、自力で排尿することが難しい患者のトイレの手伝いを見学させていただいた。血圧や体温を測定して記録したりご家族の方に様子を聞いたりしながらも穏やかに進められていた。普段は看護師が一人で数件訪問することもあるそうで、負担が大きいと思うが、病院に行くことが困難な住民にとっては非常に魅力的なシステムだと感じた。

副院長だけでなくほかの医師や看護師の方も患者との距離が想像していたよりも近く、診察や訪問の時間が明るく感じた。地域医療を担う病院ならではの雰囲気で非常に印象に残っている。

## 4. 謝 辞

この度は、コロナ禍でもありお忙しい中、病院実習を受け入れてくださり、心から感謝いたします。診療所や訪問看護の見学などこのような機会ではできない経験をさせていただき、短い間ではありましたが非常に有意義な時間となりました。ありがとうございました。

## 1. 実習施設とその地域の概要

すさみ町は、紀伊半島の南西部に位置し、紀伊山地を背に、白浜町、古座川町、串本町と隣接している。人口は3,696人で、そのうち65歳以上は1,746人である（令和4年5月31日現在）。すさみ町は豊かな自然に恵まれており、農林漁業と観光を主要産業としている。

国保すさみ病院は、昭和48年に開設された。診療科については、内科、外科、リハビリテーション科がある。また、平成22年には、すさみ町訪問看護ステーションを設置した。さらに、国保すさみ病院では、町内の山間地域に開設している佐本診療所、大鎌診療所、大附診療所の3つの診療所へ医師を派遣している。

## 2. 実習内容

### ○1日目

9:00～12:00 内視鏡検査、外来診察の見学

内視鏡検査を見学した。今回は、鎮静剤を使用した場合と使用していない場合の検査を見学することができた。検査中には、患者さんを気遣って時折声掛けをしていた。また、検査をする際にどういうところを見ているのかを教えていただいたり、鎮静剤を使うことのメリット・デメリットを説明していただいた。

その後、外来診察の見学をした。どの患者さんにも、目線を合わせて丁寧な口調でお話ししていたのが印象的だった。

12:00～15:00 佐本診療所での外来診療の見学

すさみ病院から車で約30分のところにある佐本診療所で、外来診療の見学をした。患者さんに以前と体調に変化がないかどうかを確かめたり、検査結果や薬の服用状況を見て薬を処方したり、熱中症対策などの生活のアドバイスをしていた。また、診療所内を案内していただいた際には、診療所でできる検査について説明していただいた。



診療所での診察が終わりすさみ病院に戻った後は、高垣院長と矢本先生から、すさみ病院についてやすさみ町に対する病院の取り組み、地域医療について、さらには医師としての心構えなどたくさんのお話をしていただいた。

## ○2日目

9:00～12:50 内視鏡検査、外来診察の見学

1日目と同様に、内視鏡検査と外来診察の見学をした。二日間の内視鏡検査で、鎮静剤の有無や高齢者と若年者の検査中の違いを見ることができ、同じ検査でも患者さんによってつらさが違うことが分かった。

外来診察では、複数の患者さんが訪れたが、患者さんの年齢や性格に応じて一人ひとり接し方を工夫していた。また、困ったことがあった際に先輩医師に助けを求めよう様子を見て、医師同士の連携を見ることができた。

13:30～14:30 訪問看護の見学

訪問看護に同行し、褥瘡を持つ患者さんのプール浴を見学した。その際の看護師さん同士の会話や家族の方のお話から、入浴の大切さを知った。

15:00～15:30 新型コロナウイルスワクチン接種の見学

ワクチン接種前の問診と、実際にワクチンを接種しているところを見学した。感染対策のために、窓を開けたり、フェイスガードを着用したり、密を避けるために住民の方の来院時間を指定するなどの工夫がなされていた。

## 3. 考 察

今回初めて地域医療の現場を見学し、そこに従事する先生方のお話を伺う中で、地域医療についての知識を深めるとともに、地域医療の医師としての心構えを知ることができた。診察では、患者さんの病気や体調を診るだけでなく、普段どのような生活をしているかを聞いたり、家族の状況を確認したりと患者さんの生活背景も考えている様子が見られた。このように地域住民と深くかかわることは、地域医療の魅力だと感じた。しかし、地域医療ならではの苦勞もあり、内科外科関係なく患者さんを処置する必要があると、指導医がおらず自分一人で対処しなければならないなど、大学病院との大きな違いを学んだ。

また、二日間の実習を通して、話を聞く力の大切さを学ぶことができた。診察の際に、先生の検査の提案に対して患者さんが拒む場面があったのだが、そのときに先生は患者さんのお話を丁寧に聞き、最終的には患者さんの意見を尊重して検査をやめる判断をしていた。そのような場面を初めて見て衝撃を受けたのと同時に、患者さんの話を聞くことで、より患者さんに寄り添った判断ができるのだと思った。また、患者さんが様々な悩みを相談していた場面では、短い診察時間の中でどの悩みを重点的に対処しないといけないかを判断する必要があると先生に教えていただき、そのためには患者さんの話の内容だけでなく話している様子までも気にかける必要があるのではないかと考えた。

#### 4. 謝 辞

この度はお忙しい中、担当してくださった矢本大洋先生をはじめ、国保すさみ病院の皆様には大変温かく指導していただき、心から感謝しております。2日間ではありましたが、多くのことを学び感じ取ることができました。この経験を糧に、将来地域医療に貢献できる医師になれるよう、より一層勉学に励んでいきます。本当にありがとうございました。



## 14 くしもと町立病院



■ 位置 >> 和歌山県東牟婁郡串本町サンゴ台691-7

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠4年生

濱田 琳太郎

### 1. 実習施設とその地域の概要

病院の概要：くしもと町立病院は、平成23年11月1日に地域の中核病院として、また、災害発生時には新宮医療圏における災害支援病院として、国保直営串本病院と国保古座川病院を統合し、海拔53mの高台にあるサンゴ台に開院された。くしもと町立病院は、適正な医療の確保と提供のため、近畿大学医学部の協力を得て、内科、外科、整形リハビリテーション科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、麻酔科、心臓血管外科、の診療科目があり、一般病床90床、療養病床40床を擁し、地域の中核病院として二次救急医療を提供している。また、医学部学生や臨床研修医の地域医療教育研修の教育機関としての役割も担っている。高齢

化が進む地域のニーズである「この町で医療が完結する」安心して暮らせる医療体制の充実を目指し、関連機関との連携を密にし、医療を提供している。

地域の概要：串本町は、紀伊山地を背に潮岬が雄大な太平洋に突き出した本州最南端の町である。太平洋に面し、東西に長く延びた海岸線はこの地方の特色であるリアス式海岸で、奇岩・怪石の雄大な自然美に恵まれ、吉野熊野国立公園の指定を受けている。黒潮の恵みを受けて、年間平均気温17℃前後と気候はいたって温暖。冬季でも平均気温6～8℃でほとんど雪を見ることはない。また総面積は約135km<sup>2</sup>で、その80%を山林が占めているが、地形は比較的ゆるやかである。また1.8kmの沖合には、和歌山県下最大の島、紀伊大島が浮かんでおり、平成11年9月のくしもと大橋開通により本土とつながった。

## 2. 実習内容

- 1日目（7月26日） 12:00～ 病院案内  
 12:20～ 回診見学  
 13:00～ 胸腔穿刺見学  
 グラム染色  
 16:30～ カンファレンス
- 2日目（7月27日） 9:00～ 内視鏡検査見学  
 10:30～ 休憩  
 11:30～ 救急外来見学



今回の実習では、まず事務長さんに病院内を案内していただいた。地域の特徴やくしもと町立病院が担う役割について教えていただいた。その後、今回指導していただいた武内先生の受け持ち患者さんの回診を見学させていただいた。日本紅斑熱の患者さんと間質性肺炎の患者さんであった。患者さんに協力してもらい実際に聴診器を当てさせていただき初めて心音と肺に空気が入る音を聴いた。そして、胸腔穿刺を見学させていただいた。その後、膿胸が疑われていたため採取した検体をグラム染色し観察した。少し休憩を挟んだのちにカンファレンスに参加させていただき1日目は終了した。2日目は内視鏡検査を見学させていただいた。内視鏡自体を見るのも初めてであったことと、どこが異常か、検査のポイント、操作のコツなど丁寧に教えていただき非常に勉強になった。昼休憩を挟んだ後、救急外来を見学させていただいた。海で溺れ、心肺停止の患者さんが運ばれてきた。心肺蘇生を試みたが意識が戻ることはなく亡くなってしまった。救急外来見学後、2日間の実習は終了した。

## 3. 考 察

今回の実習では初めての経験が多く非常に有意義なものとなった。回診見学の際、日本紅斑

熱はマダニに噛まれたことによる感染症で、くしもと町立病院では夏にその患者さんが多く来院すると説明していただいた。疾患にも地域性があるため、将来働く時はその地域を知ることでも大切であると感じた。また、聴診器を用いて心音を聴かせていただいた際、患者さんは学生である私に聴診器を当てられることを快く引き受けてくれたが、これは日々の先生と患者さんの信頼関係が成り立っているからであると感じた。今回、見学させていただいた患者さんは全員先生のことを慕っており、良い関係を築けているから、患者さんのための医療を提供できていると感じた。今年は4年生になり臨床的な知識も増えており、わかることが増えてきているとともに、さらに勉強に励まなければならないと思われた。胸腔穿刺見学では、どのような場合に穿刺を行うのかなどは勉強していたが、手技の手順や細かいポイントなど実際に見学することで初めてわかることも多くあった。教科書などで知識を増やすことも大切だが実際に見ることの重要性に気づく事ができたと思う。また、救急外来の見学で、医師の先生をはじめ消防隊の方々、看護師の方々の患者さんを救けようとする姿を見て、自分の無力さを痛感するとともに自分が先生の立場であったらと考え少し不安になった。将来、僻地の病院で勤務するということは、日本紅斑熱の患者さんを診たり、胸腔穿刺を行ったり、救急外来で対応しなければならない。そのために幅広い知識を持ち、どんな疾患にも対応できるようにならないと感じた。

今回のくしもと町立病院での実習を終えて、自分の将来をイメージする事ができた。そして、将来どんな疾患でも診察できるように今から勉学に励まなければならないと感じた。地域でより良い医療を提供するために個人の力も大切だが、患者さんとの信頼関係、看護師の方など他職種との協力関係、これらの関係も非常に重要であると感じた。

#### 4. 謝 辞

最後になりましたが、コロナ禍で大変な中、研修を受け入れてくれた阪本院長先生をはじめ、指導して下さった武内先生、医局の先生方、そしてこのような貴重な機会を作っていただいた地域医療支援センターの方々はこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療卒3年生

中平 悠馬

#### 1. 実習施設とその地域の概要

くしもと町立病院は、本州最南端に位置する町、串本町にある。沿岸部は吉野熊野国立公園地域に指定されており、サンゴ礁が広がる自然豊かな町である。そのため、夏には多くの観光客やマリンスポーツを楽しむ人が訪れる。一方で、現在人口約14,000人の町は高齢化率が45%

を超え、人口減少が進んでいる。

本院は地域の中核病院として、また、災害発生時には新宮医療圏における災害支援病院として、平成23年に海拔53mの高台に開院した。内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科・小児科専門外来、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科の9診療科、一般病床90床、療養病床24床を擁し、地域の中核病院として二次救急医療を提供している。また、今年7月から、要介護者に対して長期療養のための医療と日常生活上の支援を一体的に提供する「介護医療院」を、自治体運営としては県内で初めて開設した。

## 2. 実習内容

### 1日目

- 午前 抗原検査  
病院見学および回診見学
- 午後 救急外来見学

### 2日目

- 午前 カンファレンス  
内科外来見学
- 午後 胸腔ドレナージ見学  
グラム染色  
まとめ



2日間、宮井優先生のもとで実習をさせていただいた。

1日目は、まず実習を受けるにあたり、新型コロナウイルスの抗原検査を行った。待っている間、多くの車がドライブスルー方式によるPCR検査を受けるために列をなしていた。陰性結果が出た後、まず担当の宮井先生と2日間の実習内容について確認をした。その後、病院見学を兼ねながら先生の朝の回診を見学した。昼食を挟み、午後は3人の患者さんの救急外来を見学した。1人目は失神が起きた患者さんであったため、来院されるまでの間に、意識レベルの評価指標であるGCSについて学んだ。そして、診察では実際に意識レベルを測る項目を患者さんに質問させていただいた。2人目の患者さんの前には、発熱（風邪）の症状と診察における注意点、肺の聴診について先生が詳しく説明してくださった。そして、発熱患者さんとA群β溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者さんの診察を見学し、実際の患者さんの咽頭の様子を見ることができた。最後に、2人目の発熱患者さんが日本紅斑熱の疑いで入院されたので、回診の際に発疹の様子を見させていただいた。

2日目は、初めに医局でカンファレンスが行われた。カンファレンスでは、今後の新型コロナウイルスワクチン接種の予定等を確認していた。その後、カルテを見て入院患者さんの昨晚



の変化等を確認し、回診を行ったのち、外来を見学した。外来では、病状の変化や進行度を見ることに加え、それぞれの患者さんの年齢、自宅から病院までの距離なども考慮して治療方針を立てていた。また、胸部レントゲンの読み方を教わった。外来の最後には、肺がんで対症療法を希望されて他院から紹介で来た患者さんの診察があった。患者さん本人が席をはずしてご家族と今後の方針について話す際には、先生は、話を聞くのが辛いのかを訊ねながら、転移が広がっていること、余命、今後予想される症状の変化について丁寧に説明されていた。午後は、外来で胸水が見つかり膿胸の疑いがある患者さんに先生が胸腔ドレナージを行う様子を見学した。その後、検体をグラム染色させていただいた。細菌は見られず、癌性胸水の疑いが強いとのことだった。最後に先生と振り返りを行った。

### 3. 考 察

まず、地域医療において内科医は内科全般を診られることが必要不可欠であることを改めて実感した2日間だった。宮井先生は呼吸器内科が専門であるが、回診、外来では尿路感染症や脳梗塞等の内科の他の領域も診察しており、また当直では外科の症例も担当することがあるようだ。幅広い領域を診る一方で、先生は専門分野である呼吸器内科についての勉強、他の病院での研修もされており、地域医療を担っている若い先生方は幅広い診療と専門分野の勉強を両立する忙しい生活をされているのだと感じた。

現在は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、入院患者さんは家族と自由に面会することができない。患者さんも家族もお互いのことを心配している様子が見られるといい、そのため先生方は週に一度、家族に病状や生活の様子を伝えるなど、双方の不安を取り除くために尽力されていることがわかった。一方で、外来の際には喫煙・飲酒に対する指導もその都度はっきりとした言葉でされており、患者さんの健康のために時に医師として強く伝える姿が印象に残った。

大学の授業や教科書だけでは実感がなく覚えられないことも、「あの先生と一緒に診た時の症例だ」というように実際に経験することで身につくのだと教えてくださった。今回、これまでに生理学や微生物学の授業で習ったことを思い出すことが何度もあり、この実習を経て知識を経験として身につけることができたと思う。また、今はまだ大学で習っていない評価指標や診察の仕方、手技についても現場で学ぶことができ、今回の実習を思い出して覚えられると思う。手技は先輩医師のものをたくさん見てイメージトレーニングをすると良いと教えてくださったので、機会があれば学生のうちからたくさん見て学びたい。

### 4. 謝 辞

コロナ禍でお忙しい中実習を受け入れてくださった、くしもと町立病院の皆様、実習にご協力いただいた患者様に御礼申し上げます。担当してくださった宮井優先生には大変お世話になりました。宮井先生は、知識が未熟な私のために様々な病気や診察方法について説明してくだ

さるとともに簡単な診察体験もさせていただきました。また、今回の実習は、私にとって入学して初めて地域医療卒ご出身で働いている先生と直接お会いする機会でした。現場を見たり、先生のご経験を伺ったりする中で、自身の将来について具体的なイメージを持つことができたことは私の大きな財産です。本当にありがとうございました。

## 15 古座川町国保七川診療所



■ 位置 >> 和歌山県東牟婁郡古座川町下露376

## 16 那智勝浦町立温泉病院



■ 位置 >> 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町天満1185-4

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠4年生

山下 光

### 1. 実習施設とその地域の概要について

実習施設は那智勝浦町立温泉病院で、診療科は内科、循環器科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科があり、救急告示病院・災害支援病院、地域リハビリテーション広域支援センター、臨床研修病院（協力型）に指定されている。那智勝浦町は、紀伊半島の南東端に位置し、気候温暖にして風光明媚、雄大な自然に恵まれ暖かさ、豊かさ、厚い人情が溢れる町として紹介されている。





## 2. 実習内容

8/2の実習内容；施設案内、入院患者さんの電子カルテについての説明、カンファレンスの見学

8/3の実習内容；外来診療の見学

### 施設案内

主に内科、整形外科、リハビリテーション科が設置されており、リハビリ科は和医大から医師も来ており、規模も大きかった。コロナ禍というのもあり、コロナ病棟と一般病棟のライン引きが厳重に行われており、改めて医療現場では感染症のコントロールが大切であると感じた。

### 入院患者さんの電子カルテについての説明

肺炎、消化器穿孔などの患者さんの病態について、CT・レントゲンを見ながら説明していただいた。具体的には、肺に空洞性の異常が見られたら、まずは結核を疑わないといけないということや、膿胸は抗菌薬が効きにくく、本来ならドレナージをしないといけないが、侵襲性も上がるため、高齢者では患者さんの希望や症状などを考慮する必要があるといった事が印象的だった。薬のオーダーはいつまでにしないといけないかの期限が決まっていて、大変とおっしゃっていた。高齢の患者さんが多く、緊急時の延命治療の必要性、患者さんをいかに楽にしてあげるかが大切（絶食、積極的な点滴の必要性など）であることを学んだ。また、当直は医師一人に対応（和医大などでは、それぞれの科に専門の医師が配置されている）しなければいけないため、内科医でも怪我などの外科的な処置をする必要があるように、地域医療では幅広い処置ができないといけないなと感じた。

### カンファレンスの見学

それぞれの医師が担当する患者さんについて情報を共有し、また、病態の把握や加えてどのような検査が必要であるかなどを話し合っている様子を見学させていただいた。私自身、初めてカンファレンスを見たので、モチベーションの向上につながった。カンファレンスは一人では気づけなかった点を認識するために欠かせないものだと感じた。

### 外来診療の見学

体調不良、喘息、高血圧、脂質異常症、糖尿病など様々な患者さんの診療を見学させていただいた。高齢者で生活習慣病に関する外来が多かったように感じた。地域医療の内科の実際の診療を見学させていただいて、common diseaseについての知識は必要不可欠であると改めて感じた。

### 3. 考 察

実際に地域医療の現場を見学させていただき、貴重な経験を積む事ができた。特に印象的だったことは、高齢の患者さんが多いこと、当直が一人であるということである。高齢となると、積極的な延命治療の必要性についてよく考えなければいけないと学んだ。患者さんの希望は優先される医療において、医師は何を意識しないといけないか、それは患者さんのQOL向上を目標として、医療的な視点から患者さんがより良い選択をできるように導いてあげることではないかと今回の実習を通して感じるようになった。それに加え、地域医療では、当直が一人で任されるように、幅広く知識と技術が必要とされ、専門医との架け橋の存在である必要があると改めて感じ、また、私自身もそのような医師を目指せるように今後の学生生活を充実したのしたいと思う。

### 4. 謝 辞

地域医療実習として、充実した実習を企画してくださった先生方、2日間にわたり指導してくださった竹中先生と那智勝浦町立温泉病院の先生方、スタッフの皆様に関心から感謝いたします。実習の経験を生かし、これからの学生生活をより良いものとしていけるよう頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠3年生

三住 晃士

#### 1. 実習施設とその地域の概要

那智勝浦町立温泉病院が位置する那智勝浦町は、和歌山県東牟婁郡の町である。人口は1.41万人である。駅周辺は店等も多く発展していたが、少し離れると落ち着いた雰囲気であった。那智の滝、温泉、まぐろ等が有名なため、観光地である。私が滞在した時も、観光客でにぎわっていた。しかし、2020年時点での高齢化率は43.4%であり、県平均の33.0%と比較すると高齢化が進んでいる町と言える。

那智勝浦町立温泉病院は、以前まで海沿いに位置していた。しかし、南海トラフ地震の津波への対策のため、平成30年に移転した。したがって、病院内が非常にきれいであった。病院としては、内科・整形外科・リハビリ科・眼科を標榜している。特にリハビリ科は、テレビで紹介されたほど有名という。設備としては、別病院に勤務する上級医の先生と連絡が取れる「T-ICU」、グループLINEのように使える「JOIN」が印象的であった。また、病院内には足湯が設置されていた。現在は新型コロ



ナウウイルスの感染対策のため、使用していないそうだが温泉地という特性を利用した良い設備だと感じた。

## 2. 実習内容

### 1日目

- 12:20 那智勝浦町立温泉病院到着
- 12:20~13:20 PCR検査（自分が陽性でないか検査を受けた。）
- 13:20~17:00 病院内施設の見学、先生方と地域枠の制度等について雑談

### 施設の見学について

項目1. に詳しく記載済

### 地域枠についての雑談について

現場で働く先生方に地域医療の実情を伺った。川村先生は整形外科医を目指しており、「地域枠だからと言って内科にこだわる必要はない。内科の業務もしないといけないが、医師として最も基本の業務であり、無駄になることはない」とおっしゃっていた。僕、自身は現在、循環器内科や小児科に興味があるがもっと広い視点で見ようと思わされた。また、僕自身、和医大の地域枠の制度についてあやふやな点もあったので、再確認につなげることができた。那智勝浦町立温泉病院は地域枠の先生方も多く、居心地が良い病院だと感じた。

### 2日目

- 8:30 医局に集合
- 8:30~9:00 カンファレンス
- 9:00~12:00 外来見学
- 12:00~13:00 休憩
- 13:00~14:00 手術見学
- 14:00~15:00 休憩
- 15:00~16:00 回診
- 16:10~17:00 検討会
- 17:00 病院実習終了

### カンファレンスについて

その日行われる手術などについて話していた。実習生として、僕自身の自己紹介も行った。

## 外来見学について

整形外科及び内科の外来見学をした。整形外科の処置（足の親指を挟み、腫れを伴う状態）を見学した。整形外科においても内科においても、医師と患者さんとの距離が近く、よく知った仲になっている様子であった。医師数が少ない地域の病院の特徴だと思われる。また、カルテを見て、「身体に力が入らないということはマヒが一番怖い。患者さんの言葉もそうだが、患者さんがどのように病室に入ってくるかも見分けるのに重要」と川村先生がおっしゃっており、勉強になった。

## 手術見学について

関節に生じるガングリオンの除去手術を見学させてもらった。ガングリオンとは関節にゼリー状の物質がたまり、腫瘤を形成する状態である。手術見学では、手術の雰囲気味わうことができた。まだ手術見学の回数も少なく、貴重な体験になった。手の洗い方についての指導も受けた。清潔であることをとにかく意識しないといけないと思わされた。

## 回診について

回診に同行した。病院に入院している患者さんの実情を知ることができた。患者さん一人一人に真摯に接していた。

## 検討会について

病院内の患者さんの状態を見て、治療方針などを決めていた。医学用語が多く理解が難しい部分が多かったため、しっかり勉強しないといけないと思わされた。

## 3. 考 察

高齢化率が非常に高く、那智勝浦町立温泉病院以外に大きな病院がない那智勝浦町であるが、さまざまな工夫がなされている病院だと感じた。例えば、内科・整形外科・リハビリ科があれば、重い病気への治療は難しいかもしれないが高齢者によくみられる症状などを緩和し、一つの病院である程度は医療を完結することができる。また、「T-ICU」、「JOIN」などを活用することにより、医師不足にも対応することができる。さらに、足湯を活用することにより、患者さんを身体面だけでなく精神面からも治療することができるだろう。先生方は、患者さんとの距離が近かったため、コミュニケーション力がより必要なのではと感じた。

## 4. 謝 辞

川村晃大先生、那智勝浦町立温泉病院の皆様、この度は病院実習に協力して下さりありがとうございました。医療に関してまだまだ未熟な私ですが、病院実習を通し、地域医療の実情を



掴むことができたと思います。またご縁がありましたら、よろしく申し上げます。

最後になりますが、地域医療支援センターの皆様、この度は病院実習に協力して下さりありがとうございました。今後とも、何卒よろしくお願いたします。

和歌山県立医科大学医学部地域医療専攻2年生

石田 聖葉

## 1. 実習施設とその地域の概要

那智勝浦町立温泉病院は昭和39年に開設され、今回実習で訪れたのは平成30年に新たに開院した新病院である。新病院は地震・津波への対応のため高台に建てられており、病院の4階からは那智勝浦町を見渡すことができる。温泉病院という名前の通りその地の温泉を生かして玄関付近には足湯が設置されている。診療科目は内科、循環器内科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科であり、中でもリハビリテーション科に力を入れている。そこでは入院リハビリテーション治療を行っており、日常生活における介護量を低減させることにも繋がっている。

病院がある那智勝浦町は紀伊半島の南東端に位置する人口14,386人（令和4年1月時点）、面積183.31km<sup>2</sup>の町で、いくつかの町や村が合併して現在の姿となっている。一段の滝としては落差日本一的那智の滝があったり、温泉泉源が和歌山県一多かったりと、観光地としても魅力的な自然豊かな町である。

## 2. 実習内容

### 1日目（7月26日）

- 8:30 カンファレンス
- 9:00 診察
- 15:00 回診
- 16:00 カンファレンス

### 2日目（7月27日）

- 8:30 カンファレンス
- 9:00 エコー検査



1日目、病院を訪ねるとまず事務の方が院内を案内して下さった。医局にて今回担当して下さった谷河先生とお会いし、朝のカンファレンスの様子を見せていただいた。入院患者さんの情報を共有し、検査を行うかどうかなど相談していた。その後は谷河先生の診察の様子を見せていただいた。糖尿病の患者さんなど、定期的に病院に来て検査を受けている再診の方が

多いようだった。新患は基本的に研修医が診ていて、診察の合間には研修医や看護師の相談を受けている様子も見られた。前院長の山本先生の診察の様子もを見せていただいたが、患者さんの持ち物を褒めたり、冗談を言ったりして患者さんと和やかに話している様子が印象的だった。先生によって患者さんとの話し方に違いが見られた。15時の回診まで時間があつたので他の内科の先生が大腸カメラ検査をしている様子を見せていただいたり、力を入れているリハビリテーション科の大きなリハビリ器具を見せていただいたりした。その後回診では先生方が集まって、病棟の患者さんの様子を見に行った。それぞれの患者さんについて山本先生にお話しし、山本先生自身が一人一人の患者さんの顔を見て、お話している様子が見られた。1日の最後もカンファレンスで、その日新たに入院した患者さんの情報なども共有していた。

2日目もカンファレンスから始まった。その日は谷河先生がエコーの検査を行っている様子を見せていただいた。肝臓・膵臓と甲状腺のエコーの様子を見た。その後救急処置室や放射線の検査室の裏側など1日目よりも詳しく病院内を先生方の目線で見せていただくことができた。

### 3. 考 察

まだ2年生の私は専門的な知識を持っておらず分からないことも多かったが、今回の実習は病院を医師の目線で見ると貴重な機会となった。何よりも印象的だったのは先生方同士でお話をして情報共有や相談する機会が多く設けられていたことだった。担当医が担当患者を診る一对一の治療ではなく、病院全体で患者さんを診ているような印象であった。入院患者はやはり高齢の方が多く、治すだけの医療ではなく、患者さんの生き方に寄り添う終末期医療の様子をみた。検査や治療には患者さんへの負担が大きいものもあって、患者さんによって最適は異なるのだと分かった。また診察の際にムカデに刺されたという患者さんがいて、その地域にムカデが多いことを知った。地域特有の症状があり、その地域を知ることが大切だと思った。

谷河先生からは地域医療枠の制度について先輩として改めてお話をしていただき、自分の将来について具体的に考えるきっかけとなった。また今まさに大学で学んでいることやこれから勉強することが医師になった時にどう活かされるのかというお話もしていただいて、学生の今できる努力をしたいと思った。

コロナ禍の今は病棟の一角をコロナ患者のためのスペースにして、テレビ電話など直接会わずにお話しできるような工夫がされていた。実習の2日間でもコロナウイルスの感染者が何人も来られたのでまだまだ収束していない現状を見たと思う。

### 4. 謝 辞

コロナ禍でお忙しい中時間を割いていただき、貴重な体験をさせていただいた那智勝浦町立温泉病院の谷河先生をはじめとする先生方に深く感謝申し上げます。谷河先生だけでなく、他の先生方にもお声がけいただいたり見学させていただいたりしました。こんなに多くの先生方

と関わる事ができるとは思っていなかったの先生方の温かさをとても嬉しく思いました。  
実り多い実習となりました。本当にありがとうございました。

## 17 新宮市立医療センター



■ 位置 >> 和歌山県新宮市蜂伏18-7

和歌山県立医科大学医学部地域医療卒5年生

井上 涼介

### 1. 実習施設とその地域の概要

新宮市立医療センターは和歌山県新宮市に位置し、新宮市、東牟婁郡の新宮保健医療圏に加え、田辺市本宮町、奈良県十津川村、三重県熊野市及び南牟婁郡からの広汎な地域の人口約12万人の医療対象者を受け持ち、急性期病床を中心としつつ、地域包括ケア病棟を含む285床を擁している。

診療科目は内科、腎臓内科、循環器内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経科、整形外科、泌尿器科、形成外科、放射線科、皮膚科、歯科口腔外科、脳神経内科、呼吸器外科・心臓血管外科の19科が存在する。病床数は一般病床



276床、2類感染病床4床、HCU 5床となっている。病室構成は特別室が4室、クリーン室が4室、1床室が66室、2床室が3室、4床室が196室、2類感染症室は2室、HCU1室となっている。個室率は26%である。

次に新宮市の概要について述べる。新宮市は和歌山県南部にある市で熊野川の河口に位置する。面積255.23km<sup>2</sup>、推計人口26,328人（2022/8/1）であり、高齢化率は37.20%で、隣接自治体には田辺市、東牟婁郡古座川町、那智勝浦町、三重県熊野市、南牟婁郡紀宝町、奈良県吉野郡十津川村がある。

1933年に東牟婁郡新宮町・三輪崎町が合併して新宮市が発足し、2005年に新宮市が東牟婁郡熊野川町と合併して現在の新宮市が発足した。



## 2. 実習内容

### [1日目] 救急外来対応、内視鏡検査

救急外来対応では、見逃してはいけない疾患とその対応について教えていただいた。

内視鏡検査の見学では、大学との環境の違いを見ることができた。

### [2日目] 入院患者管理、外来診察

入院患者のカルテから疾患について説明していただいた。

外来診察を見学させていただいた。

## 3. 考 察

1日目の救急外来対応では、緊急で処置をしなければならない疾患の鑑別、またそれに対する検査、検査の解釈、治療といった一連の流れを教えていただき、座学で得た知識の重要性を確認できた。しかし、病気の進行に伴う症状の出方など、実際の臨床の場で必要な知識が整理できていないと感じ、今後は実習を通して病態の流れを理解するようにしようと思った。

2日目の外来診察では、専門が内科ではない先生の診察を見学させていただいた。自分の専門領域でなくても地域で診療する際は最低限内科をこなせる必要があることを実際にみて学ぶことができた。

## 4. 謝 辞

最後になりましたが、今回お忙しい中研修を受け入れていただきました向井先生をはじめ、新宮市立医療センターの職員の皆様、また研修の準備をしていただきました地域医療支援センターの皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。2日間の実習を通じて、今後の勉強や実

習に対する取り組み方を改めて考えることができました。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠3年生

土山 徳季

## 1. 実習施設とその地域の概要

令和4年夏季病院実習に参加させていただいた病院は和歌山県新宮市にある新宮市立医療センターである。新宮市は和歌山市から電車で3時間のところにあり、山々に囲まれ、自然豊かで世界遺産の那智の滝が近くにある。街中は想像以上に活気があった一方で、一度細道に入ると古民家が立ち並び、とても風情があり非日常を与えてくれる場所であった。実習先の病院までは駅からバスで30分ほどかかった。新宮市立医療センターは和歌山県の地域中核病院の一つであり、内科や外科をはじめとする様々な診療科を有する病院である。新宮市立医療センターは和歌山県の田辺保健医療圏より南部に住んでいる方だけでなく、奈良県や三重県の南部に住んでいる人も訪れる病院で、複数の地域から患者が集まる病院となっている。私は今回、そんな新宮市立医療センターの産婦人科を実習先に選んだ。新宮市立医療センターの産婦人科といえば、最近産婦人科で勤めていた医師が辞め、常勤の医師が一人となり分娩が行えなくなっていたが、医師が2人派遣されたことで分娩が開始されたことで少し話題になった部署だと思う。私もこのニュースを知っていたため、実習で行ったときに当時の様子について質問しようと思っていた。



## 2. 実習内容

1日目の12時半過ぎに病院に到着し、事務局に挨拶した後すぐに実習が始まった。まずは普段外来患者を診察する診察室を案内していただき、エコーや検診台、クスコ腔鏡を見せてもらったり、触らせてもらったりした。その後、ナースステーションに行き、もうすぐ赤ちゃんが生まれる妊婦さんが分娩室にいらっしゃって、その妊婦さんとお腹の中の赤ちゃんの心拍がわかるモニターの前で、出産時に産科医が何をしているのか、赤ちゃんがどんなふうに出てくるのかについて予習をしていた。すると、モニターに異変が生じ、担当の先生が確認しに行くと、陣痛が始まりお産が進行し始めた。そこで、妊婦さんに許可を頂き、一緒にお産を見ることができた。赤ちゃんが生まれてくるところを間近で見ることができ、また、胎盤の摘出の様子や分娩後の母体の診察の様子を観察したり、生まれたばかりの赤ちゃんの診察を体験したりした。お産の終了後、先ほどまで母体の中にあった胎盤とへその緒を実際に触らせてもらった。いろいろな体験をし終えた後、東京から来られた産科医の先生といろいろ話をさせていただいて、

この日の実習はこれで終わった。

2日目は10時から実習が始まり、外来の様子やエコーの使い方を教えてもらい、二日間の実習が終わった。

### 3. 考 察

私は初めて外の病院の実習に参加した。新宮市立医療センターは新宮駅からバスで30分のところにあるため、将来そこで働くためには車は必要不可欠だと感じた。また、最近まで常勤の医師不足でお産ができなかったということを病院実習に参加して改めて、今日の診療科の偏在化状態を危惧した。特に新宮市立医療センターは和歌山県の患者だけでなく、奈良県や三重県からの患者も多く通院する病院であるため、医師不足で診療が止まると多くの患者に影響を及ぼす。ただでさえ和歌山県の医師数は全国的に見ても十分な数はいるのに、医師の偏在化で都会の方に医師が集まり、田舎の方の医師の数が少なくなっているのにもかかわらず、産婦人科は一年中お産があるためにさまざまな診療科がある中でも特に重労働の診療科であるため、志望する医師が少ないために地域の産科医が少ないという話を聞いた。それを解消するためにこの度、大学に産科枠が作られたこともこの状況を打破するための策だったのかと思った。そして、初めてお産を見て、生まれてきた赤ちゃんの産声を聞いた瞬間、新しい命の誕生にとっても感銘を受けた。生まれたての赤ちゃんは本当にきれいで無垢な香りがした。赤ちゃんの診察では肺の音や心臓の音を小さな聴診器で聞かせてもらった。私たちの心臓の音より心臓が速く動いているのが聞き取れて、頑張っているのだなと愛おしく感じた。また、今回見させていただいたお産はすごい安産で陣痛が来てから赤ちゃんが生まれるまであっという間に終わった。こんなにスムーズにいく出産は珍しいらしい。胎盤の摘出の際、出血量が少ないと言われていたとはいえ、思っていた以上に出血しているのを目の当たりして少し気が飛びそうになった。初めての経験でいろいろ困惑したこともあったが、普段経験できないことをさせていただいてとても勉強になったし、早く病院実習をしたいと思うようになった。

### 4. 謝 辞

この度はコロナウイルス感染症の流行拡大で大変忙しい時期に病院実習に参加させていただき誠にありがとうございました。二日間というとても短い時間でしたが、とても密度の濃い時間を過ごさせていただきました。今回は運がよく出産の様子を見ることができ、赤ちゃんがどんなふう生まれ、産科医はどんなことをしているのか少しわかった気がします。私は今まで将来は内科に進むことばかり考えていました。しかし、この実習を経て産婦人科の良さもわかり、産婦人科も将来の志望科候補に入りました。若いうちにみっちり働きたいと思っている私からしたら産科医で働くのも悪くないのかなと思います。また、同じ地域枠の先輩としていろいろアドバイスをいただき、より一層身の引き締まる思いでいっぱいです。今回の実習で普段

経験できないことをさせてもらい、新しい将来の選択肢を増やさせてもらった新宮市立医療センターの産婦人科の先生方、妊婦さんに深く感謝申し上げます。

また機会がありましたらお会いできるのを楽しみにしております。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠2年生

中西 歩登

## 1. 実習施設とその地域の概要

新宮市は和歌山の南東部に位置する市であり、人口は令和3年度の統計では27,647人となっているが、減少傾向にある<sup>1</sup>。新宮市は京阪神（新大阪駅）から特急「くろしお」を利用して約4時間（新幹線で新大阪から鹿児島中央までの所要時間とほぼ同じ）、名古屋から特急「南紀」を利用して約3時間半（新幹線で名古屋から仙台までの所要時間とほぼ同じ）となっている。交通の便は市内の移動はバスが多く走っているため良いと言えるが、京阪神や名古屋のような大都市圏への移動に関しては交通の便は良いとは言えず、人口の流出が問題である。

新宮市立医療センターは新宮市内にある3の病院のうちの1つであり、新宮医療圏の中では最も大きい規模の病院となっている。また新宮市立医療センターは新宮市や東牟婁郡の一部、田辺市の一部、三重県熊野市などの約12万人の医療対象者を受け持っており、304床を有している<sup>2</sup>。診療科は内科・外科・産婦人科など19科存在しており、令和2年度には19診療科全体で入院患者数が71,040人、外来患者数が126,737人であった。またその中では入院患者数は内科で、外来患者数は整形外科で最も多くを占めていた。



(写真1)

## 2. 実習内容

### 1日目

- 新宮市立医療センター内の病棟などの見学。(9:00~9:15)
- 担当医師の受け持ち患者の病歴などの紹介。(9:15~9:30)
- 担当医師の受け持ち患者の1人の見学。(13:30~13:45) (写真1)
- コロナ病棟の見学（グリーンゾーンからの見学）。(13:45~14:00)

### 2日目

- 胃カメラ2件の見学。(9:00~9:45)
- 外来患者の診察の見学。(9:45~10:00)
- ERCP（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）の見学。(12:00~12:30)



### 3. 考 察

まず全体の実習を見て、現在授業や実習で扱っているような内容が基礎となったり、患者の状態となって現れたりするのを目の当たりにして、今まで以上に勉学に励む必要があると強く感じた。また実際の診察の現場を見学させていただいたことで、患者の苦痛や不快な点を自分の可能な点で排除することが難しいことも目の当たりにした。

現在、新型コロナウイルスの7回目の感染拡大が生じている状況で、新宮市立医療センターでの通常病棟では多床室で誰か1人がコロナウイルスに感染するとその部屋内はレッドゾーンとなり、立ち入りが難しくなっていた。またレッドゾーンとなった部屋の数も少ないとは言えない程度に存在していた。また新宮市立医療センターでは6階を全てコロナ病棟としていたが、その患者は人感センサー付きのカメラで監視されていた。担当医師は「今はコロナのせいで、救急の患者もPCRが陽性であると治療が全て後手に回ってしまう。」とおっしゃっていた。このような状況下では熱中症や交通事故などで緊急治療を受けなければいけない患者もそれが受けることができないと考えられ、コロナウイルスに感染しなくとも治療を受けにくくなっていくと思われる。

### 4. 謝 辞

コロナ禍という大変な状況であるにも関わらず、実習を温かく受け入れてくださった深海先生や新宮市立医療センターの皆様方に深く感謝申し上げます。この実習で得られた経験をもとにしてまた勉学に励み、少しでも地域のお役に立てるような医師になれるように精進いたします。また今後も予断を許さない状況が続くと予想されますが、御自愛ください。

#### 参考文献

新宮市市勢要覧資料編（令和3年）

新宮市立医療センター経営比較分析表（令和2年度決算）

和歌山県立医科大学医学部地域医療科2年生

吉益 実咲

### 1. 実習施設とその地域の概要

私が今回実習させて頂いた病院は新宮市立医療センターです。和歌山県新宮市に位置し、19科の診療科、276床の一般病床、4床の2類感染病床、5床のHCUがあります。また、病院がある新宮市は太平洋、紀伊山地、熊野川に囲まれた地で、世界遺産登録されている大自然などがあります。

## 2. 実習内容

### 実習1日目

- 8:30～ 回診
- 10:00～ 胃カメラ
- 11:10～ ERCP
- 13:40～ 大腸カメラ
- 16:30～ HCUの患者さんの回診

実習1日目は、私が付かせて頂いた先生が担当する患者さんの朝の回診を行いました。それぞれの患者さんの病状だけでなく、性格なども考慮しながら患者さんに体の様子などを尋ねていました。また、胃カメラや大腸カメラは、先生が治療を行っている様子を見学させて頂きました。ERCPも見学させていただき、カメラが側面についた胃カメラを入れていく難しさや胆管から石を取り除く治療のやり方を教えていただきました。

### 実習2日目

- 8:30～ 回診
- 9:30～ 外来や救急の紹介
- 10:00～ カテーテル

実習2日目は、1日目と同様に朝の回診を見学させて頂きました。そして、その後循環器内科のカテーテル治療を見学させて頂きました。



## 3. 考 察

私は今回の2日間の実習を通して、患者さんと医師のつながりがとても大切であると感じました。先生が担当している患者さんを回診している時に、患者さんのこれまでの生活や入院時の様子なども考慮しながら患者さんに対応されていました。特に、HCUの患者さんのこれからの治療に関しては、患者さんのこれまでの様子や現在の病気の進行状態、そして、これからのどのような経過をたどりそうか、また、そのとき患者さんのご家族はどのように対応できるのかなどといった様々な要素を踏まえた上で、ご家族の方や他の先生と相談しながら、患者さんにとってベストな方法を考えられていました。そのような様子を見学させて頂き、患者さんの病気だけを見るのではなく、患者さんのバックグラウンドも含め多角的にアプローチすることが重要であると感じました。今回は、先生と患者さんのつながりを感じられ、回診で先生が患者さんのもとを訪ねたときに患者さんがとても笑顔で嬉しそうにしていたことが印象的でした。

#### 4. 謝 辞

今回の実習で新宮市立医療センターに行かせていただき、私の実習を対応して頂いた兼久先生をはじめ、看護師さんや他の先生方からも医療のことや新宮での患者さんと医療の需要と供給のバランスについて、また、新宮での暮らしなど様々なお話をして頂き、これから医師として働くうえでとても貴重な経験をすることができました。このような機会を設けて頂いた新宮市立医療センターの皆様、地域医療支援センターの皆様に感謝申し上げます。

## 18 新宮市国保熊野川診療所



■ 位置 >> 和歌山県新宮市熊野川町日足322



## 19 北山村診療所



■ 位置 >> 和歌山県東牟婁郡北山村大沼312

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠5年生

板谷 耀平

### 1. 実習施設とその地域の概要

#### ● 診療所の概要

私が今回実習させていただいた北山村診療所は医師1名、看護師1名、准看護師3名、理学療法士1名、事務員1名のスタッフで運営されている。設備としては一般病床4床であり、X線や内視鏡、エコーなどの画像検査設備、ドクターヘリで他院に搬送するためのヘリポートなどが整っている。



## ●地域の概要

北山村は和歌山県東牟婁郡にある県内唯一の村である。また、三重県と奈良県に囲まれている日本唯一の飛び地である。人口は2022年8月時点で384人と年々減少傾向にあり、高齢化率は2020年時点では44.7%である。村域の97%が山林地帯であり、三重県との県境である北山川沿いに集落が点在している。じゃばらと筏下りが有名であり、アクセスは三重県熊野市と北山村をつなぐ村営バスが1日2本走っている。

## 2. 実習内容

### 1日目 [8/18(木)]

8:25～8:30 朝礼

まず、スタッフの方々に挨拶をし、外来が始まるまでの時間で診療所内の設備（レントゲン室や処置室、遠隔医療を行う設備など）を紹介していただいた。

8:30～12:00 外来見学（薬の処方、検診、COVID-19の抗原検査）

午前中は外来患者の診察等の見学を行った。来られた患者さん10数名の日々の体調の変化や血圧の変動などを伺い、血液検査の結果の説明などを行った上で、薬剤の処方を行っていた。処方する薬剤の種類や在庫に限りがあり、ある程度の期間分を処方する場合はその都度看護師の方に確認していた。その後、三重県から検診に来られた方に採血をさせていただいた。外来中に発熱がありCOVID-19感染疑いの患者さんが来られた場合は診療所の外に設置されたプレハブ小屋にて標準予防策を行い、抗原検査を行っていた。

13:00～13:30 往診

午後からは往診に同行させていただいた。北山村では大半の方が診療所に来られるが、来所が困難な方のお宅に伺い、外来と同様に体調を伺った後に薬剤の処方を行い、その場でお渡しするというものであった。定期的にその場で採血を行うこともあり、診療所でなされる業務と同じことがお宅でされていた。

14:00～17:15 外来とワクチン接種見学

往診が終わってから外来見学とワクチン接種見学を行った。この日来られたのは5名だったが、日によっては数十名来られることもあり、大変だというお話を伺った。午前中と比較して来られる患者さんの人数が落ち着いていたので、合間の時間に診療所のメリットやデメリット、地域の特色、先生が卒業されてから働いた病院のことなど様々なお話を伺った。

## 2日目 [8/19(金)]

8:25~8:30 朝礼

8:30~12:00 外来見学

1日目と同様に外来の見学を行った。この日はお盆中に県外に出かけ、発熱した患者さんが多く来所されたため、標準予防策を行った上で、抗原検査を行っているところを見学することが多かった。

### 3. 考 察

今回の実習では実際に地域医療を支えている医療現場を見学させていただき、机上の勉強では学ぶことができない大変貴重な経験をさせていただいた。診療所で働いている医師が1人であることから、例えば内科医であっても外科的な治療が必要となること、田舎でなければ経験しないようなヒルやムカデに噛まれた際の治療法など地域特有のものをその都度知る必要があることも知った。実際、転倒して手に裂創を負われた方が来所され、傷口を縫合するところを見学させていただいたが、外科医ではなくてもある程度は縫合する技術を身につけておかなければならないということが分かった。

1日目の午後の外来の合間に北山村診療所のデメリット等を伺ったが患者を搬送する手段や時間のことが印象的であった。搬送方法としてはドクターヘリによるもの、他には現在の新宮市熊野川地区から救急車に来てもらう方法があるが、飛び地であることから他病院までの搬送時間が他の地域よりもかかってしまい、重症患者を救えない可能性があるということである。元々、救急車が導入されておらず、役場の職員が事業車で病院に連れていくということを行っていたようで、その時代よりも改善したことが伺えたが、それでもやはり、搬送時間の観点から心筋梗塞や脳梗塞などを起こした患者さんを助けるという困難さに地域医療の限界があると感じた。

2日間の実習を通して、普段の大学病院での実習とは異なり、地域医療の現状や地域医療の最前線で活躍されている先生の姿を拝見することができた。1人でなんとか地域住民の健康を支えなければならないことや、多くはない医療資源を上手くやりくりする工夫などを実際の現場を見ることで感じることができた。地域医療を支えるためには自分が今後専門とする分野の内容だけではなく、様々な知識が必要となるので、より一層勉学に励もうと思った。

### 4. 謝 辞

今回の実習では北山村診療所が果たす役割の大きさについて実際現場を見学することで感じることができました。今回学んだことを胸にとどめ、将来和歌山県の地域医療を支えられる医師になるべく、より一層勉学に励みます。お忙しい中、竹本先生はじめ、スタッフの方々、そ

して蒸野先生はじめ地域医療支援センターのスタッフの方、このような貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

#### 参考

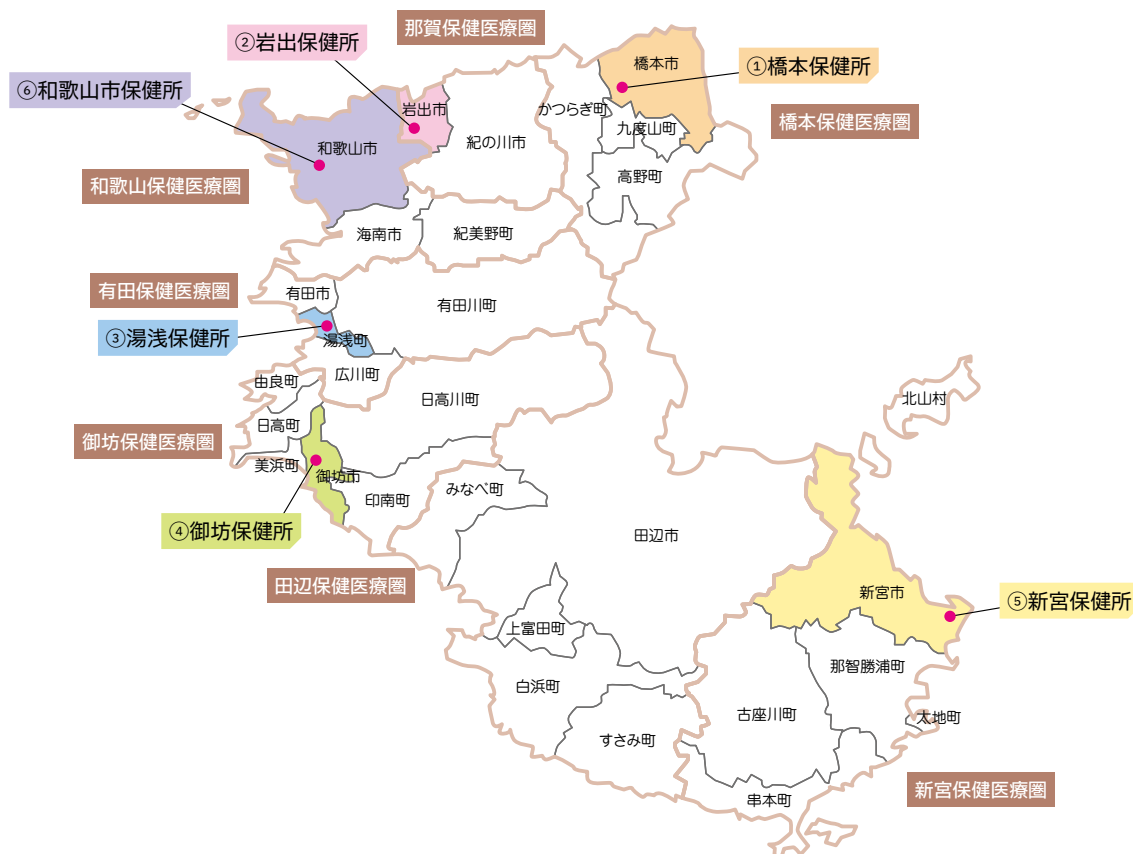
- 日本医師会 地域医療情報システム 国保北山村診療所 <https://jmap.jp/facilities/detail/1302510370>
- 和歌山県東牟婁郡北山村ホームページ <https://www.vill.kitayama.wakayama.jp/>



# 保健所実習

## 〈保健所実習〉

令和4年7月21日(木)～8月18日(木)の1日間、本学地域医療枠1年生(10名)が県内6か所の保健所に分かれて実習を行いました。それぞれの保健所では、所長先生や職員の皆様から保健所の概要について講義を受け、保健所事業の見学をさせていただいたことで、保健行政や公衆衛生の現場を体験することができました。



## ●参加者名簿

### 和歌山県立医科大学医学部 地域医療枠

日程：令和4年7月21日(木)～8月18日(木)の1日間

実習先	学年	氏名	対応医師名(保健所長名)
① 橋本保健所	1年	大饗 光	松本 政信先生
	1年	山本 悠介	
② 岩出保健所	1年	西谷 美咲	雑賀 博子先生
③ 湯浅保健所	1年	吉野 真登	池田 和功先生
④ 御坊保健所	1年	須藤 大喜	新谷 浩子先生
	1年	野中 逸希	
⑤ 新宮保健所	1年	前北 萌瑛	和田 安彦先生
	1年	万谷 瑞姫	
⑥ 和歌山市保健所	1年	中裕 心優	笠松 美恵先生
	1年	西本 羽那	

# 1 橋本保健所



■ 位置 >> 和歌山県橋本市高野口町名古屋 927

和歌山県立医科大学医学部地域医療科1年生

大饗 光

## 1. 実習施設とその地域の概要

伊都振興局健康福祉部（橋本保健所）は橋本市、かつらぎ町、九度山町及び高野町の1市3町を管轄しており、これは和歌山県全体面積の約9.8%を占めている。令和3年4月1日現在の推計人口は83,051人でそのうちの61,122人が橋本市に集中している。橋本保健所は総務福祉課、保健課、衛生環境課の3つに分かれている。総務福祉課では、児童福祉や生活保護、障害者福祉、高齢者福祉などを行っている。保健課では精神保健福祉や原爆被爆者対策、難病や感染の予防などを行っている。衛生環境課では、食品や環境の衛生と狂犬病予防や鳥獣保護などが行われている。橋本市は和歌山県の北東端に位置する市であり、かつては紀の川による運搬

業や高野山の宿場町として栄え、現在は奈良や大阪に隣接し、この付近における陸上交通の要衝である。

## 2. 実習内容

橋本保健所についてまず初めに、橋本保健所の管轄やその場所の特徴、総務課の主な業務について副所長に説明していただいた。その後、その日行われていた新型コロナウイルスのPCR検査の様子を近くで見学させていただいた。PCR検査は保健所の駐車場でドライブスルーのような形で行われており、猛暑の中、所長自ら防護服を来て検査を行われていた。そして、所長室で所長から保健所の使命や新型コロナウイルスの基礎知識や第7波について教わった。保健所では地域保健に関する思想の普及及び向上、健康危機管理、対人保健サービスが特に重要であるということや、詳しく書かれた図や表によってコロナウイルス対策や、感染者の増減を知った。その後、保健所内の衛生環境課に移動し、衛生環境課について詳しく教わった。地域猫対策と呼ばれる和歌山県で増加している野良猫の様々な問題に対して、猫を排除するのではなく上手に付き合う方法として考案されたものを知った。午後からは紀美野町にある動物愛護センターに行った。ここでは動物愛護センターの事業概要や、本来立ち入ることの出来ない動物を安楽死させる場所にも見学させていただいた。



## 3. 考察

今までは保健所の名前だけを知っていて具体的な業務内容などは知らなかったが、実際に足を運び各課の方たちからそれぞれの業務内容を教えていただくことで、保健所の重要性を知った。特に実習に行った時期が夏場であったことや新型コロナウイルスが再び和歌山県で流行りだしたことによって保健所全体が慌ただしかった。保健所の仕事としては地域医療全体の健康に対する環境を向上させ、健康に関する知識の啓発を行って健康状態を維持し、地域の多くの人の協力の元、組織的な活動が行われていると感じた。また、動物愛護センターでは動物保護に関する様々な問題に対して、ペットの飼い主への普及啓発や地域猫対策、ミルクボランティアなどその地域に住む人の意識向上が図られていると感じた。

## 4. 謝辞

新型コロナウイルスや食中毒問題によって大変お忙しい中、保健所実習という時間を設けて頂いて松本所長をはじめ職員の皆様本当にありがとうございました。実習で学んだことを活かして、和歌山県に貢献できるような医者になるために精進していきたく思います。

## 1. 実習施設とその地域の概要

橋本保健所（伊都振興局健康福祉部）は橋本市、かつらぎ町、九度山町及び高野町を管轄しており、令和3年4月1日時点での推計人口は83,125人である。総務福祉課、保健課、衛生環境課の3つの課で構成されている。現在、感染拡大している新型コロナウイルスにおいては、保健課がPCR検査や陽性者の聞き取りをおこなっている。他には、夏場に食中毒が増えているということで、衛生環境課がその対処をおこなっている。

橋本市は、世界遺産である高野山の麓にあり、中央には清流紀の川が流れている。また、「出産・子育てしやすい街」として関西圏2位に選出されたこともある程、子育て環境が充実している。

## 2. 実習内容

午前中はまず総務課の主な業務について副所長に説明して頂いた。その後、保健所でのPCR検査の様子を見学した。感染症対策として駐車場で車の中で検査をおこなっていた。その後、所長にオリエンテーションという形で保健所の使命や新型コロナウイルス感染症の基礎知識についてのお話を



して頂いた。保健所は警察と同じように地域住民の生命、財産を守ることであり、地域保健に関する思想の普及及び向上・健康危機管理・対人保健サービスが重要であると所長に教えて頂いた。午前中最後は、衛生環境課の方に衛生環境課の主な業務について説明して頂いた。和歌山では近年、野良犬の数が減少している一方で野良猫が増えているということを教わった。午後からは、衛生環境課の業務に関わることとして、紀美野町にある動物愛護センターを訪問した。引き取り手のいない動物をやむなく安楽死させなければならない実状を知り、実際に安楽死させる場にも特別に見学させて頂いた。また、狂犬病やズーノーシスという動物を介して人が病気になるというものについても教わった。

## 3. 考 察

保健所は、高齢者の生活保護をするところというイメージしか持っていなかった。また新型コロナウイルス感染症が蔓延していく中でよく保健所という言葉を目にしたが、感染症対策を



おこなっている程度にしか把握しておらず、具体的な業務は詳しく知らなかった。しかし、保健所の方にお話を聞くと、保健所は保健所なりの方法で地域住民の安全を保証しているということを感じた。その中でも所長が話してくださった生活習慣予防についてのお話が印象に残った。病院などは病気を治すというハイリスクの状態にアプローチしていくという手段をとるが、保健所は病気を予防するというローリスクの状態にアプローチしていく。この保健所ならではの方法は、多くの人が少しずつリスクを軽減することで、集団全体に多大な恩恵をもたらすものであると感じた。

動物愛護センターでの業務は将来医師になる身としては直接関係があることではない。しかし、引き取り手が現れず悲しい最期を迎えねばならない動物のお話を聞くと、命の尊さについても再度考えさせられた。

#### 4. 謝 辞

新型コロナウイルス感染症により、実習ができるかどうか不透明であった中、松本所長をはじめ保健所職員の方、また動物愛護センター職員の方、貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。研修で学んだこと、感じたことを生かし、将来地域医療に貢献できる医師になるために精進していきます。

## 2 岩出保健所



■ 位置 >> 和歌山県岩出市高塚209

和歌山県立医科大学医学部地域医療科1年生

西谷 美咲

### 1. 実習施設とその地域の概要

岩出保健所の管轄地域は、紀の川市と岩出市であり、面積は県面積4,724.68km<sup>2</sup>の約5.6%に当たる266.72km<sup>2</sup>で、人口は令和4年4月1日現在で112,091人と県全体の12.4%を占めている。

那賀地方は、昔から大和街道や淡路街道等の交通の要所として発展した地域で、紀の川流域に数多くの史跡・古刹等の文化遺産が残されている。緑あふれる環境と温暖な気候に加え、紀の川や貴志川が育んだ肥沃な平野が広がる豊かな地域である。また、和歌山県の表玄関として発展する大きな可能性を秘めた地域でもある。こうしたことから、府県間道路や京奈和自動車

道などの道路交通網が整備されており、また、農林業・商工業の振興や企業誘致の推進など、産業の振興が図られている。さらに、住み良い環境づくりとして、公共下水道の整備や廃棄物不法投棄対策など生活環境に配慮した施策の推進が行われている。



岩出保健所（那賀振興局健康福祉部）は総務福祉課、保健課、衛生環境課に分かれている。主に、医師、保健師、獣医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、衛生公害技師などの方々が、それぞれの専門知識を活かして働いている。他にも事務や精神保健相談員や手話通訳などの職種の方もいる。

各課の大まかな業務内容は次の通りである。

総務福祉課：生活保護、母子や障害者（身体、知的）、高齢者への福祉や支援

保健課：医療関係、感染症予防、健康づくり、精神保健福祉

衛生環境課：食品衛生、動物愛護、環境衛生（水道、公害、廃棄物など）、献血、薬物乱用防止

## 2. 実習内容

9:00～11:30 療育相談・発達相談 見学

昼休憩

12:50～13:10 所長訪問

13:10～14:30 新型コロナウイルス感染症の新規感染者への対応

14:50～15:50 精神保健相談員との面談

16:00～16:45 新型コロナウイルス感染症の自宅療養者への対応

16:45～17:00 研修のまとめ

愛徳医療福祉センター児童整形外科医による療育相談を見学した。健診で発達の遅れなどの健康異常や親からの相談があれば、無料で相談を受けられるしくみだという。相談は奇数月の第2木曜日に行われており、初診の方も再診の方もいる。診察の後、つくし医療・福祉センターの理学療法士によるリハビリテーションを見学した。その後、医師、理学療法士、保健師の計3人によるカンファレンスも見学した。カンファレンスでは診療の結果やリハビリ、これからの計画について報告し、親子を見ていて気になる点があれば、共有していた。

所長訪問では所長の方に挨拶や保健所の概要を説明していただいた。

午後からは、保健課を見学したのだが、仕事のほとんどが新型コロナウイルス感染症の対応だった。実際に新規感染者に電話しながら、Excelに情報を打ち込むのを横で見学していた。自宅療養者への健康観察は和歌山県看護協会から派遣された看護師さんが担当していた。作業を横

で見て、膨大な数の電話を三人がかりで行っていた。看護師の方に少しお話を聞いた。精神保健相談員には、仕事内容について話を聞いた。

### 3. 考 察

医師の方の言葉遣いが子どもに寄り添う感じで、子供のひとつひとつの行為に対して褒めていた。子どもを泣かせるなど、不機嫌にしてしまうと必要な情報を読み取れないためそう心がけているらしい。コロナ禍になってから、相談に来る患者さんが減っていると聞いた。また幼稚園が学級閉鎖になっているため、当日に診察を断られた子どもいた。子どもの成長は思ったよりもすぐなので、一回診察が空いてしまうと、4ヶ月も見ないことになるだろう。コロナで子どもたちが健康に育つための機会が失われているのが悲しい。療育相談には、ハイハイや、つかまり立ちの時期の遅れや足に少し問題がある子どもが多かった。診察室にはカメのおもちゃが置いてあった。医師の欲しい情報を読み取れるようにおもちゃ選びにも工夫があり、医師は子どもの年齢に応じて使い方を变えていると感じた。医師は足をトンカチで軽く叩いて神経反射や、股関節と足首の柔らかさを確かめたりしていた。ドアから入ってきて診察椅子に座るまでや、おもちゃを運ばせる間などに注意深く観察し、できるだけ子供の普段の姿を見られるようにしていた。この相談は、医療が必要な子供と病院をつなぐ役割を果たしており、診察の結果は次の乳幼児健診にも引継がれるらしい。気軽に医師の方に相談できるのは親御さんにとってもありがたいだろうなと思った。

コロナ対応のように朝から晩まで同じ作業を繰り返すのは大変なことであり、保健所の激務のおかげで私たちの生活は守られているのだとしみじみと感じた。その一方で、もっと効率的な仕組みがあればいいのにと感じた。電話では感染者の体調以外にも、感染して困ったことや保険のことについても相談があると聞いた。感染者1人に対しての電話が思ったより長かった。1日で200件もの電話があるらしい。PCRを受けるのが遅かったり、医療機関からの届出が遅かったりして、感染日から6日になってから保健所に情報が来て対応した例もあり驚いた。

精神保健相談員は、地域とのかかわりが多い職業だと知った。未成年者への薬物アルコール予防の啓発や相談事業など高校までに馴染みがあったものから、精神疾患患者の対応や社会復帰のサポートなどもあった。精神疾患により自傷行為のある方を警察から医療機関につなぐ役割もしていて、多職種と連携して課題を解決するのが大事な職業だと思った。また医師や看護師は医療専門職であるが、福祉士は「生活者の視点からみる」という言葉も心に響いた。地域とのかかわりが大切な職業であるからこそ、コロナ禍の引きこもりによって、不安障害の方が増えたのに、保健所が相談窓口と知っている人しかつながらないのは、もどかしいと相談員さんが言っていたのを聞いて、私もコロナ禍で精神的に不安定になった経験があったので共感できる部分もあった。



#### 4. 謝 辞

新型コロナウイルスの対応で大変ななか、快く迎えてくださった岩出保健所の方々、療育相談を担当してくださった医師、理学療法士の方々には、本当に感謝しています。質問をしても丁寧に答えてくださったり、話しかけてくださったりして、とても親しみやすく居心地の良い環境でした。今まで知っているようで知らなかったことがたくさんあって、勉強になりました。この保健所実習で得た知識や経験をこれからの授業や生活に生かしていきたいです。

## 3 湯浅保健所



■ 位置 >> 和歌山県有田郡湯浅町湯浅 2355-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療科1年生

吉野 真登

### 1. 実習施設とその地域の概要

管轄：有田市（26,265人） 湯浅町（11,001人） 広川町（6,731人）  
有田川町（25,160人）（いずれも令和3年4月1日時点）

事務：総務福祉課（総務・保護グループ、福祉グループ）  
保健課（保健グループ、健康グループ）  
衛生環境課（衛生環境グループ）

## 2. 実習内容

はじめに、防護服に着替え、保健所の駐車場で行われている新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者のドライブスルーでのPCR検査の手伝いをさせていただいた。次に、所長に保健所内を案内していただいた後、それぞれの課の業務についての説明や、現在の普段の仕事の流れ等の説明をしていただいた。その後、車に乗って訪問という形でのPCR検査に同行し、そこでも防護服に着替え、検査の手伝いをさせていただいた。保健所に戻ってから、所長に保健所についての話をさせていただいたり、質問に答えていただいたりした。



## 3. 考 察

濃厚接触者になり、PCR検査を受けるときや、実際に陽性となり報告する際に保健所の名前をよく耳にするが、それでも実際の業務内容は詳しく知らなかった。今回の実習を通して、現在も依然としてコロナ関連の業務が多く、担当する保健課の負担が大きいことや、野良犬や野良猫の問題も保健所が担当していることなど、保健所と言っても課によって業務内容は全く異なり、その内容は多岐にわたることが分かった。また、実際にPCR検査を体験させていただき、これまで感染したことや濃厚接触者に該当したことがなかったことから、普段の生活から気をつけていたもののどこか遠くのものとして捉えていたコロナウイルスは、我々のすぐ近くに存在するのだと実感することができた。検査の際に指導していただいたアルコール消毒の仕方や防護服の着脱の方法など、一見細かいと思われる様な一つ一つの行動を一人一人が徹底していくことこそが、感染拡大防止につながるのだと感じた。

## 4. 謝 辞

実習が行われる少し前から湯浅町での感染者の大幅な増加が確認されたにも関わらず、池田所長初め保健所職員の方々、貴重な時間を割いて実習を受け入れていただき、本当にありがとうございました。実習で学んだことを活かして、将来地域に貢献できるように精進していきたいと思います。また、このような貴重な機会を与えてくださった地域医療支援センターの皆様、本当にありがとうございました。

## 4 御坊保健所



■ 位置 >> 和歌山県御坊市湯川町財部 859 - 2

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠1年生

須藤 大喜

### 1. 実習施設とその地域の概要

今回見学させていただいた御坊保健所は、日高振興局保健福祉部の総務福祉課、衛生環境課、保健課の3つの課からなり、さらにグループにより細かく分かれています。また、御坊市、日高町、日高川町、由良町、美浜町、印南町の1市5町を管轄しており、保健所では、医師、薬剤師、保健師、獣医師、管理栄養士など様々な職種の方々が働いています。

御坊保健所が位置する御坊市の人口は22,567人（2021年）。温





暖な気候と豊かな自然に恵まれ農業（花卉栽培）が盛んで、スターチスや宿根カスミソウ（いずれも花の種類）は全国屈指の出荷量を誇る。

## 2. 実習内容

8:40 新谷所長へ挨拶

9:00 保健課（2階）で朝礼の後各課へ挨拶、新谷所長から保健課の業務についての説明  
毎日9:00に行っている朝礼に私たちも参加し、その後各課へ行った。新谷所長に説明を受け、新型コロナウイルス感染症の方の基本情報が書かれたホワイトボードを見せて頂いた。年齢や住所、発症日などが細かく、ホワイトボード何枚にもびっしり書かれており、全員への対応をここの保健課ですべて行っていると知って驚いたし、凄いと感じた。

9:15 自由時間（館内、外の見学）

保健所内外の施設を見て回った。

10:00 抗原検査、PCR検査の見学

保健師の富田さん、臨床検査技師の森永さんの検体採取や検査の様子を見学させていただき、実際に自身も手袋やフェイスシールドをつけ検査キットを用いて抗原検査やPCR検査を体験した。

11:30 コロナ患者の行動歴聞き取りについての説明

コロナ患者の行動歴について聞き取り調査の内容を説明して頂いた。

12:00 昼休憩

13:00 総務福祉課の業務に関する説明

総務福祉課長の杉琴さんに業務内容や役割を説明して頂いた。

14:20 衛生環境課の業務に関する説明

衛生環境課長の坂田さんに業務内容や役割を説明して頂いた。

15:00 食品安全の監査見学

薬剤師の高木さんとともに、御坊市にある飲食店に行き、食品安全の監査の様子を見学させて頂いた。

15:30 麻薬破棄の見学

薬剤師の高木さん、永峯さんと薬局へ行き、麻薬廃棄立ち会いの現場を見学させて頂いた。

16:30 新谷所長へ挨拶し、解散

## 3. 考 察

保健所は、近年の新型コロナウイルス感染症の流行もあり感染症対策や感染症の検査などの施設というイメージがあったが、今回の実習で本当にいろいろな業務があると知った。感染症対策や母子健康対策の保健関連だけでなく、高齢者、障害者の支援、生活保護などの福祉関連や食

品安全の監査、薬、動物保護などの環境衛生など、非常に多岐にわたる業務があった。

保健課の業務はコロナウイルス感染症の拡大により立て込んでいるようだった。抗原検査、PCR検査の見学では夏の暑い日だったにもかかわらず外で多くの人の検査を行っており、またコロナ陽性の患者に対しては電話での詳しい聞き取り調査など、たくさんの業務をされていた。

午後は食品安全の監査と、麻薬廃棄の立ち会いを見学することができた。特に麻薬廃棄の立ち会いは薬局の中で麻薬を機械で粉砕し廃棄するところを間近で見学できたのが印象に残っている。

保健所では本当に色々な職種の方々が働いていて、常に地域のために、御坊市に住む人や動物、環境のためにみんなが協力し合って業務にあたっているのだと知ることができた。

#### 4. 謝 辞

最後に、コロナウイルス感染症の拡大により大変お忙しい中、私たちに保健所実習の機会を与えて下さりありがとうございました。今回の実習で、保健所の職員方が日々行っている業務を実際に体験し、見学することができたことは非常に貴重な経験でした。これからの学校生活はもちろん医師になったときにもここで学んだことを活かせるよう頑張っていきます。この実習を実行していただき、新谷所長をはじめとする御坊保健所の職員の方々、地域医療支援センターの方々に厚くお礼申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科1年生

野中 逸希

### 1. 実習施設とその地域の概要

私は今回、和歌山県御坊市湯川町にある御坊保健所で実習させていただいた。御坊保健所は、御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町を管轄しており、飲食店の監査、薬剤の管理などを行っている。また、生活保護を担当する総務福祉課、土砂崩れや動物問題に対応する衛生環境課、疫学調査を担当する保健課があり、その中でもグループに分けられ、3課5グループで構成されている。

御坊保健所が位置する御坊市は、人口は22,219人（令和4年6月末現在）であり、和歌山県のほぼ中央に位置している。気候は、黒潮の影響を受けるため、一般に温暖で降水量が多い。

### 2. 実習内容

#### 9:00 朝礼、保健所内の紹介

新谷所長に挨拶をし、朝礼で自己紹介をさせていただいた。朝礼では、交通安全などを喚起していた。朝礼終了後、直近1週間の行動履歴を新谷所長にお見せし、簡単に内容について

てお話しした。その後、保健所の3つの課について説明・紹介していただいた。

#### 10:00 PCR検査・抗原検査の見学、体験

外の倉庫を利用して10:00~12:00の間に実施された、PCR検査・抗原検査に参加させていただいた。ここでは、検査を受けに来た方が車の窓から顔を出し、保健師の富田さんや臨床検査技師の森永さんが綿棒で鼻の奥の粘液を採取して、手が空いている職員さんが、予約された方のお名前が書かれた抗原検査キットやPCR検査用の試験管に綿棒を入れる、という形をとっており、私は、粘液が付着した綿棒を受け取って検査をする過程をさせていただいた。富田さんや森永さんが綿棒を鼻に入れる前には、お名前の確認はもちろん、下痢などの新型コロナウイルスの他の症状が無いかも聞いていた。軽く50人以上は来られた上、事前に用意していた名前付きの検査キットの中に来られた方のお名前がない場合にはその場で新品の検査キットにお名前を書く、道具が足りなくなれば取りに行くなど、その場その場で対応しなくてはならないことが多かったため、私たち実習生2人がお手伝いしても全員手がふさがっていることが多かった。また、子供の検査をするとき、子供は怖がって拒否するため、母親に押さえてもらってどうにか綿棒を入れる、ということもしばしば見られた。



#### 11:30 疫学調査の説明

保健課の中尾さんから、疫学調査の説明をしていただいた。疫学調査というのは、新型コロナウイルスに感染した方から、診断方法や基礎疾患、現在の症状などを電話で聴取するものである。今回は時間がなく、私が疫学調査をさせていただく機会は無かったが、疫学調査のマニュアルや使用する資料を見せ、どのような手順でするのか説明してくださった。

#### 12:00 昼休憩

#### 13:00 総務福祉課についての説明

総務福祉部の杉琴さんから、御坊保健所や総務福祉課の説明をしていただいた。まず、市役所や保健所は県庁の出張課の集合であり、県庁の指示に従って活動をしている。そのため、福祉事業を実施するには、県庁の許可が必要だそうだ。また、総務福祉課の総務・保護G（グループ）では生活保護を取り扱っており、福祉Gでは母子家庭や高齢者への支援、DVなどの問題の対応を行っている。総務・保護Gが取り扱っている生活保護は、生活が困難な方の「最後の砦」であり、それを避けるため、月に1,000円だけ返納することを条件とする貸与といった他の活動で生活を支えることがベターだそうだ。

#### 14:20 衛生環境課についての説明、飲食店の監査、薬剤の処理

衛生環境課長の坂田さんに衛生環境課の概要を説明していただき、その後、近くの飲食店の監査に同行させていただいた。飲食店の監査では、キッチンの清潔さ、設備、食事スパー

スの感染症対策を注目し、後継ぎについても話し合っていた。そして、薬剤師の高木さんと長峰さんに同行し、薬剤の処理を見学させていただいた。処理をするのは、期限が切れた薬剤であり、書類を入念に確認した後に処理していた。

### 3. 考 察

PCR検査・抗原検査のお手伝いをする形で体験させていただき、私たち実習生2人が邪魔にならないように入ってもぎりぎり来られた方の検査をすることができた、という状況だったので、急激に増加したコロナ患者の影響により人手不足が深刻だということを、ニュースからではなく実際に感じられた。また、疫学調査を行う部屋でも、約10人の職員さんが常に電話対応に追われていたので、ここでも人手不足が強く感じられた。

生活保護の概要を教えていただき、飲食店の監査・薬剤の処理に同行させていただいたことから、御坊保健所は住民の健康を守るため、様々な面から支援をしているのだということが分かった。また、保健所の仕組みについて教えていただいたことから、住民やその団体だけではなく、県庁との連携も大切なのだと分かった。

### 4. 謝 辞

今回は、新型コロナウイルスの感染状況も深刻になりつつあった中、保健所実習をさせていただき、ありがとうございました。ニュースで見ることや、人から伝え聞くことから得られない生の体験をすることができ、非常に有意義な実習をすることができました。また、生活保護は最終手段であり、別の方法で解決すべきという考えは無かったので、新しい価値観を得ることができました。この経験・知識を将来に活かしていきたいと思います。御坊保健所の皆さん、本当にありがとうございました。

#### 参考資料

- 厚生労働省 保健所管轄区域案内 和歌山県
- 御坊市 住民登録人口及び世帯数 令和4年6月末



## 5 新宮保健所



■ 位置 >> 和歌山県新宮市緑ヶ丘2丁目4-8

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠1年生

前北 萌瑛

### 1. 実習施設とその地域の概要

今回実習をさせていただいた新宮保健所は、東牟婁振興局健康福祉部の施設内にあり、新宮市と東牟婁郡市町村を串本支所と分担して所管している。総務福祉課、保健課、衛生環境課の3つの課がありそれぞれの業務を担当している。所管区域は新宮市、東牟婁郡那智勝浦町、太地町、北山村の1市2町1村で、総面積492.55平方キロメートル、人口43,884人（令和3年9月時点）であり、人口構造は高齢者が多く、若年層が少ない。紀伊半島の南東部に位置し、北は果無山脈を境に奈良県、東は熊野川を挟み三重県と接しており、北山村全体と新宮市の一部は三重県と奈良県に囲まれた飛び地である。気候は、暖流である黒潮が流れるため温暖多雨で

あり、降雪はまれで、面積の90%以上が森林となっている。観光地としては、平成16年7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、大きな注目を集めている。

## 2. 実習内容

9:00-9:30	新宮保健所長、和田先生に挨拶 東牟婁振興局健康福祉部長、杉本さんに挨拶 建物内見学
9:30-10:20	保健所業務についての講義
10:20-11:10	ドライブスルー方式によるPCR検査の検体採取見学
11:10-11:40	保健所業務についての講義
11:40-13:10	環境衛生課の業務見学 昼食
13:10-16:30	言語聴覚士による発達相談見学（3ケース）
16:30-17:00	まとめ

ドライブスルー方式によるPCR検査は、感染者数激増のため無症状の濃厚接触者にしぼって行われる。しかし中には、保健所に来る前に症状が出てしまった方もいらっしや。検体は、病院に運搬する必要があり、結果はすぐに分かるわけではないようだ。受診者の抵抗や近隣からの苦情を考慮して、風通しの良い公用車の駐車場で検査を行っていた。夏の暑い気温の中、防護服を着こみ、感染対策を徹底して行われていた。



午後は、道路で車に引かれた猫がいるという連絡があり環境衛生課の職員の方々と同行し対応を見学させていただいた。息がある場合は獣医の方に引き渡し、息がない場合は道路上の廃棄物として道路の管理者に引き取りをお願いするようだ。地域猫の取り組みについてお話を伺った。猫は繁殖のスピードが非常に早く、保健所で野良猫や迷子猫を引き取りきれないため、不妊去勢手術を行い耳に印をいれることで猫の個体数を把握しているとお聞きした。その帰りに、ごみのポイ捨て対策として防犯カメラを設置しているポイ捨ての多い箇所を見学した。

防犯カメラを設置する理由は、「監視されている」と意識させることで、ポイ捨てを抑止する効果を狙うためだそうだ。防犯カメラに太陽光パネルがつけることで、エネルギーをうまく利用していた。設置されている防犯カメラはリアルタイムで端末から確認することができるようになっているそうだ。

保健所に帰ったあと、言語聴覚士による発達相談を3ケース見学させていただいた。3ケー

スとも発達度合いをみるテストの内容はほとんど同じだったが、人によって発達度合いが異なるので受け答えに違いがはっきり表れていた。

### 3. 考 察

今回保健所実習を行い、保健所が担っている仕事の多さに驚いた。感染者数が増加している中での実習であったこともあり、特にコロナ関連の業務が多く、公衆衛生の最前線の行政機関だと実感した。保健所は専門的知識を持った職種の方々が在籍されており、私たちが普段何気なく過ごしている環境や健康などを支えてくださっていることが分かった。

私がこの実習を行って学んだことは、地域全体との連携が必要であるということである。保健所は地域の様々な機関と連携することで、地域でおこる様々な問題を解決し、地域の人々が暮らしやすい街づくりを支えていると分かった。

### 4. 謝 辞

最後になりましたが、お忙しい中、私たちのために貴重なお時間を割いて様々な経験をさせてくださった和田所長をはじめ、新宮保健所の皆様には大変お世話になりました。非常に有意義な体験をすることができました。保健所の業務についてはもちろん、新宮市の魅力についても知ることができました。今回学んだことをこれから活かしていきたいと思います。短い時間ではありましたが本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠1年生

万谷 瑞姫

#### 1. 実習施設とその地域の概要

今回実習させていただいた新宮保健所は、東牟婁振興局健康福祉部の施設内にあり、総務福祉課、保健課、衛生環境課の3つの課で業務を分担して行っている。所管区域は新宮市、東牟婁郡那智勝浦町、太地町、北山村で、総面積492.55平方キロメートル、人口約44,000人（令和3年9月1日時点）である。紀伊半島の南東部に位置し、北山村全体と新宮市の一部が三重県と奈良県に囲まれた飛び地となっている。人口密度は県平均を大きく下回っており、高齢層が多い地域である。

この地域は暖流黒潮が海岸近くを流れ温暖多雨の気候であり、面積の90パーセント以上を森林が占めている。山、川、海の景色や世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」など、観光資源が豊かで、観光業がこの地域を支える主産業となっている。



## 2. 実習内容

- 9:00 挨拶
- 9:30 各課から業務の説明
- 10:20 ドライブスルーPCR検査見学
- 11:40 衛生環境課関連の見学、昼食
- 13:10 言語聴覚士による発達相談のカンファレンス参加
- 16:00 見学の振り返り
- 17:00 挨拶

はじめに各課長の方から、それぞれの課でどのような業務を行っているかお話を伺った。その後、ドライブスルーPCR検査で、1台ずつ車の窓から検体を採取していく様子を見学させていただいた。新宮保健所でのPCR検査は無症状の濃厚接触者を対象に行われている。実習させていただいた時期は新型コロナウイルスの感染者が増加していたため、数十台の車が列を作っていた。PCR検査の見学が終わった後は、衛生環境課の方が、道路で怪我をしていると連絡が入った猫の保護に向かうところと同行させていただいた。道中では、衛生環境課がゴミのポイ捨て対策に設置している公衆ゴミ箱について教えていただき、衛生環境課の詳しい業務内容や新宮の魅力についてもお聞きすることができた。保護した猫については、怪我の手当が終わった後、これ以上猫が増えないように、不妊去勢手術を行うとおっしゃっていた。



午後からは、言語聴覚士の方が未就学児の発音練習や、保護者の方と発達相談を行っているところを3ケース見学させていただいた。複数のケースを見学できたことにより、それぞれの子どもの性格や発音の癖を理解した上で、一人ひとりに合った指導をなさっているのだと気づくことができた。

最後の振り返りでは、和田所長から、現在の新型コロナウイルスの影響についてお話を伺い、保健所の活動について気になったことをいくつか質問させていただいた。所長のお話から、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、円滑な作業を行い、他の業務が疎かにならないよう、チーム全体で協力しながら作業されている様子が感じられた。

## 3. 考 察

言語聴覚士のサポートや公衆ゴミ箱の設置など、保健所が積極的な住民へのサポートによって、住民の健康や自然の美しさを保つことができているのだと学んだ。保健所では、福祉関係や環境衛生、難病対策など、各課で分担しながら非常に幅広い業務が行われており、保健所の業務について、より深く知ることができたと感じた。



各課の説明や和田所長からのお話の中で、専門的な診療科目を受診したくても、地域内では受けられないという問題が印象に残った。産婦人科医不足で地域内で分娩できない状態になったことがあり、他の診療科目についても、紀中の病院まで何時間もかけて通院されている方がいらっしゃるということだった。地域で医療をなるべく完結できるようにすることが目標だとおっしゃっていた。

また、新型コロナウイルスの影響により、作業量が通常よりかなり多くなったにもかかわらず、工夫しながら効率よく業務を進めていらしかった。新型コロナウイルス感染症患者行動調査票などを作成することにより、検査だけでなく、感染経路の特定などにも力を入れられていると感じた。今回の保健所実習を通して、メディアを通じてではわからなかった業務の大変さや、チームワークの大切さを実感することができた。

#### 4. 謝 辞

最後になりましたが、和田所長をはじめ、新宮保健所の皆様、お忙しい中時間を割いていただき本当にありがとうございました。今回の実習で、保健所の活動や働く方々の様子、新宮の魅力など、様々なことを学び、体験することができました。今回学んだことを忘れずに、将来に活かしていきたいと思えます。

また、このような実習の機会を作っていただいた地域医療支援センターの方々、実習の実行に協力していただいた皆様にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 6 和歌山市保健所



■ 位置 >> 和歌山県和歌山市吹上5丁目2-15

和歌山県立医科大学医学部地域医療科1年生

中裕 心優

### 1. 実習施設とその地域の概要

実習先である和歌山市保健所は、人口約356,729人（令和2年度時点）、面積208.8km<sup>2</sup>の和歌山市を管轄している。総務企画課、生活保護班、保健対策課、地域保健課の四つの部署がある。現在は新型コロナに対応する特別な班もたてられている。総務企画課は庶務班、医事薬事班、健康危機管理班から成り、生活保健課は食品や環境についての業務と動物の保護などを行っている。保健対策課の業務内容は、難病対策、こころの健康や医療福祉、感染予防対策などである。和歌山市は新鮮な海の幸に加えてみかん、梅といった山の幸が豊富な美食の町である。天気も比較的安定していて温暖であり住みやすい環境である。

## 2. 実習内容

10時	～12時	和歌山市保健所に関するDVDの鑑賞
12時	～13時	昼休み
13時	～13時30分	保健所内の見学
13時30分	～14時30分	保健所所長による説明

DVDでは、和歌山市保健所での業務内容について詳しく学ぶことができた。例えば環境保健班が管轄する法律は理容師法、興業場法、旅館業法、水道法など多岐にわたり、保健所での業務の広さについて知った。和歌山市では南海トラフ地震等の災害による被害が想定されるので、周辺の在宅医療の患者さんも含めた避難訓練も行っている。庶務班の方が、市民の声を実際に聞く場面が多く、それをもとに行動し貢献できることにやりがいを感じるという言葉も聞いた。



保健所内ではほとんどすべての場所を見学させていただいた。見学しながら保健所長さんからの補足説明があった。保健センターでは、乳幼児健診を行うほか、それに来ていない家庭への訪問を行っているなど、DVDで聞いた業務以外の仕事内容を聞くことができた。実際にコロナ対応では、健康確認、入院先の確保、相談対応などの業務ごとに人員が振り分けられ役割分担して行われていた。

その後、保健所長さんから保健所に関する特に新型コロナウイルスに関する話を聞いた。実習中にコロナについての業務を行うこともあり、感染者増加による業務の忙しさ大変さが伝わった。

## 3. 考 察

今まで保健所についてあまり知らなかったが、実習を通して保健所が公衆衛生の最前線の行政機関ということがよく分かった。今まで保健所についてPCR検査のイメージがほとんどで、今回の実習で保健所の業務が非常に多岐にわたることを知れた。保健所では、医師、薬剤師などいろいろな資格を持った人が働いていること、そしてそれらの人達は必要不可欠であることを痛感した。新型コロナウイルスへの対応に重要な役割を果たしていること、またその大変さを実際に見て感じた。それ以外にも私たちが普段生活している裏で保健所が担っているものは多い。保健所が生活を支えていると言っていいだろう。

## 4. 謝 辞

和歌山市保健所の皆様、新型コロナウイルスが拡大し大変忙しい中時間をとって実習を行ってくださり深く感謝申し上げます。特に保健所所長さんからは非常に多くのためになる話をいただきました。この実習で学んだことを活かしていけるようにこれからも頑張っていきます。

## 1. 実習施設とその地域の概要

和歌山市保健所は和歌山市の中核部に位置し、中保健センター、和歌山市夜間・休日応急診療センターと併設されている。和歌山市保健所では、総務企画課、生活保健課、地域保健課、保健対策課に加えて、現在は新型コロナワクチン接種調整課が設置され、これらの5つの課をさらに複数の班に分けて業務を分担している。

和歌山市保健所が管轄している和歌山市は人口約35万人、面積約200km<sup>2</sup>で、和歌山県の県庁所在地である。和歌山県立医科大学附属病院、日赤和歌山医療センター、和歌山ろうさい病院などの大きな病院も複数あり、人口あたりの診療所数も全国トップレベルで、医療体制が整っていると言える。

## 2. 実習内容

10:00～12:00

DVD鑑賞

和歌山市保健所についての説明のDVDを見て、和歌山市保健所の役割や活動内容について学んだ。

12:00～13:00

昼休み

13:00～13:30

保健所内の見学

所長さんに案内してもらい、保健所のそれぞれの課がどのような業務をおこなっているのかなどの説明を聞きながら、保健所内を見て回った。

13:30～14:30

所長さんのお話

現在おこなっている新型コロナウイルス感染症に関する業務を中心に、保健所の活動内容についての説明や、大変なことなどの現場の声を聞くことができた。



## 3. 考 察

例えば、和歌山市保健所では保健所業務の一環として、南海トラフ大地震などの災害時に在宅医療を受けている患者への適切な対応ができるように避難訓練を実施している。この避難訓練ではハザードマップを参考にし、在宅医療を受けている患者、患者の家族、訪問看護ステー



ションの方々などと一緒にいることで、もしものときにうまく連携がとれるように準備している。このように、南海トラフ大地震の影響を受ける可能性が高いという地域特有の問題への対策も行っていることがわかった。

また、新型コロナウイルス感染症に関する業務をおこなっている課は多くの職員が配置されており、想像以上に慌ただしい様子で、書類の数も廊下に段ボールを積むほど多かった。保健所の業務がひっ迫していることがよくわかった。

保健所の仕事について初めて知ることが多かったが、今回の実習を通して、保健所は私たち地域住民の健康や生活を影から守る縁の下の力持ちのような存在だということがわかった。

#### 4. 謝 辞

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症の対応などでお忙しい中、私たちのために貴重な時間を割いてくださった所長、及び保健所職員の皆様、本当にありがとうございました。今回の実習では普段は見られないような新型コロナウイルス感染症の対応の業務などを見学することができ、とても貴重な経験になりました。今回の実習で学んだことをこれからは活かし、日々精進したいと思います。本当にありがとうございました。

# 交流会・実習報告会

令和4年8月20日(土)に地域医療卒学生及び医師の交流会・実習報告会をオンライン開催しました。

実習報告会では、代表者7名が各自の実習内容や感想を発表し、参加者はそれぞれの医療機関や地域の特色を知ることができました。

交流会では、Zoomのブレイクアウトルームを用いてグループ毎にディスカッションを行い、夏季実習についての意見交換を行いました。地域卒医師にはファシリテーターとしてご参加いただき、発表へのコメントや学生へのアドバイスをいただきました。

## 〈実習報告会〉

	実習先	学年	発表者氏名
1.	国保北山村診療所	5年	板谷 耀平
2.	国保野上厚生総合病院	5年	高橋 文太
3.	ひだか病院	5年	田中日向子
4.	橋本市民病院	5年	百名 孝太
5.	南和歌山医療センター	5年	行岡 翼
6.	和歌山市保健所	1年	中裕 心優、西本 羽那

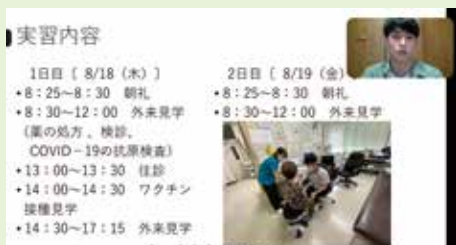
**実習内容**

1日目 [ 8/18 (木) ]

- 8:25~8:30 朝礼
- 8:30~12:00 外来見学 (薬の処方、検診、COVID-19の抗原検査)
- 13:00~13:30 往診
- 14:00~14:30 ワクチン接種見学
- 14:30~17:15 外来見学

2日目 [ 8/19 (金) ]

- 8:25~8:30 朝礼
- 8:30~12:00 外来見学



**国保野上厚生総合病院**

- 紀伊勢町西側にあり、和歌山県北西端を診療圏としている
- 一部病床100床、療養病床54床、緩和病床100床
- 内科、整形外科、神経内科、眼科に常勤医師配置
- 当直制



**実習内容② 子宮卵管造影検査見学**

子宮口から造影剤を注入し、子宮形態の評価や、卵管の通水。溜水症の有無を確認する。不妊症のスクリーニング検査として重要。

**【症例】**

- 不妊検査で紹介受診
- 子宮内腔に形態的な異常なし。
- 卵管の透過性正常。
- 造影剤の拡散は問題なく、卵管周囲の造影・貯蓄なし。



**【施設名、住所】**  
 施設名：橋本市民病院  
 住所：和歌山県 橋本市 1-1-1

**【実習のやりかた】**

時間	内容	担当	備考
8:30	朝礼	A.高橋	院内会議室
9:00	往診	B.田中	院内会議室
10:00	子宮造影検査	C.高橋	院内会議室
11:00	検診	D.田中	院内会議室
12:00	午後の診察	E.高橋	院内会議室
13:00	ワクチン接種	F.田中	院内会議室
14:00	外来見学	G.高橋	院内会議室
15:00	退席	H.田中	院内会議室



**南和歌山医療センターの特徴**

- 316床の中規模病院。全ての科が揃っているわけではない。
- 南で唯一の三次救急指定病院である。
- 先生同士の関係性が密である。
- 人がいい。



**保健所の仕事について**

- 保健企画課 - 予防、健康増進、生活習慣病
- 生活保健課 - 食品衛生課、環境保健課、動物愛護管理センター
- 地域保健課 - 感染症対策、健康づくり支援、生活習慣病対策
- 保健対策課 - 感染症対策、生活習慣病対策、健康増進



### 〈交流会の感想〉

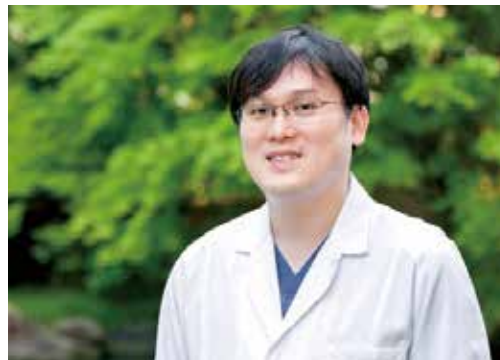
- 学年を超えた交流ができ、有意義だった。
- 他の学生の実習内容や各病院の特徴を共有でき、勉強になった。
- コロナの影響で、自分たちが実習した際よりも多くの業務があると感じた。
- 様々な先生の話が聞いて良かった。
- 実習の話聞き、来年以降の実習も楽しみになった。
- 実習を通じて将来のビジョンが明確になった。



# おわりに

和歌山県立医科大学地域医療支援センター 副センター長・講師  
和歌山県地域医療支援センター 副センター長

## 蒸野 寿紀



今年度はコロナ禍で行われる2度目の夏季実習となりました。年度初めの4月より実習のアウトライン作成、実習先選定、学生への事前説明会などの準備を進め、学内外の関係各所との調整を経て、今年度の夏季実習の実施を決定いたしました。夏季実習開始と新型コロナウイルス感染症流行の第7波が重なり、本学の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための指針でも活動が大きく制限される中ではありましたが、多くの学生が予定通りの実習を行うことができ、学生一人ひとりの実習の成果としての報告書を皆様方にお届けできることを大変嬉しく思います。

レポートの中では、多くの学生が自身の将来に対する前向きな気持ちを述べており、夏季実習が今後、地域医療を担う上で重要な動機付けの機会となっていることを改めて認識しました。また、今年度は実習の風景を写真撮影させて頂き、卒業生の先生方の地域での活躍の様子も垣間見ることができました。レポート本文に関しては、誤字・脱字を訂正し、医学生のレポートとして医学的に必要と思われる修正を加えました。学生が現場で感じてきたことが、なるべくそのまま伝わるよう編集作業を行いましたので、至らない点や適切でない表現もあるかと存じますが、ご容赦頂ければ幸いです。

さて本学では、今年度より文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に選定され、高知大学・三重大学と3大学連携で「黒潮医療人養成プロジェクト」と題した事業を行う予定となっております。本事業は、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することが目的とされています。来年度は夏季実習を核として、医学教育モデル・コア・カリキュラムに照らし合わせ、学内外での連携の中で、さらに実習内容を発展させていきたいと考えています。

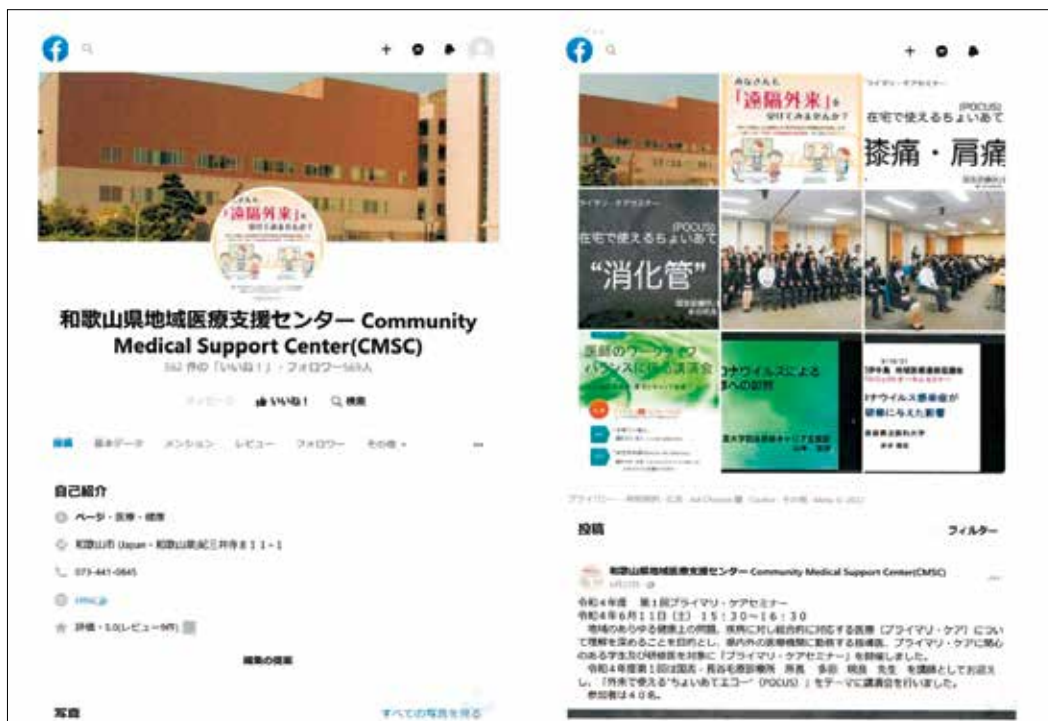
地域医療枠の制度は和歌山県内の地域医療を大きく支える制度となっています。今後も当センターでは、学生教育、卒業医師へのキャリア形成支援を通じ、和歌山県内の地域医療にさらに貢献していきたいと考えています。上野センター長の指揮のもと、教員・事務職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、この場をお借りして、和歌山県内保健所長の先生方、本学地域医療枠卒業生、近畿大学卒業生、自治医科大学和歌山県人会の先生方、実習に関与して頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。





ホームページ・ <http://www.cmssc.jp/>



Facebook・ <https://www.facebook.com/W.CMSC>

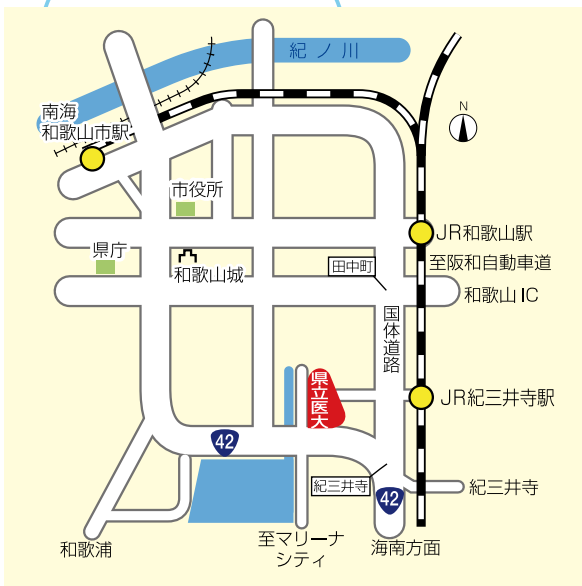
和歌山県地域医療支援センター



## 和歌山県 地域医療支援センター

〒641-8509  
和歌山市紀三井寺811番地1  
TEL：073-441-0845  
FAX：073-441-0846

### アクセス方法



- JR 紀三井寺駅 → 徒歩（約10分）
- JR 和歌山駅 → バス・タクシー
- 南海和歌山市駅 → バス・タクシー



- JR 和歌山駅
  - 1番のりば「医大病院」行 約30分
  - 2番のりば「医大病院」行 約30分
- 南海和歌山市駅
  - 1番のりば「医大病院」行 約50分
  - 2番のりば「医大病院」行 約25分
  - 3番のりば「医大病院」行 約30分

令和4年10月 発行

発行 和歌山県立医科大学地域医療支援センター センター長・教授  
和歌山県地域医療センター センター長

上野雅巳